



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

LAND CRUISER PRADO



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万ーの場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	24
安全なドライブのために	26
シートベルト	28
SRS エアバッグ	32
排気ガスに対する注意	41
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	42
チャイルドシート	43
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	72
オートアラーム	73

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	78
計器類	84
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	87
燃費画面／ESPO 画面	99

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	106
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	110
バックドア	118
バックドアガラス	123
スマートエントリー&	
スタートシステム	128
3-3. シートの調整	
フロントシート	136
リヤシート	138
ポジションメモリー／	
メモリーコール機能	150
ヘッドレスト	153
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	156
インナーミラー	159
ドアミラー	161
補助確認装置	164
3-5. ドアガラス・	
ムーンルーフの開閉	
パワーウィンドウ	166
ムーンルーフ	170

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	176
荷物を積むときの注意	187

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	189
オートマチック トランスミッション	195
方向指示レバー	202
パーキングブレーキ	203
排出ガス浄化装置 （ディーゼル車）	204

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	209
AHB（オートマチック ハイビーム）	213
フォグランプスイッチ	217
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	219
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	224
ヘッドランプクリーナー	226

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	227
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	231
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	237
LDA（レーンディパーチャー アラート [ヨーアシスト 機能付き]）	248
RSA（ロードサイン アシスト）	258
レーダークルーズ コントロール	263
先車発進告知機能	276
ドライブモード セレクトスイッチ	279
クリアランスソナー	281
運転を補助する装置	292
BSM（ブラインド スポットモニター）	298
・BSM 機能	302
・RCTA 機能	305
PKSB（パーキングサポート ブレーキ）	312
パーキングサポートブレーキ （静止物）	320

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	324
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコン・デフォグガーの使い方

オートエアコン	330
シートヒーター & ベンチレーター	336

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	338
・フロント	
・パーソナルランプ	339
・ルームランプ	340
・読書灯	340
・ラウンジ照明調光スイッチ	341

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	343
・グローブボックス	344
・コンソールボックス	345
・カップホルダー／ ボトルホルダー／ ドアポケット	347
・小物入れ	350
・オープントレイ	351
・カードホルダー	352
ラゲージルーム内装備	353

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	357
・サンバイザー	357
・バニティミラー	357
・後席確認ミラー	358
・時計	359
・アクセサリーソケット・ アクセサリーコンセント	360
・アームレスト (セカンドシート)	363
・コートフック	363
・アシストグリップ	364
・ステアリングスイッチ	365

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	368
内装の手入れ	373
タイヤについて	376
タイヤ空気圧について	387

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	389
エンジンルームカバー	391
AdBlue [®] (尿素水) の補充 (ディーゼル車)	393
エアコンフィルターの 交換	398
ウォッシュ液の補給	400
キーの電池交換	402
ヒューズの点検・交換	405
電球 (バルブ) の交換	408

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	420
非常点滅灯 (ハザードランプ)	421
発炎筒	422
車両を緊急停止するには	424
水没・冠水したときは	425

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	426
フューエルポンプ シャットオフシステム (ガソリン車のみ)	433
警告灯がついたときは	434
警告メッセージが 表示されたときは	442
パンクしたときは	448
エンジンがかからない ときは	464
電子キーが正常に 働かないときは	466
バッテリーが あがったときは	468
オーバーヒートした ときは	473
スタックしたときは	477

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・オイル量 など)	480
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	488
--------------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	498
------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	500
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	504
アルファベット順さくいん	506
五十音順さくいん	508

オフロード走行を行う際の注意事項、知っておくと便利な情報、フルタイム4WD、トランスファースイッチやマルチテレインセレクト（装着車のみ）などオフロード走行用の機能については、別冊「オフロード走行取扱書」をお読みください。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客様は、次の装備については別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ・GPS ボイスナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・音声操作システム
- ・ETC2.0 システム
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適合しない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

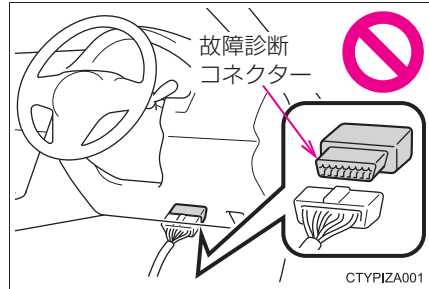
また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数 / 電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー (EDR) が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態 (SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など) が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報 (例：氏名・性別・年齢・衝突場所) は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意 (リース車は借主の同意) がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



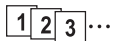
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

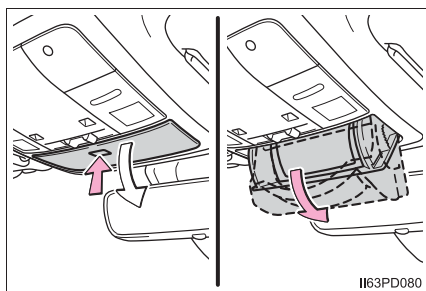
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

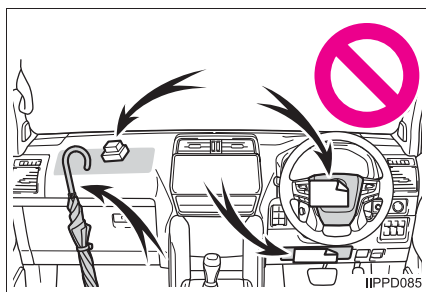
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



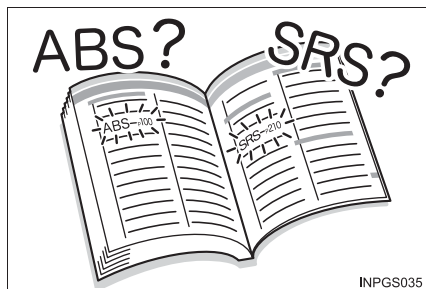
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

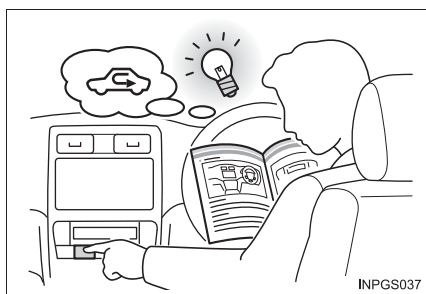
- ・ 五十音順さくいん508
- ・ アルファベット順
さくいん506



INPGS035

■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



INPGS037

■ 症状や音から探す

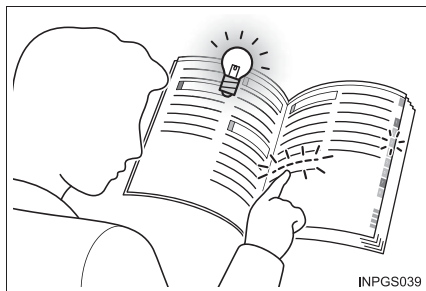
- ・ こんなときは
(症状別さくいん)500
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)504



INPGS038

■ タイトルから探す

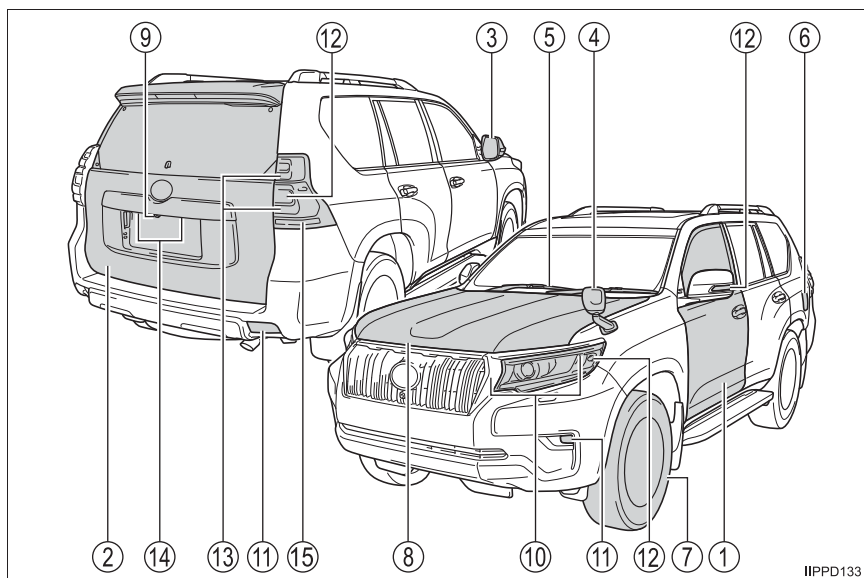
- ・ 目次2



INPGS039

イラスト目次

■ 外観



IIPPD133

- ① ドアP. 110
 - 施錠／解錠P. 110
 - ドアガラスの開閉P. 166
 - メカニカルキーでの施錠／解錠P. 466
 - 警告灯・警告メッセージP. 436, 442
- ② バックドアP. 118
 - 車外から開けるP. 119
 - バックドアガラスP. 123
 - 警告灯・警告メッセージP. 436, 442
- ③ ドアミラーP. 161
 - 鏡面の角度調整P. 161
 - ミラーの格納P. 161
 - 曇りを取る (ミラーヒーター)P. 331
- ④ 補助確認装置★P. 164

- ⑤ **ワイパー**.....P. 219
 - 冬季の注意P. 324
 - 凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★P. 332
 - 洗車時の注意P. 370
- ⑥ **給油口**.....P. 227
 - 給油方法P. 227
 - 燃料の種類・燃料タンク容量P. 480
- ⑦ **タイヤ**.....P. 376
 - サイズ・空気圧P. 486
 - 冬用タイヤ・タイヤチェーンP. 324
 - 点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム★P. 376
 - パンク時の対処P. 448
- ⑧ **ボンネット**.....P. 389
 - 開け方P. 389
 - エンジンオイルP. 480
 - オーバーヒート時の対処P. 473
- ⑨ **カメラ★※**

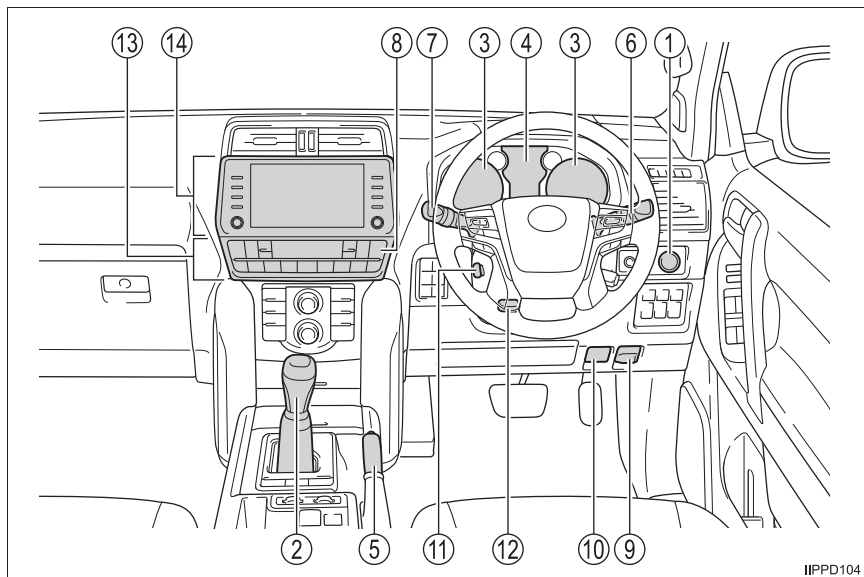
走行に関わる外装のランプバルブ (交換要領：P. 408, ワット数：P. 487)

- ⑩ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト**P. 209
- ⑪ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★**P. 217
- ⑫ **方向指示灯**P. 202
- ⑬ **制動灯／尾灯**P. 209
 - 坂道などでの発進補助※
- ⑭ **番号灯**.....P. 209
- ⑮ **後退灯**
 - シフトポジションを R にするP. 195

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ インストルメントパネル



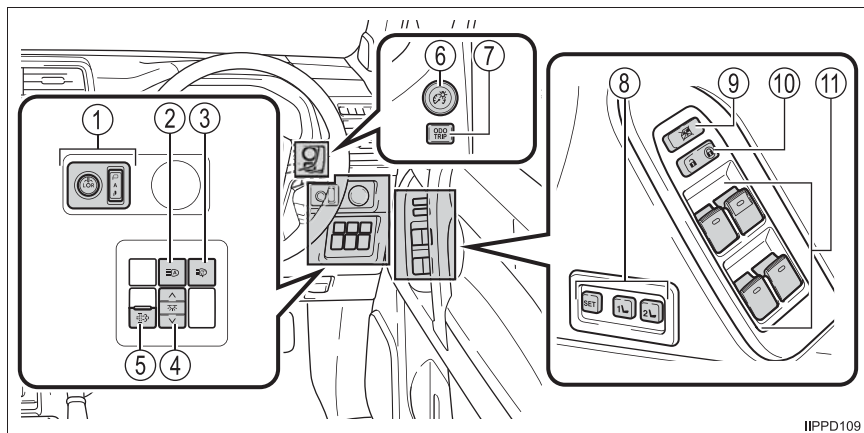
IIPPD104

- ① エンジンスイッチP. 189
 エンジンの始動・モード切りかえP. 189
 エンジンの緊急停止P. 424
 エンジンが始動できないときの対処P. 464
 警告メッセージP. 442
- ② シフトレバーP. 195
 シフトポジションの切りかえP. 195
 けん引時の注意P. 426
 シフトレバーが動かないときの対処P. 200
- ③ メーターP. 84
 見方・明るさの調整P. 84
 警告灯／表示灯P. 78
 警告灯点灯時の対処P. 434

- ④ マルチインフォメーションディスプレイP. 87
 - 表示内容 P. 87
 - 警告メッセージ表示時の対処 P. 442
- ⑤ パーキングブレーキP. 203
 - かける・解除する P. 203
 - 冬季の注意 P. 325
 - 警告ブザー・警告メッセージ P. 87, 438
- ⑥ 方向指示レバーP. 202
 - ランプスイッチP. 209
 - ヘッドランプ・LED デイライト・車幅灯・尾灯 P. 209
 - フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★ P. 217
- ⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチP. 219
 - 使い方 P. 219
 - ウォッシャー液の補充 P. 400
- ⑧ 非常点滅灯スイッチP. 421
- ⑨ 給油口オープナーP. 227
- ⑩ ボンネット解除レバーP. 389
- ⑪ ハンドル位置調整スイッチ★P. 156
 - 調整方法 P. 156
 - 調整位置の登録 P. 150
- ⑫ ハンドル位置調整レバー★P. 156
- ⑬ オートエアコンP. 330
 - 操作方法 P. 330
 - リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）... P. 331
- ⑭ オーディオ★ ※
 - 音楽を聴く ※
 - 電話をかける・受ける（ハンズフリー） ※

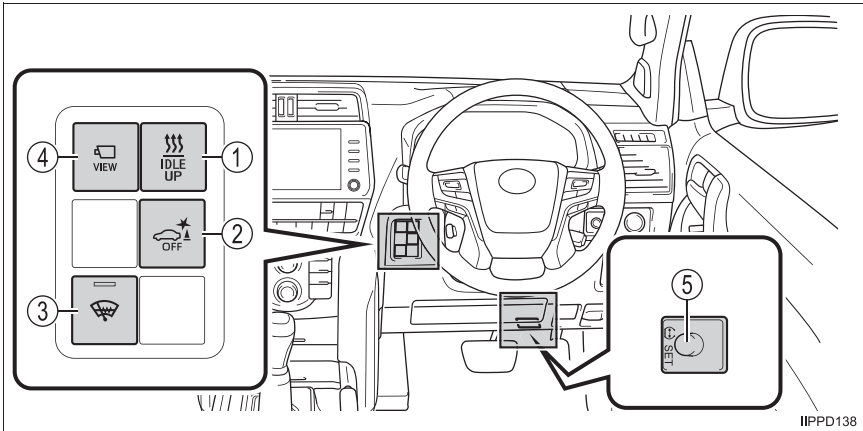
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類



IIPPD109

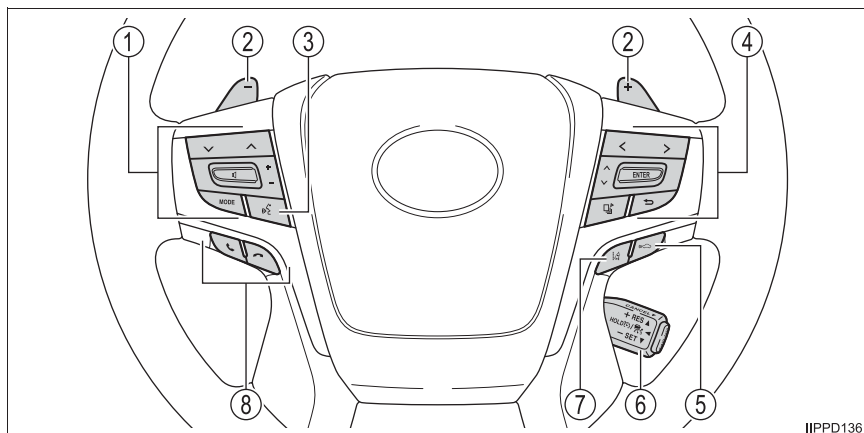
- ① ドアミラースイッチP. 161
- ② オートマチックハイビームスイッチ.....P. 213
- ③ ヘッドランプクリーナースイッチP. 226
- ④ ラウンジ照明調光スイッチ★P. 341
- ⑤ 排出ガス浄化スイッチ★P. 204
- ⑥ メーター照度調整ダイヤル P. 85
- ⑦ オドメーター／トリップメーター切りかえボタン P. 85
- ⑧ ポジションメモリーボタン★P. 150
- ⑨ ウィンドウロックスイッチP. 166
- ⑩ ドアロックスイッチP. 112
- ⑪ パワーウィンドウスイッチP. 166



- ① ヒーターアイドルアップスイッチ★P. 332
- ② PKSB スイッチP. 314
- ③ ウインドシールドデアイサースイッチ★P. 332
- ④ カメラスイッチ★ ※
- ⑤ タイヤ空気圧警報リセットスイッチ★P. 377

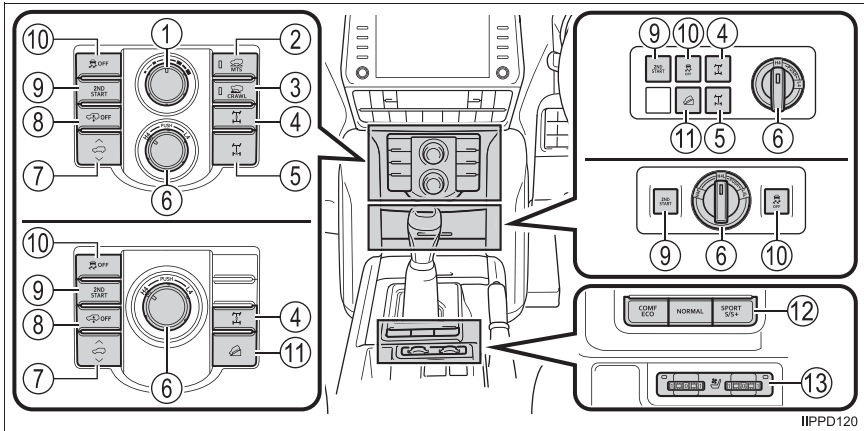
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。



IIPPD136

- ① オーディオ操作スイッチ ※1P. 365
- ② パドルシフトスイッチ★P. 197, 198
- ③ トークスイッチ★ ※1
- ④ メーター操作スイッチP. 88
- ⑤ 車間距離切りかえスイッチP. 263
- ⑥ クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロールP. 263
- ⑦ LDA (レーンディパーチャーアラート) スイッチP. 248
- ⑧ 電話スイッチ ※1P. 365



IIPPD120

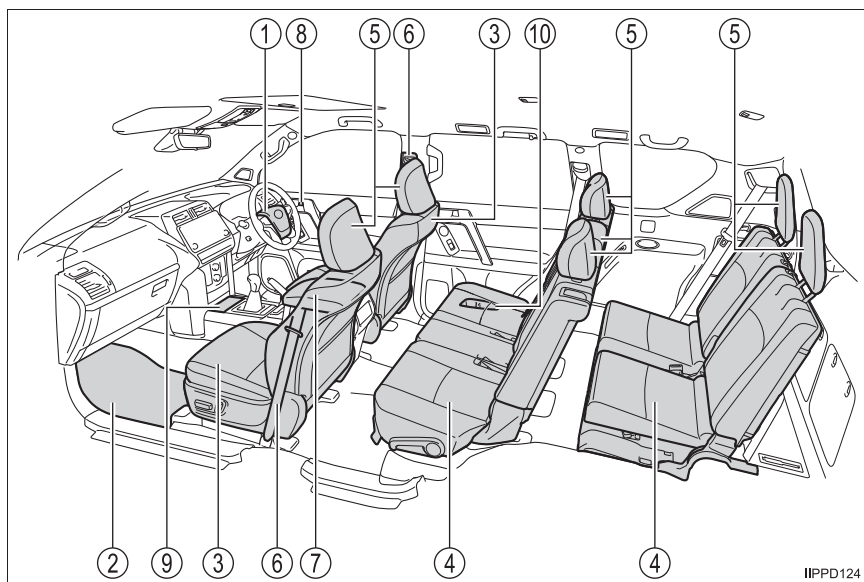
- ① マルチテレインセレクトモードセレクトダイヤル★※2
クロールコントロール速度切りかえダイヤル★※2
- ② マルチテレインセレクト ON / OFF スイッチ★※2
- ③ クロールコントロール ON / OFF スイッチ★※2
- ④ センターデフロックスイッチ★※2
- ⑤ リヤデフロックスイッチ★※2
- ⑥ トランスファースイッチ ※2
- ⑦ 車高切りかえスイッチ★※2
- ⑧ 車高制御 OFF スイッチ★※2
- ⑨ セカンドスタートモードスイッチP. 196
- ⑩ VSC OFF スイッチP. 294
- ⑪ DAC スイッチ★※2
- ⑫ ドライブモードセレクトスイッチ★P. 279
- ⑬ シートヒーター&ベンチレータースイッチ★P. 336

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1：メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

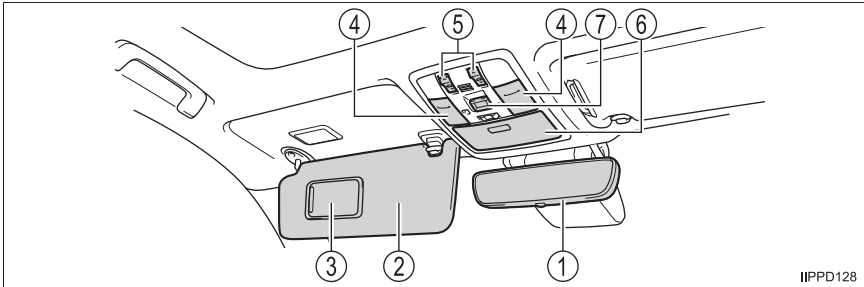
※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ 室内



IIPPD124

- | | | |
|-------------|-------|--------|
| ① SRS エアバッグ | | P. 32 |
| ② フロアマット | | P. 24 |
| ③ フロントシート | | P. 136 |
| ④ リヤシート | | P. 138 |
| ⑤ ヘッドレスト | | P. 153 |
| ⑥ シートベルト | | P. 28 |
| ⑦ コンソールボックス | | P. 345 |
| ⑧ ロックレバー | | P. 112 |
| ⑨ カップホルダー | | P. 347 |
| ⑩ ボトルホルダー | | P. 348 |



IIPPD128

- ① インナーミラーP. 159
- ② サンバイザー ※¹P. 357
- ③ バニティミラーP. 357
- ④ フロントパーソナルランプP. 339
- ⑤ ムーンルーフスイッチ★P. 170
- ⑥ 後席確認ミラーP. 358
 オーバーヘッドコンソールボックスP. 350
- ⑦ ヘルプネットスイッチパネル★ ※²

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 (→ P. 46)



※²：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

- 1-1. 安全にお使いいただくために
 - 運転する前に.....24
 - 安全なドライブのために26
 - シートベルト.....28
 - SRS エアバッグ.....32
 - 排気ガスに対する注意41
- 1-2. お子さまの安全
 - お子さまを乗せるときは42
 - チャイルドシート43
- 1-3. 盗難防止装置
 - エンジンイモビライザー
システム.....72
 - オートアラーム.....73

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

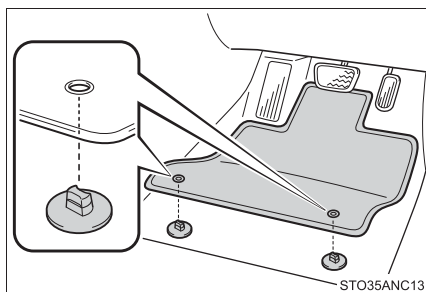
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

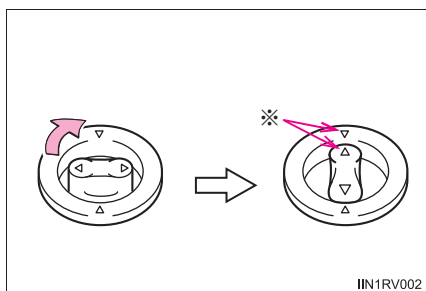
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

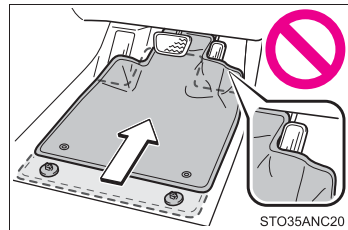
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

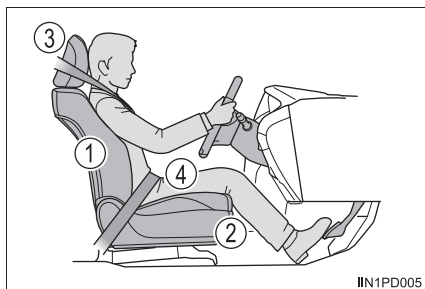


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
(→ P. 136)
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
(→ P. 136)
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする
(→ P. 153)
- ④ シートベルトを正しく着用する (→ P. 28)



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
(→ P. 28)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 43)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→ P. 159, 161)

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

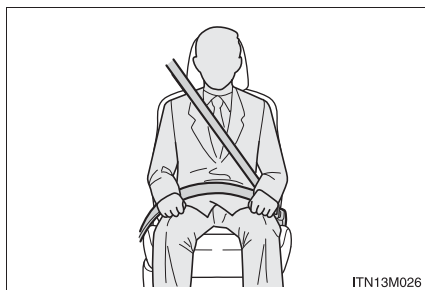
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

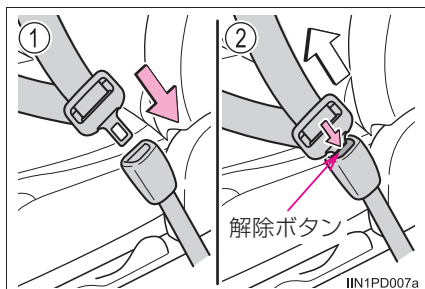
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



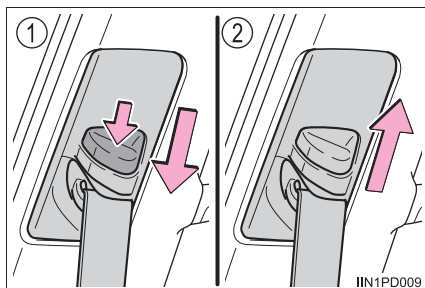
着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトの高さ調節（フロント席・セカンドシート外側席）

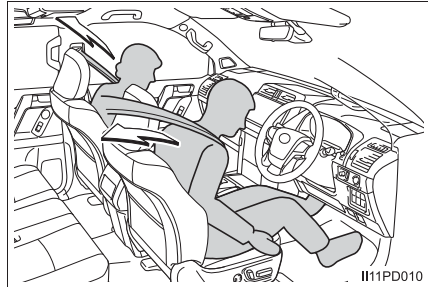
- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 43）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

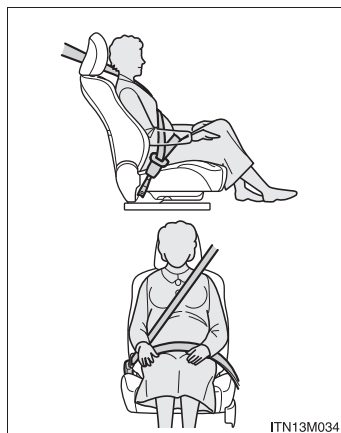
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシート（7人乗り車のみ）に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート（7人乗り車のみ）のシートベルトを使用するときは、シートベルトがシートベルトハンガー（→ P. 142）にかかっていないことを確認する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 28）

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

 **警告****■ お子さまを乗せるときは**

→ P. 65

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

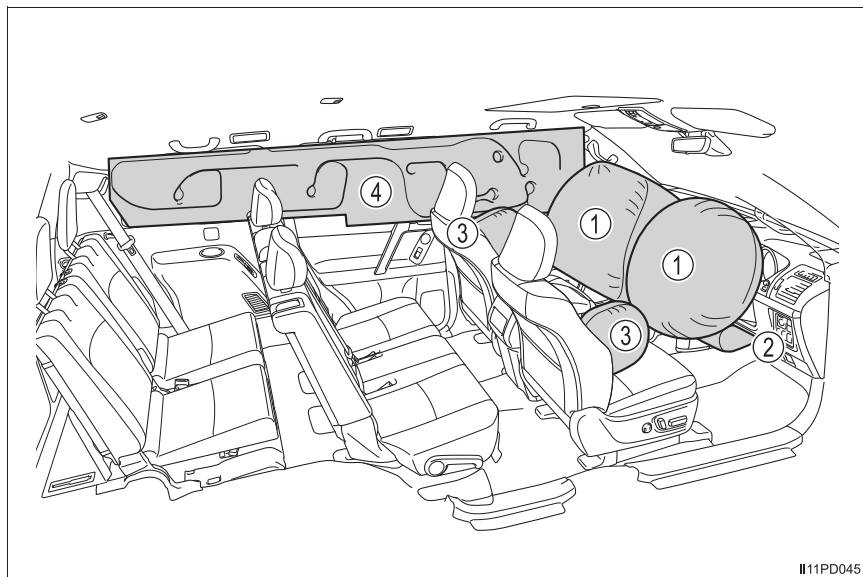
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ

- ③ SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ④ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロントシート・セカンドシート外側席・サードシート ※ 乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

※ 7人乗り車のみ

警告

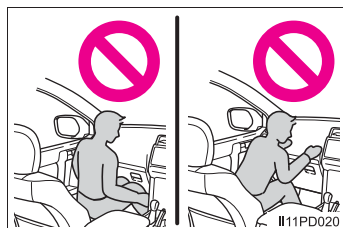
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

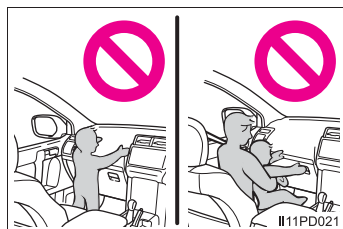
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシート（7 人乗り車のみ）に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
（→ P. 43）

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



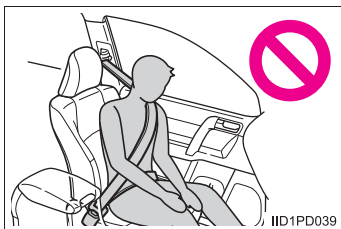
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



警告

■ SRS エアバッグについて

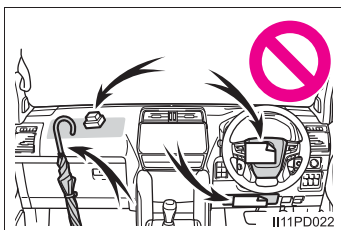
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



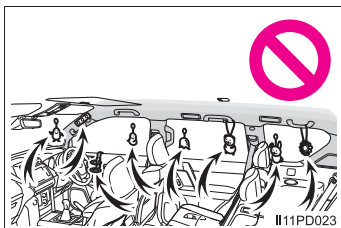
- 助手席やセカンドシート外側席・サードシート（7人乗り車のみ）では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・運転席側のインストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



**警告****■ SRS エアバッグについて**

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部・センターピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

 **警告****■改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが展開すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
 - ・ SRS エアバッグが作動した
 - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
 - ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

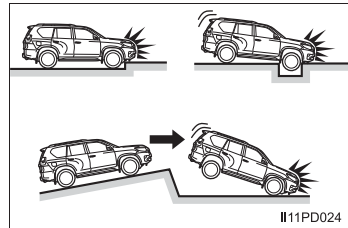
■ SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ)

- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値(約 1.5tの車両が、約 20 ~ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値) 以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動します。

■ 衝突以外で作動するとき (フロント SRS エアバッグ)

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

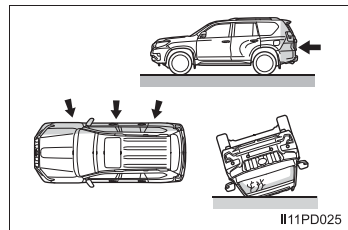
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき (フロント SRS エアバッグ)

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

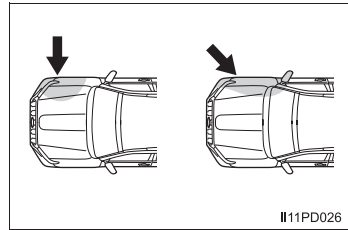
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ)

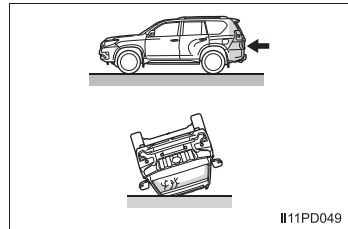
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

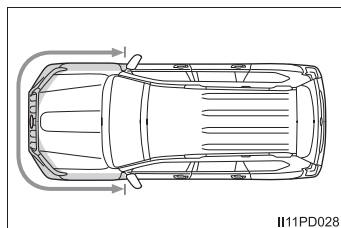
- 後方からの衝突
- 横転



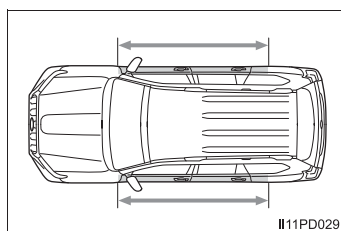
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

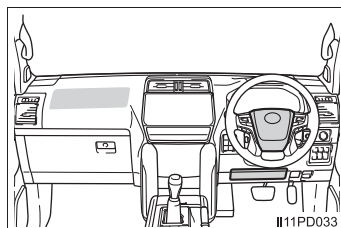
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



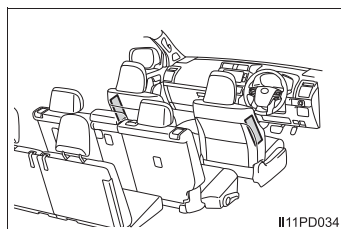
- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



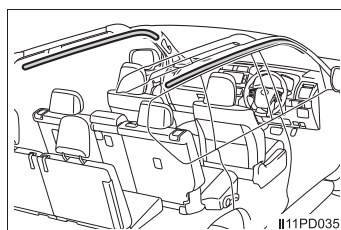
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・運転席側のインストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

（ディーゼル車は、P. 208 の注意も併せて参照してください）

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 43)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター (→ P. 113) ・ウィンドウロックスイッチ (→ P. 166) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→ P. 43)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	P. 43
チャイルドシートを使用するときは	P. 45
シート位置別チャイルドシートの適合性について	P. 48
チャイルドシートの取り付け方法	P. 62
・ シートベルトで固定する	P. 63
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	P. 66
・ トップテザーアンカレッジを使用する	P. 70

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 48)

 **警告****■ お子さまを乗せるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 48）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

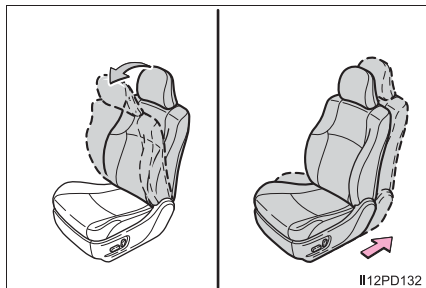
● 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間ですき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

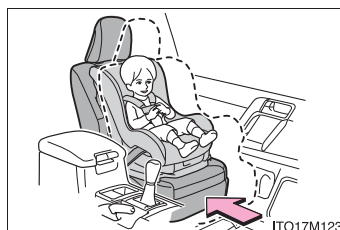
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



II12PD134a

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



IT017M123

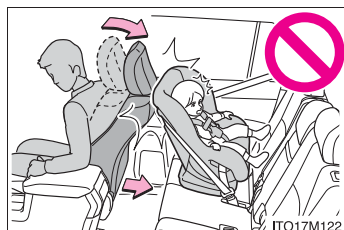
警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リアピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 50）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 58）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44^{※1} に適合したチャイルドシートを使用してください。

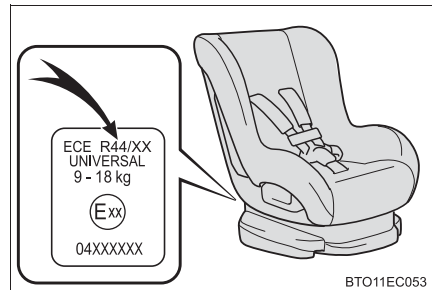
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

UN (ECE) R44 認可マーク
※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



※1 UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

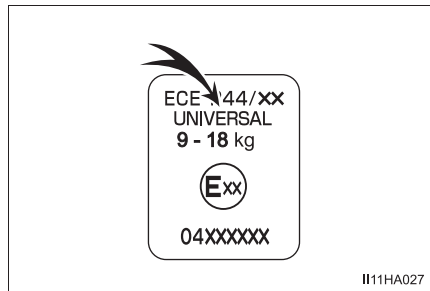
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

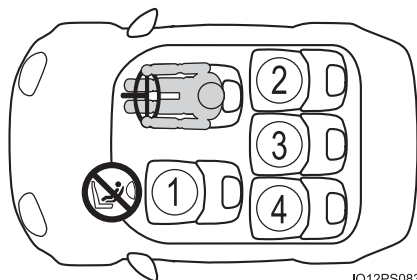
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ 5人乗り車



IO12PS083

① ※1, 2, 3	U ※4 L ※4
② ※2, 3	U L (ISOFIX) (Anchor)
③ ※2, 3	L (ISOFIX) ※5
④ ※2, 3	U L (ISOFIX) (Anchor)



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 58）に記載されたチャイルドシートに適しています。



ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

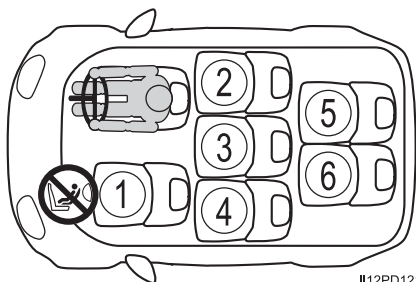
- ※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
 - ※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートとの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- 
- The diagram consists of two side-by-side illustrations of a car seat. The left illustration shows the car seat with its backrest raised to a vertical position. The right illustration shows the car seat with its backrest lowered, and a red circle with a diagonal slash (a prohibition sign) is overlaid on the top right of the seat, indicating that this position is incorrect. The text 'II12PD127' is printed at the bottom right of the diagram.

- ※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。






- ※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

- ※5 中央席専用のトップテザーアンカレッジです。

▶ 7人乗り車



H12PD121

① ※1, 2, 3	U ※4 L ※4
② ※2, 3	L  
③ ※2, 3	L  ※5
④ ※2, 3	L  
⑤ ※2, 3	L
⑥ ※2, 3	L



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 58）に記載されたチャイルドシートに適しています。



ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。

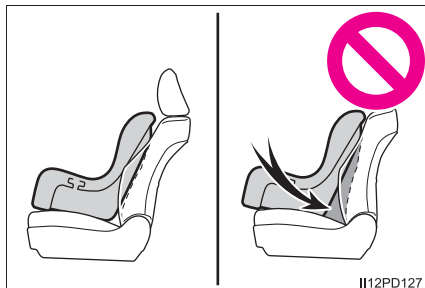


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間ですき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

※5 中央席専用のトップテザーアンカレッジです。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

▶ 5人乗り車

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	無	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 / L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	×	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

▶ 7人乗り車

着座位置						
シート位置の番号	①	②	③	④	⑤	⑥
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向き のみ	無	無	無	無	無
アイサイズ着座位置（有／無）	無	無	無	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 / L2）	×	×	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	×	×	×	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	B2, B3	×	B2, B3	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

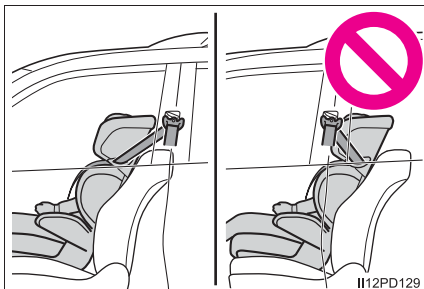
▶ 5人乗り車

質量 グループ	推奨チャイルドシート	着座位置			
		①	②	③	④
0、0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
I (9 ~ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向き のみ	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
II、III (15 ~ 36kg)	トヨタ純正 ジュニアシート	○	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

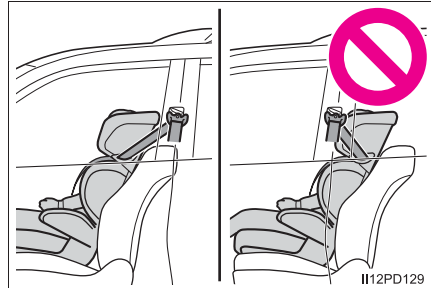
▶ 7人乗り車

質量 グループ	推奨チャイルドシート	着座位置					
		①	②	③	④	⑤	⑥
0、0+ (13kgまで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○	×	×
I (9～18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向き のみ	○	○	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○	×	×
II、III (15～36kg)	トヨタ純正 ジュニアシート	○	○	○	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

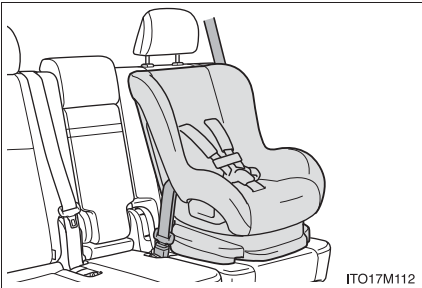

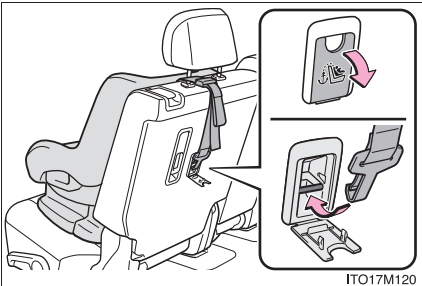
- セカンドシートまたはサードシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートが前の座席と干渉しないようにフロントシートまたはセカンドシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルト で固定する		P. 63
ISOFIX ロア アンカレッジ で固定する		P. 66
テザーベルト を固定する		P. 70

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

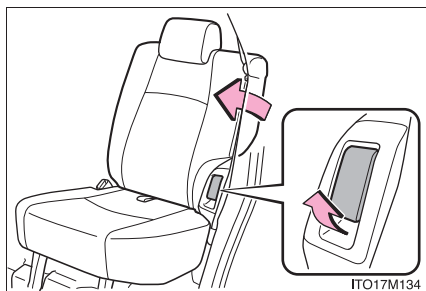
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 49, 50）

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 45）
- 2 背もたれの角度を調整する

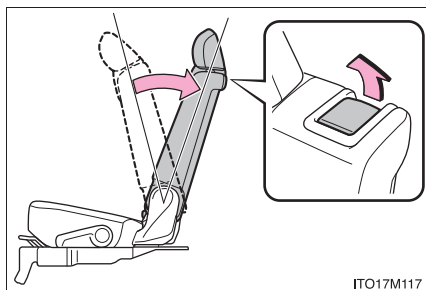
▶ セカンドシート（5人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、背もたれをいっぱいまで前に起こします。（→ P. 138）




▶ セカンドシート（7人乗り車）

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。（→ P. 138）



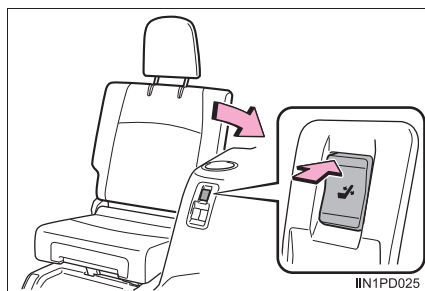
▶ サードパワーシート

チャイルドシートをサードシ-

ートに取り付けるときは、 の

上側を押して、背もたれをいっぱいまでうしろに倒します。

(→ P. 138)

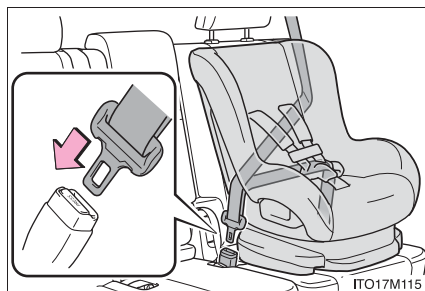


IN1PD025

- 3** ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 153)

- 4** チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで押し込む。ベルトがねじれていないようにする

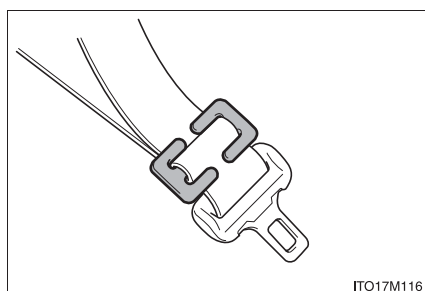
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



ITO17M115

- 5** チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ (別売) を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロックングクリップ品番: 73119-22010)



ITO17M116

- 6** 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→ P. 65)

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がる場合があります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。



警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

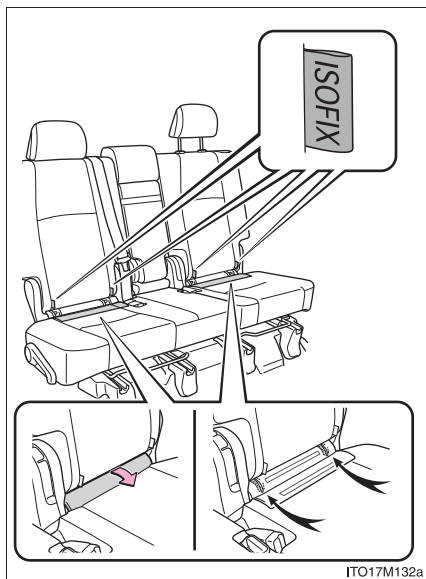
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はセカンドシート外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

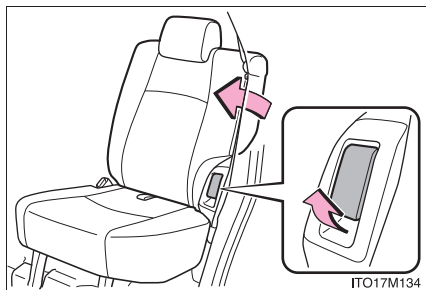
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にある)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 49, 50)

1 背もたれの角度を調整する

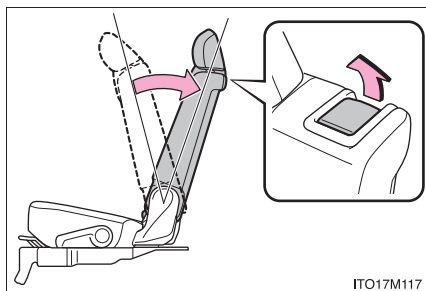
▶ セカンドシート (5人乗り車)

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、背もたれをいっぱいまで前に起こします。(→ P. 138)



▶ セカンドシート (7人乗り車)

チャイルドシートをセカンドシートに取り付けるときは、レバーを引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。(→ P. 138)



- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 153)

3 固定専用バーの位置を確認する

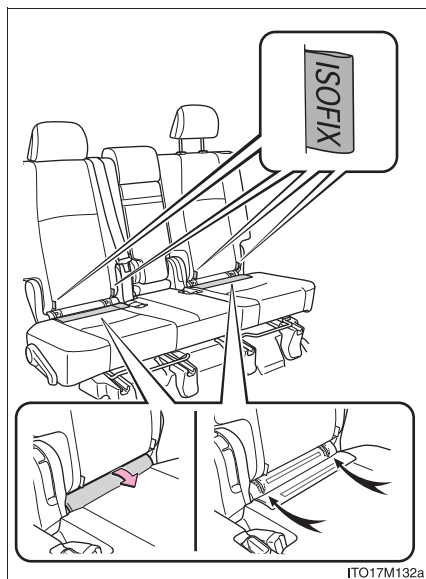
▶ 5人乗り車

固定専用バーはシートクッションの奥にあります。

▶ 7人乗り車

固定専用バーはカバーの下側にあります。

図は7人乗り車で代表しています。

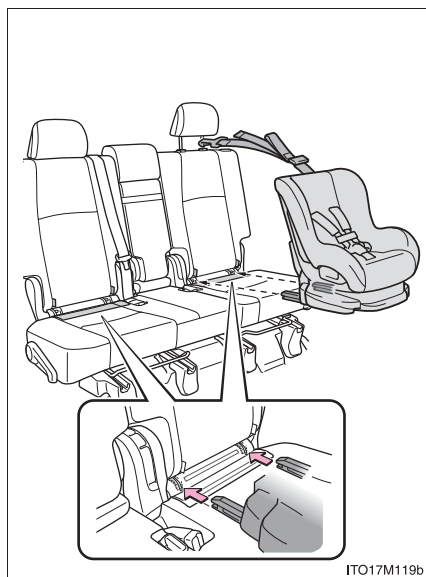


ITO17M132a

4 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。



ITO17M119b

5 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→ P. 65)

 **警告****■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

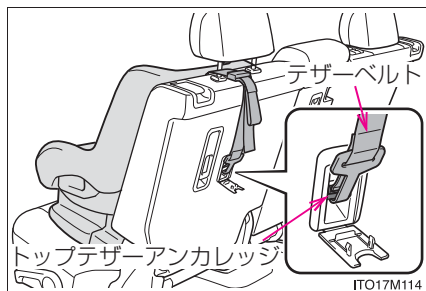
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はセカンドシートのそれぞれの座席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



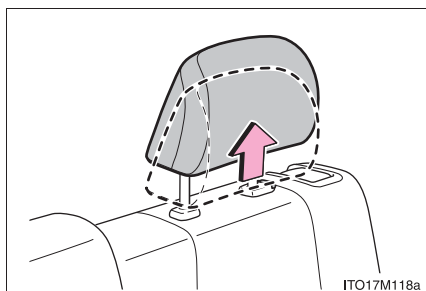
■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→ P. 153)

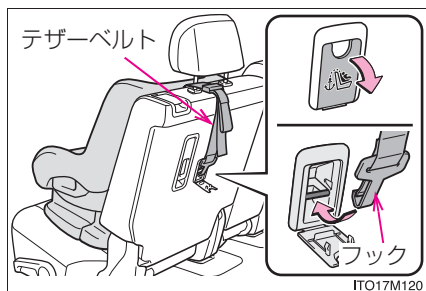
図は7人乗り車で代表しています。



2 フタを開けて、トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→ P. 65)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



 **警告****■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

 **注意****■トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

エンジンモビライザーシステム

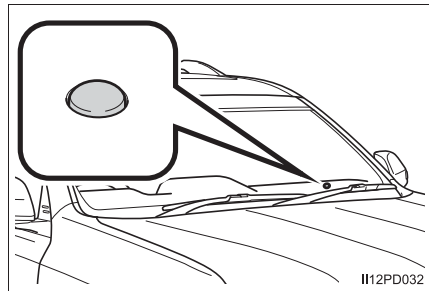
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

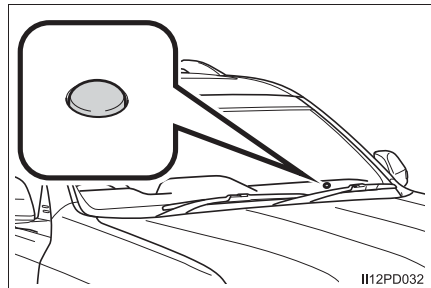
- 施錠されたドアまたはバックドアガラスが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
 - ボンネットが開けられたとき
- ※ T-Connect をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合、メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／サービスの使い方／マイカー Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

全ドア・ボンネット・バックドアガラスを閉め、すべてのドアを施錠 ※ します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケータは点灯から点滅にかわります。

- ※ メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームはセットされません。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

 知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

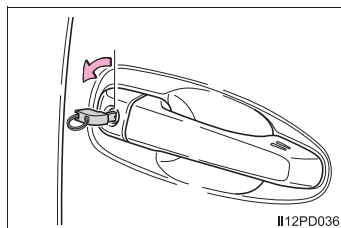
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

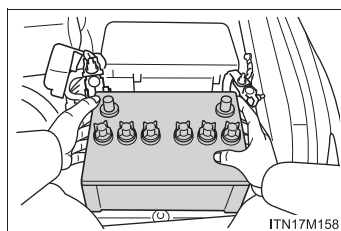
- メカニカルキーにより、ドアを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき(→ P. 471)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■ カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したときのオートアラーム解除などを設定できません。(カスタマイズ一覧：→ P. 488)

注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

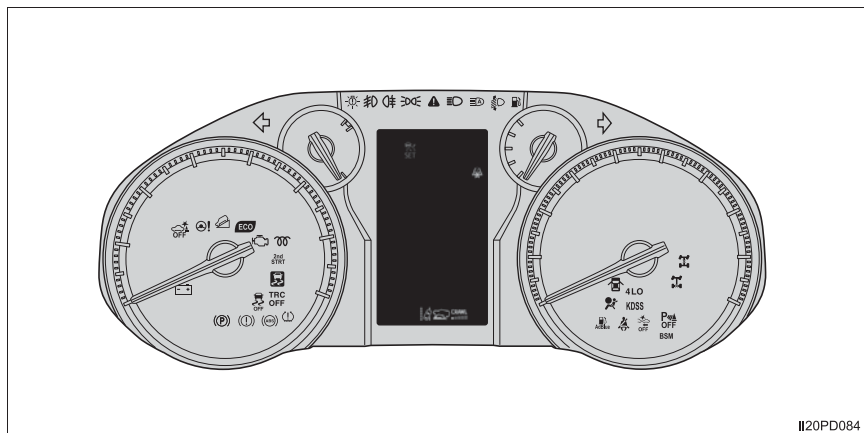
メーターの見方

2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯.....	78
計器類.....	84
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	87
燃費画面／ESPO画面.....	99

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。



I120PD084

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 434)



マスターウォーニング
(→ P. 436)



半ドア警告灯
(→ P. 436)



ブレーキ警告灯
(→ P. 434)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 436)



充電警告灯
(→ P. 434)



燃料残量警告灯
(→ P. 436)



エンジン警告灯
(→ P. 434)



KDSS 警告灯★
(→ P. 435)



油圧警告灯 (→ P. 434)



(点滅または点灯)

PCS 警告灯 (→ P. 436)



高水温警告灯 (→ P. 434)



LED ヘッドランプ警告灯
(→ P. 435)



SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯
(→ P. 435)



タイヤ空気圧警告灯★
(→ P. 436)



ABS & ブレーキアシスト警告灯 (→ P. 435)



ヘッドランプオートレベリング警告灯 (→ P. 435)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 435)



(橙色)

LDA 表示灯 (→ P. 438)



スリップ表示灯(点灯したままのとき) (→ P. 435)



AdBlue[®] 残量警告灯★
(→ P. 436)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 437)



PKSB OFF 表示灯
(→ P. 437)



クリアランスセンサー OFF
表示灯 (→ P. 437)



※2

ブレーキオーバライドシ
ステム警告灯 (→ P. 437)
／ドライブスタートコント
ロール警告灯 (→ P. 437)
／PKSB 警告灯
(→ P. 437)

- ※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。
- ※3 エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、半ドア警告灯の点灯に併せて、マルチインフォメーションディスプレイ上に、半ドア警告表示が表示されます。(→ P. 444)

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯 (→ P. 202)		※1, 3 VSC OFF 表示灯 (→ P. 294)
	ハイビーム表示灯 (→ P. 211)		※1, 3 TRC OFF 表示灯 (→ P. 294)
	尾灯表示灯 (→ P. 209)		予熱表示灯★ (→ P. 189)
	オートマチックハイビーム 表示灯 (→ P. 213)		2nd STRT 表示灯 (→ P. 196)
	フロントフォグランプ 表示灯 (→ P. 217)		※4 L4 作動表示灯
	リヤフォグランプ表示灯★ (→ P. 218)		※4 センターデフロック作動 表示灯
	※1 エコドライブインジケーター ランプ (→ P. 83, 96)		※4 リヤデフロック作動 表示灯★
	※2 クルーズコントロール 表示灯 (→ P. 263)		※1, 3 PCS 警告灯 (→ P. 436)
	※2 レーダークルーズコント ロール表示灯 (→ P. 263)		※2, 4 クルーズコントロール 表示灯★
	※2 クルーズコントロールセッ ト表示灯 (→ P. 263)		※2, 4 マルチトレインセレクト 表示灯★
	※1 スリップ表示灯 (→ P. 293) (点滅)		※2, 4 MTS AUTO インジケー ターランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



※5, 6

BSM (ブラインドスポット
モニター) ドアミラーイン
ジケータ―★ (→ P. 298)



BSM (ブラインドスポット
モニター) 表示灯★
(→ P. 298)



※3

クリアランスソナー OFF
表示灯 (→ P. 281)



※3

PKSB OFF 表示灯
(→ P. 314)



※2, 7

LDA 表示灯 (→ P. 248)



※2

スマートエントリー&
スタートシステム表示灯
(→ P. 189)



※1, 4

ダウンヒルアシストコント
ロール表示灯★



※2

エコドライブモード表示灯★
(→ P. 279)



※2

スポーツ S モード表示灯★
(→ P. 279)



※2

スポーツ S+ モード
表示灯★ (→ P. 279)



※2

コンフォートモード表示灯★
(→ P. 279)



※2

低温表示灯 (→ P. 95)

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

※3 システムが OFF のときに点灯します。

※4 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

※5 作動確認のため次の条件のときインジケータ―が点灯します。

- ・ BSM メインスイッチが ON の状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
- ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき

システムが正常であればインジケータ―は数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※6 ドアミラーに表示されます。

※7 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エコドライブインジケータランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。(→ P. 96)

次の場合、エコドライブインジケータは作動しません。

- シフトポジションが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチ★を操作しているとき
- セカンドスタートモード (→ P. 196) を使用しているとき
- ドライブモードセレクト装着車：スポーツモードを使用しているとき (→ P. 279)
- 車速が約 100km/h 以上のとき
- クローラールコントロール装着車：クローラールコントロールを使用しているとき ※

※ 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。



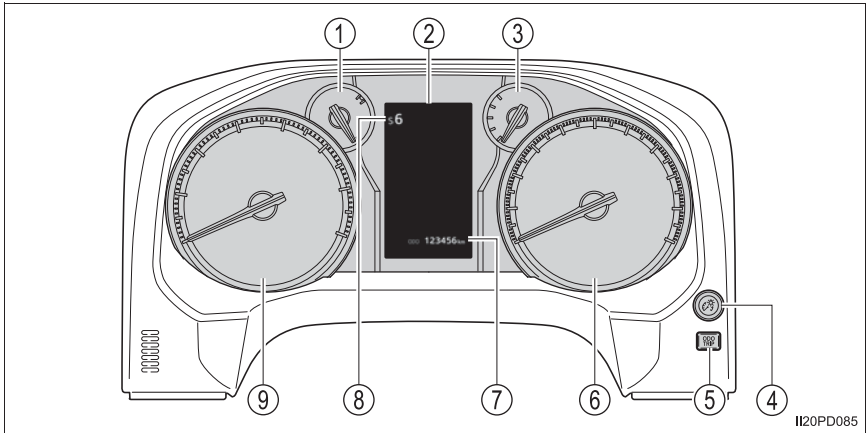
警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類



I120PD085

- ① 水温計
エンジン冷却水の温度を示します。
- ② マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 87)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→ P. 442)
- ③ 燃料計
燃料残量を示します。
- ④ メーター照度調整ダイヤル
→ P. 85
- ⑤ オドメーター／トリップメーター切りかえボタン
→ P. 85
- ⑥ スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ⑦ オドメーター・トリップメーター
→ P. 85
- ⑧ シフトポジション・シフトレンジ表示
選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→ P. 195)
- ⑨ タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。

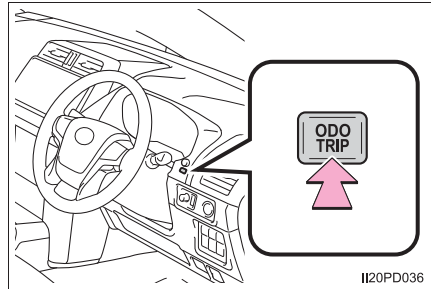
オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

- オドメーター
走行した総距離を表示します。
- トリップメーター A /トリップメーター B
リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の2種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

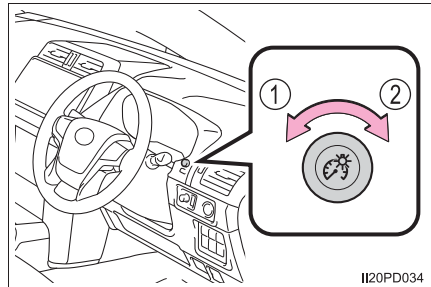
ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を0にもどします。



メーター照度調整

ダイヤルをまわしてメーター照明の明るさを調整できます。

- ① 暗くなる
- ② 明るくなる



 知識■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **メーター照度の減光制御について**

ランプスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。

ただし、メーター照度調整ダイヤルを右側いっぱいにまわした状態では、ランプスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。また、このときナビゲーション画面[※]は夜画表示には切りかわりません。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

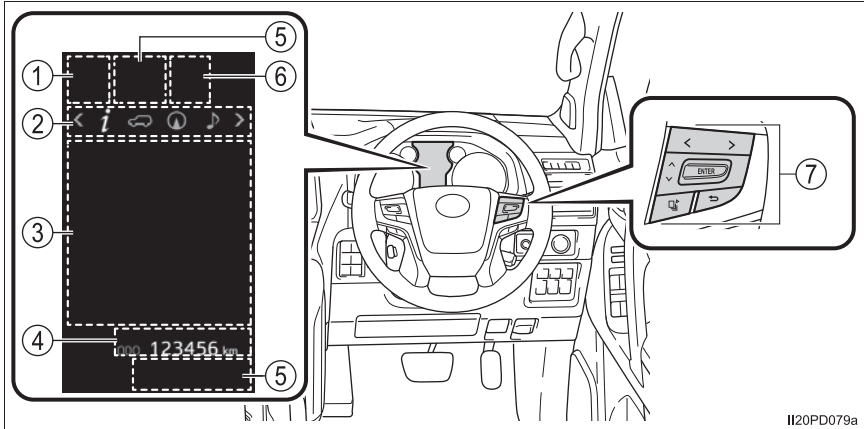
 **注意**■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 473）

マルチインフォメーションディスプレイ

機能概要

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示したり、設定を切りかえることができます。



① シフトポジション表示 (→ P. 195)

② メニューアイコン表示エリア

メニューアイコンの切りかえ操作をしていないときは外気温が表示されています。

- ・メニューアイコン (→ P. 88)
- ・外気温 (→ P. 95)

③ コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを切りかえることにより、さまざまな情報を表示することができます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

- ・各メニューの表示内容 (→ P. 88)
- ・警告メッセージ (→ P. 442)

④ オドメーター／トリップメーター表示エリア (→ P. 84)

⑤ 表示灯 (→ P. 78, 95)

⑥ RSA (ロードサインアシスト) 表示

RSA (ロードサインアシスト) の情報を表示します。(→ P. 258)

⑦ メーター操作スイッチ (→ P. 88)

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① メニューの切りかえ
- ② 上下に操作：
画面の切りかえ・カーソルの移動
押す：
決定・次画面へ移動※・機能のON/OFF

※ 一部の機能のみ

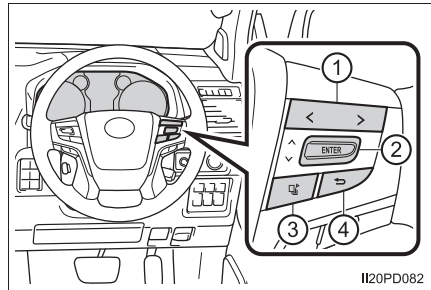
- ③ 短押し：
スイッチに登録した画面を表示する

未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

長押し：
表示中の画面をスイッチに登録する

登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。

- ④ ひとつ前の画面にもどる



メニューアイコン



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 90)



車両情報

車両に関する情報を表示します。(→ P. 92)



ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して、方位計などを表示します。

また、ナビゲーションシステムで目的地案内中に交差点案内が行われると、マルチインフォメーションディスプレイにも交差点案内が表示されます。

目的地の設定・地図の向きの変更などについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



オーディオシステム連携表示★

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。



走行支援機能情報


次のシステムの作動状況を表示します。

- ・ LDA(レーンディパーチャーアラート[ヨーアシスト機能付き]) (→P. 248)
- ・ RSA (ロードサインアシスト) (→P. 258)
- ・ レーダークルーズコントロール (→P. 263)



警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→P. 442)

- ・ 警告メッセージがないときは、「メッセージなし」と表示されます。
- ・ 複数の警告メッセージがあるときは、メーター操作スイッチ (→P. 88) の  を上下に操作して警告メッセージを切りかえることができます。




設定

メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。(→P. 93)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチの  を上下に操作することで項目を選択できます。

■ 始動後

① 平均燃費 [※]

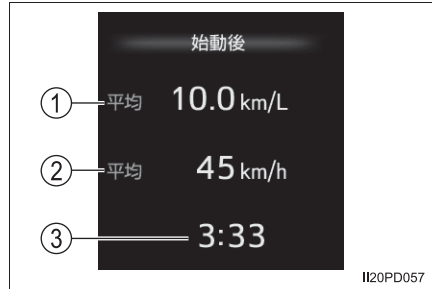
エンジン始動後の平均燃費を表示します。

② 平均車速

エンジン始動後の平均車速を表示します。

③ 走行時間

エンジン始動後の経過時間を表示します。



[※] 表示される燃費は参考として利用してください。

■ リセット後

① 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

② 平均燃費 ^{※1, 2}

リセット後の平均燃費を表示します。

③ 平均車速 ^{※2}


リセット後の平均車速を表示します。

④ 走行時間 ^{※2}

リセット後の経過時間を表示します。



^{※1} 表示される燃費は参考として利用してください。

^{※2} リセットするには、メーター操作スイッチの  を長押しします。

■ 給油後

① 航続可能距離 ※1, 2

燃料残量による走行可能な距離を表示します。

② 平均燃費 ※2, 3

給油後の平均燃費を表示します。



※1 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

※2 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

※3 表示される燃費は参考として利用してください。

■ エコドライブインジケータゾーン表示

→ P. 96

■ デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

■ 排出ガス浄化装置堆積モニター★

排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススの堆積量を確認することができます。(→ P. 206)

■ AdBlue® 残量表示★


AdBlue® 残量を表示します。(→ P. 394)

■ 非表示

ドライブインフォメーションを非表示にします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両情報

メーター操作スイッチの  を上下に操作することで項目を選択できます。

■ フロントタイヤ方向表示

現在のフロントタイヤの方向（切れ角）の目安を表示します。

タイヤの方向表示は、タイヤの角度に応じて、左右それぞれ 3 段階に切りかわります。

バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にタイヤの方向表示が表示されないことがあります。タイヤの方向表示が表示されないときは、しばらく走行することで表示されます。

■ タイヤ空気圧表示★

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

スペアタイヤの空気圧も表示されます。

■ 傾斜計

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ トラクションモニター

→ 別冊「オフロード走行取扱書」


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



設定

各装備の機能の On/Off や設定変更などができます。

■ 設定変更のしかた

- 1 1 メーター操作スイッチの  を上に操作して設定変更したい項目を選択し、 を押す

一部の装備で機能の On/Off を選択する項目では、 を押すたびに On/Off が切りかわります。

- 2 2 表示内容に従って  を上下に操作し、設定内容を選択して  を押す

■ 設定項目

-  LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き])

LDA の設定を変更できます。(→ P. 248)

- ・ヨーアシスト機能の On/Off
- ・警報手段
- ・警報ブザーが吹鳴する感度
- ・ふらつき検知機能の On/Off
- ・ふらつき検知機能の感度調整

-  クリアランスソナー

クリアランスソナーの設定を変更できます。(→ P. 281)

- ・クリアランスソナー機能の On/Off
- ・ブザー音量

-  BSM (ブラインドスポットモニター) ★

BSM の設定を変更できます。(→ P. 298)


- ・BSM 機能の On/Off

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)

PCS の設定を変更できます。(→ P. 241)

- ・衝突警報感度
- ・PCS 機能の On/Off

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●  RSA (ロードサインアシスト)

RSA の設定を変更できます。(→ P. 258)

- ・ RSA 機能の On/Off
- ・ 告知車速
- ・ 告知手段

● 先行車発進告知

先行車発進告知の設定を変更できます。(→ P. 276)


- ・ 先行車発進告知機能の On/Off
- ・ 告知距離

● 表示設定


次の項目を設定することができます。(→ P. 494)

- ・ 言語

マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を選択することができます。

- ・  エコドライブインジケーターステップランプ

エコドライブインジケーターステップランプの表示/非表示を選択することができます。

- ・  スイッチ設定

トップ画面を変更する方法を表示します。

- ・ 割り込み表示★

選択した機能の割り込み表示を On/Off できます。(→ P. 96)

- ・ 車両表示

タイヤ空気圧表示 (→ P. 377) ★・傾斜計 ※ で表示される、車両の画像を変更することができます。On にすると、バックドアにスペアタイヤが装着された画像になります。

実際のスペアタイヤ装着位置 (フロア下) と同じ、Off でのご使用をおすすめします。

※ 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

- ・ 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の機能

■ ドライブモード表示★

→ P. 279

■ リヤハイトコントロールエアサスペンション表示★

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ マルチテレインセレクトの表示★

→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ クロールコントロールの表示★


→ 別冊「オフロード走行取扱書」

■ 外気温

外気温を表示します。

－ 40℃～50℃のあいだで表示します。

外気温度が 3℃以下となった場合に凍結しているおそれがあることを知らせる

ため、 が約 10 秒間点滅後に、点灯します。

■ メーターカスタマイズ機能

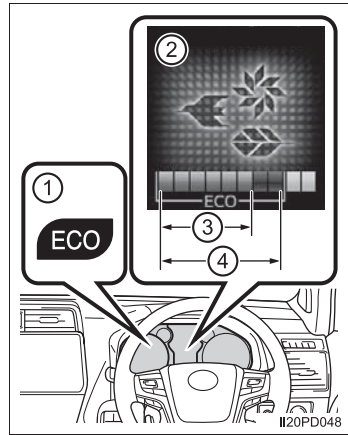
→ P. 494

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ エコドライブインジケーター

- ① エコドライブインジケーターランプ
(→ P. 83)
- ② エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。
- ③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。
- ④ エコ運転の範囲



■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

- 警告メッセージが表示されたとき
- 走行し始めたとき

■ 割り込み表示について

次の機能の作動状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイには、一時的に割り込み画面が表示されます。

- 交差点案内★
- 電話着信★

割り込み表示の ON / OFF を設定できます。(→ P. 93)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧表示について（タイヤ空気圧警報システム装着車）

- エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。
- 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは“---”と表示されることがあります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

 **警告****■ 走行中の警告**

メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ ディスプレイの設定を変更するとき**

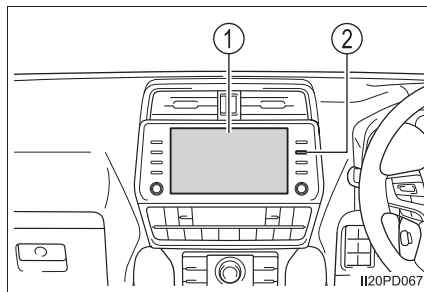
バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面★ / ESPO 画面★

燃費に関する情報をナビゲーション画面に表示します。

システムの構成部品

- ① ナビゲーション画面
- ② “MENU” スイッチ



表示のしかた

- 1 「MENU」 スイッチを押し、「情報」を選択する
- 2 「情報」画面の「エコ情報」を選択する
- 3 「トリップインフォメーション」または「燃費履歴」を選択する

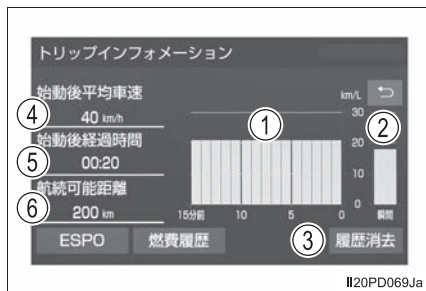
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃費画面の見方

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択してください。

- ① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）
- ② 瞬間燃費
- ③ 履歴消去
- ④ エンジン始動後平均車速
- ⑤ エンジン始動後経過時間
- ⑥ 航続可能距離



平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択してください。

① 過去最高値表示

② 最新値表示

③ 過去平均燃費表示

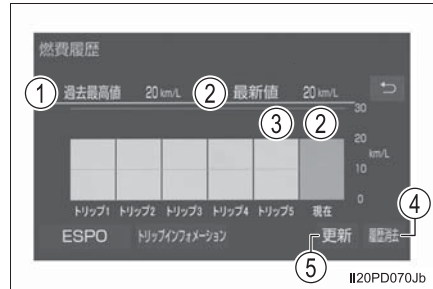
平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

⑤ 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



□ 知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

ESPO 画面の見方

① エコレベル平均値

エコレベルインジケータの平均値を表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

② エコレベルメーター

エコ運転のレベルを表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

③ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

④ 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑤ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1分ごとの平均燃費を最大15分前までグラフ表示します。今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 更新スイッチ *

走行情報などがトヨタスマートセンターへ送信されます。

⑦ エコカルテスイッチ *

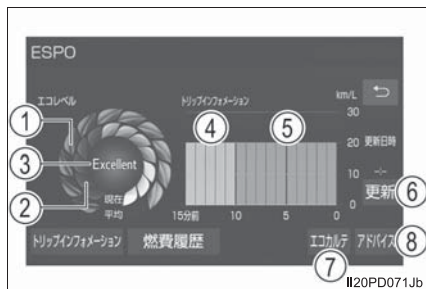
お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO₂排出量・平均燃費が表示されます。

⑧ アドバイススイッチ

- ・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。よいところを確認したり、さらによくするにはどうしたらよいかを知ることができます。
- ・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ T-Connect をご利用されているときに表示されます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



 知識**■ トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について**

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作**3**

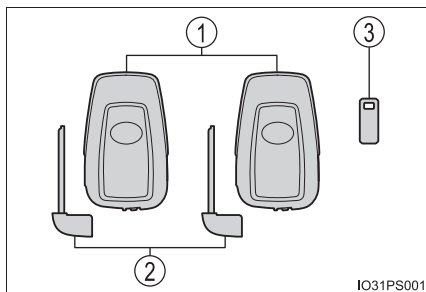
3-1. キー	
キー	106
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	110
バックドア	118
バックドアガラス	123
スマートエントリー& スタートシステム	128
3-3. シートの調整	
フロントシート	136
リヤシート	138
ポジションメモリー/ メモリーコール機能	150
ヘッドレスト	153
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	156
インナーミラー	159
ドアミラー	161
補助確認装置	164
3-5. ドアガラス・ ムーンルーフの開閉	
パワーウインドウ	166
ムーンルーフ	170

キー

キーについて

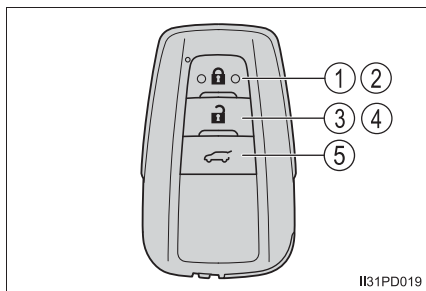
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 128)
 - ・ ワイヤレス機能の作動
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

- ① ドアの施錠 (→ P. 110)
- ② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※ (→ P. 110)
- ③ ドアの解錠 (→ P. 110)
- ④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※ (→ P. 110)
- ⑤ バックドアガラスの解錠 (→ P. 123)



※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。(→ P. 488)

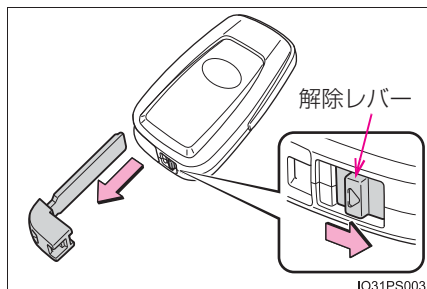
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キーの溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 466)



知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じて、グローブボックスを施錠 (→P. 344) します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所 (財布の中など) に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない電池はお客様自身で交換することができます (→ P. 402) が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での変換をおすすめします。
- 長時間使用しない電子キーの電池消耗を抑えることができます。(→ P. 131)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■ 電池の交換方法

→ P. 402

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

 **注意****■ キーの故障を防ぐために**

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- むらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

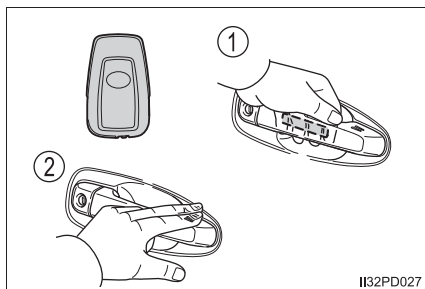
- ① フロント席ドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

- ② フロント席ドアハンドル上側、または下側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



II32PD027

◆ ワイヤレスリモコン

- ① 全ドアを施錠する

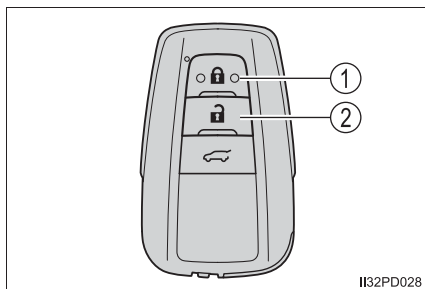
押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

必ず施錠されたことを確認してください。

- ② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。（→ P. 488）



II32PD028

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動の合図

ドア：

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスとムーンルーフ★：

ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

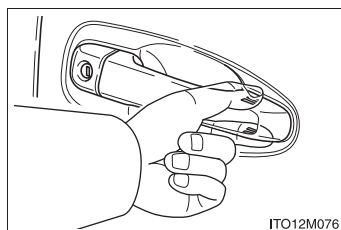
■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアまたはバックドアガラスを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



3

各部の操作

■ 半ドア警告ブザー

ドアまたはバックドアガラスが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。

ドアまたはバックドアガラスを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 73)

■ スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 466)

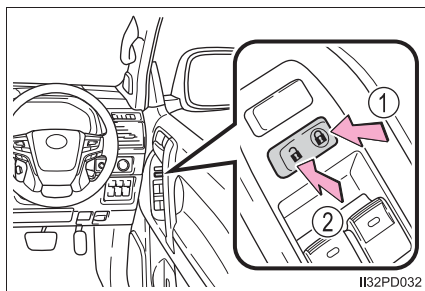
●電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→ P. 402)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

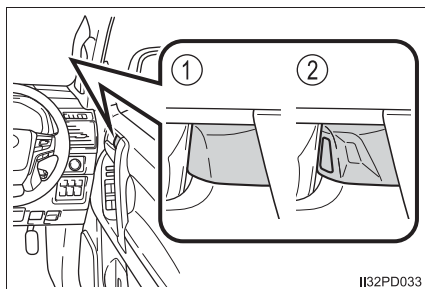
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

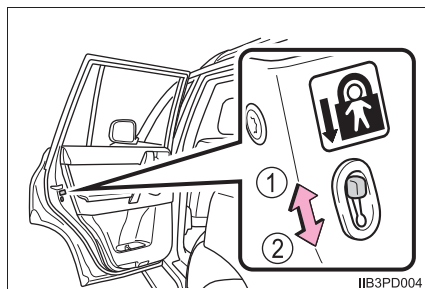
エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアアンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 489 を参照してください。



機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

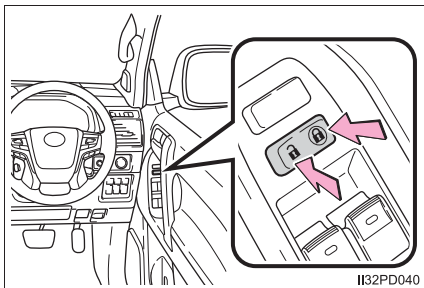
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの画面からでも、設定の変更が行えます。(→ P. 488)

- 1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（その後 20 秒以内に手順 **2** を行う）





- 2 シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの  または  を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



I132PD040




機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチ
シフト操作連動ドアロック	P	
シフト操作連動アンロック		
車速感应オートドアロック	N	
運転席ドア開連動アンロック		

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。



 知識


■ 解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 電子キー表面のインジケーターが点滅していないことを確認後、 ボタンと同時に、 ボタンまたは ボタンのいずれかを約 5 秒間押し続ける

設定を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと、5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (3 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (2 回) 車内：“ポーン” (1 回)

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→ P. 73)

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 466)

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 132

■ カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 488)

 **警告****■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドア

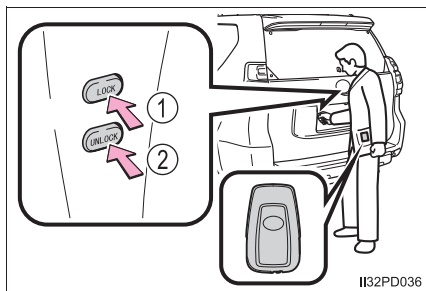
バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



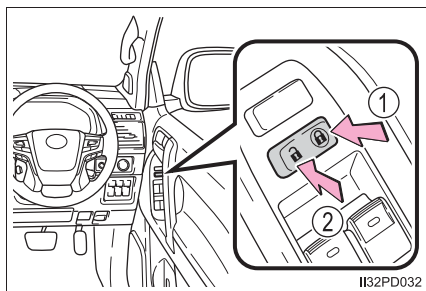
◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 110

車内からの施錠／解錠

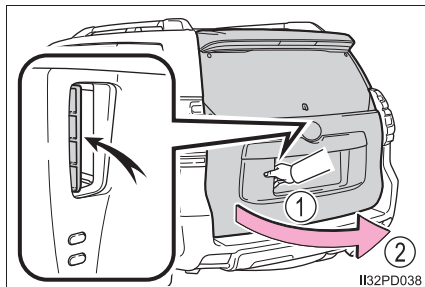
◆ ドアロックスイッチ

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



バックドアを開けるには

- ① バックドアハンドルを引く
- ② バックドアを開ける

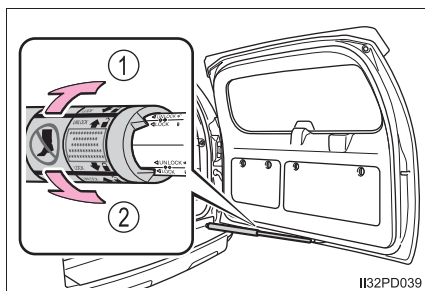


バックドアを開けた状態で固定するには

- ① ロックを解除する
- ② ロックする

バックドアが全開のときにのみ、バックドアステーをロックすることができます。

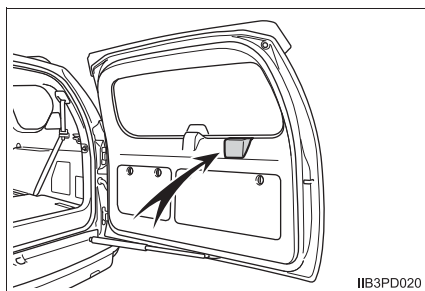
バックドアを閉める前に、必ずロックを解除してください。



バックドアを閉めるときは

バックドアグリップを持ってバックドアを引き、必ず外から押して閉めてください。

バックドアを閉めるときは、バックドアグリップを握ったまま操作しないでください。



 **警告****■ 走行中の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

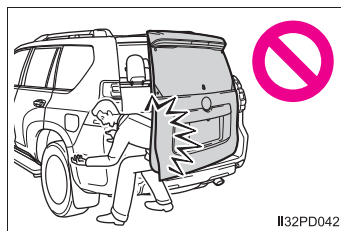
警告**■ バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- バックドアステーをロックしていない状態で使用すると、バックドアが急に閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。バックドアを開けて作業するときは、必ずバックドアステーをロックした状態で行ってください。



- ロックした状態であっても、強風などでバックドアに過度の力が加わると、ロックが解除されてバックドアが閉じるおそれがあります。体の一部を挟まないよう十分注意してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- バックドアの開閉時は、バックドアステーにふれないでください。
手を挟んだり、バックドアステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

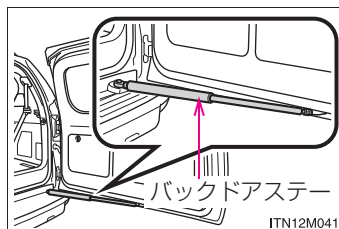
警告**■ バックドアを開けて駐停車するときは**

車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。バックドアが開いていると、非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意**■ バックドアステーについて**

バックドアには、バックドアの動きを制限するためのステーが取り付けられています。バックドアステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステーの上に乗ったり、ものを載せたりしない。また、無理な力をかけない



バックドアガラス

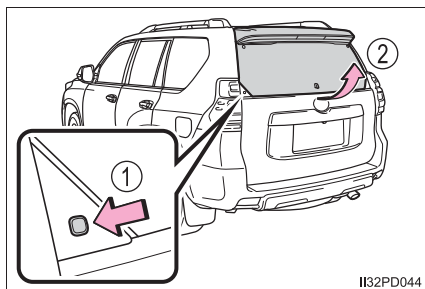
バックドアガラスオープンスイッチやワイヤレスリモコンを使ってバックドアガラスを開くことができます。

バックドアガラスの開け方

◆ バックドアガラスオープンスイッチ

- ① スイッチを押すとバックドアガラスが少し開く
- ② バックドアガラスを持ち上げる

バックドアが施錠されているときは、バックドアガラスを開くことができません。バックドアを解錠してから、バックドアガラスを開きます。
(→ P. 118)

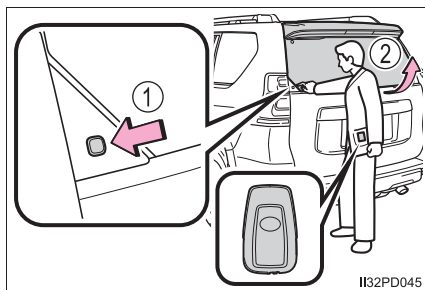


II32PD044

◆ スマートエントリー&スタートシステム

- ① 電子キーを携帯してスイッチを押すとバックドアガラスが少し開く
- ② バックドアガラスを持ち上げる

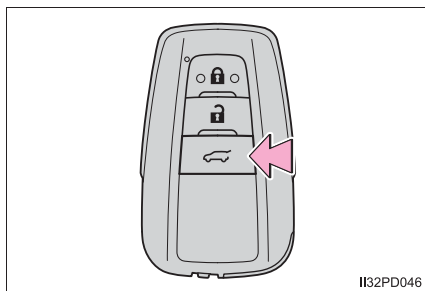
バックドアが施錠されているときも、バックドアガラスを開くことができます。



II32PD045

◆ ワイヤレスリモコン

スイッチを押し続けるとバックドアガラスが少し開く



II32PD046

 知識**■ バックドアガラスを開けるときは**

- バックドアガラスはゆっくりと開いてください。
- バックドアが閉まっているときに、バックドアガラスオープンスイッチやワイヤレスリモコンを使用してください。

■ 作動の合図（ワイヤレスリモコン使用時）

バックドアガラスが開いたことをブザーで知らせます。

■ リヤワイパー・リヤウォッシャーの作動中は

バックドアガラスが開くと、リヤワイパー・リヤウォッシャーが停止します。バックドアガラスを閉めると、作動が再開します。

■ バックドアガラスを閉めたあとは

バックドアガラスが確実にロックされていることを確認してください。確実にロックされていないと、リヤワイパー・リヤウォッシャーが正常に作動しなくなります。

■ 半ドア警告ブザー

ドアまたはバックドアガラスが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。

ドアまたはバックドアガラスを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、車室内に電子キーを置いたままバックドアガラスを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、バックドアガラスオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーを車室内に入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、バックドアガラスを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態で、車室内にキーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、車室内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、バックドアガラスを閉めたときに施錠されてしまいます。バックドアガラスを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- 車内に2本目以降の電子キーを閉じ込めておきたい場合は、全ドア施錠後にバックドアガラス開閉操作を実施しないでください。キー閉じ込み防止機能によりバックドアガラスを開けることが可能な状態となり、盗難の可能性が極めて高くなります。

■ カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンによるバックドアガラス解錠操作の設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 488)

警告**■ バックドアガラスの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

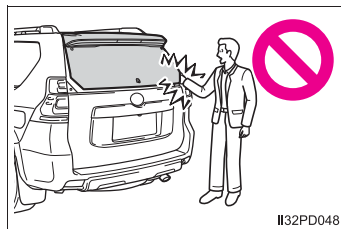
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアガラスを開ける前に、バックドアガラスに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアガラスが落下するおそれがあります。
- バックドアガラスを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアガラスが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- ダンパーステアを持ってバックドアガラスを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、ダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアガラスに重いものを取り付けると、開けたあとにバックドアガラスが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアガラスへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。
- 半開状態で使用すると、バックドアガラスが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアガラスの開閉がしにくく、急にバックドアガラスが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアガラスが全開で静止していることを確認して、使用してください。



警告

- バックドアガラスを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- バックドアガラスは必ず外から軽く押して閉めてください。
- お子さまにはバックドアガラスの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアガラスが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

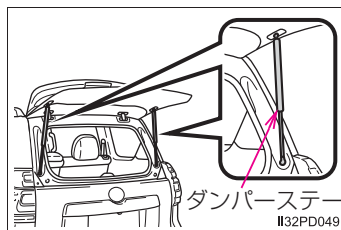
■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアガラスを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアガラスが車外のものにあたりたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康傷害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアガラスが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアガラスが確実にロックされていることを確認してください。バックドアガラスが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアガラスが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ ダンパーステーについて**

バックドアガラスにはバックドアガラスを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアガラスにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム

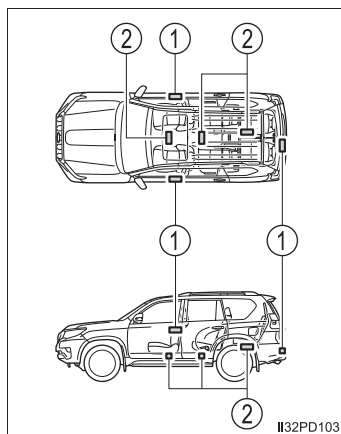
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→ P. 110)
- バックドアを施錠・解錠する (→ P. 118)
- バックドアガラスを解錠する (→ P. 123)
- エンジンを始動する (→ P. 189)

知識

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ



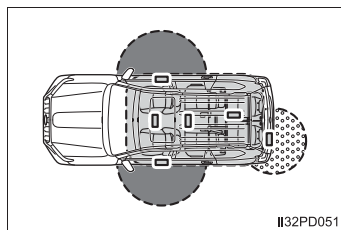
■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

●： ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●： バックドアガラスの解錠時またはバックドアの施錠・解錠時

バックドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

●： エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー” と5秒間鳴る	いずれかのドアまたはバックドアガラスが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアとバックドアガラスを閉めたあと、再度施錠する
	すべてのドアが施錠、かつ車室内に電子キーがある状態でバックドアガラスを閉めた	バックドアガラスオープンスイッチを押してバックドアガラスを開き、車室内から電子キーを取り出す
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める



■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

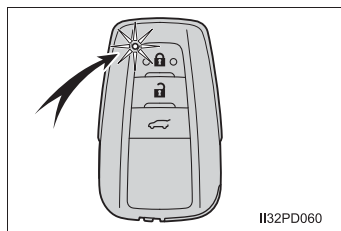
- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を2回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



長時間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 466)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- バックドアガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合
- コインパーキングに駐車しているとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。
 - ・施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・トノカバー（装着車のみ）上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内であれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアまたはバックドアガラスの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。*
- ※ カスタマイズ機能により、操作方法を変更できます。（→ P. 490）
- 電子キーを携帯したまま洗車をするとき、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・キーを車両から 2m 以上離れた場所に置く（電子キーの盗難に注意してください）
 - ・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 131）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーで操作してください。
- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。解錠されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、再度解錠操作をして、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→ P. 488)
- 電子キーの電池消費を抑えることができます。(→ P. 131)

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドア・バックドアガラスの施錠・解錠：→ P. 466
- エンジンの始動：→ P. 466

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→ P. 488)

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 110, 466)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 466
- エンジンの停止：→ P. 190

 **警告****■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）**

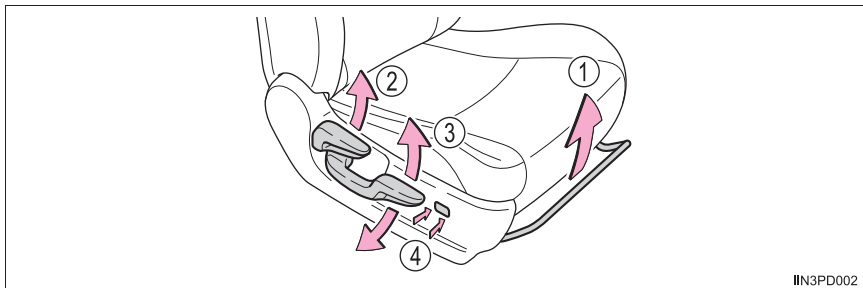
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P. 128）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

▶ マニュアルシート



IIN3PD002

① 前後位置調整

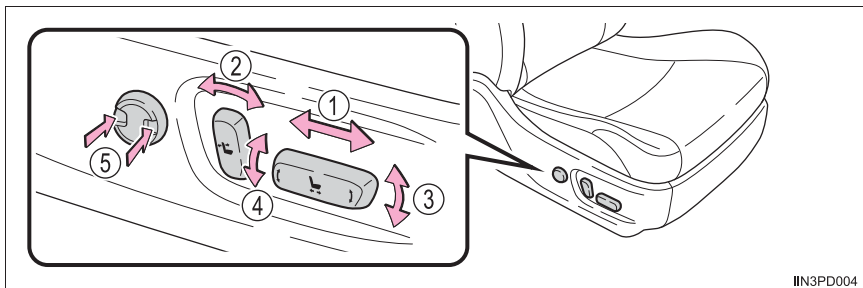
② リクライニング調整

※ 運転席のみ

③ シート全体の上下調整※

④ 腰部硬さ調整※（ランバーサポート）

▶ パワーシート



IIN3PD004

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ クッション前端の上下調整※

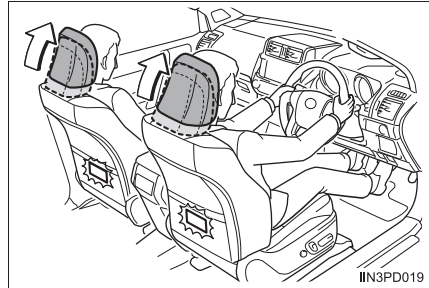
※ 運転席のみ

④ シート全体の上下調整※

⑤ 腰部硬さ調整※（ランバーサポート）

アクティブヘッドレスト

後方から衝突された際、乗員の腰がシートバックを押すことで、内蔵された機構が作動し、ヘッドレストが斜め上方に移動します。



知識

■ アクティブヘッドレストについて

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ リクライニング調整について

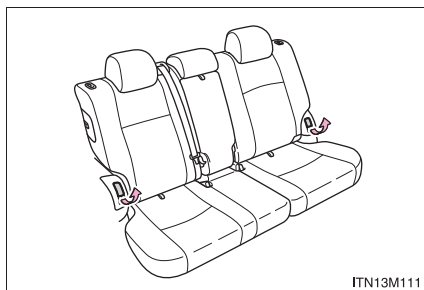
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

調整のしかた

▶ セカンドシート (5人乗り車)

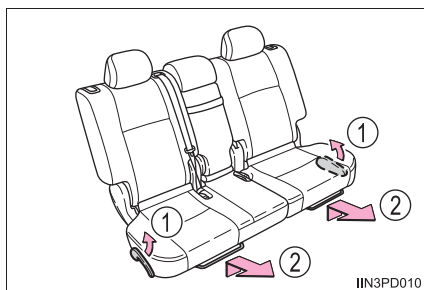
リクライニング調整



▶ セカンドシート (7人乗り車)

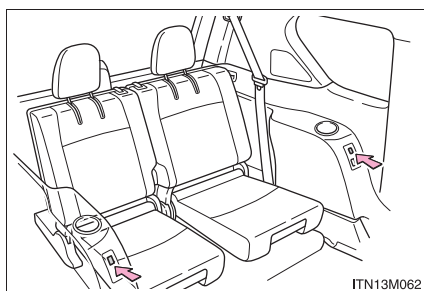
① リクライニング調整

② 前後位置調整



▶ サードシート (7人乗り車) (パワーシート)

リクライニング調整



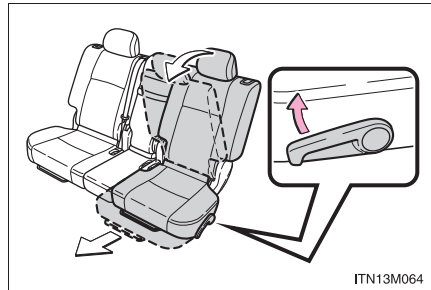
サードシートへの乗り降り（7人乗り車）

■ 乗車するときは（助手席側のみ）

リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げる

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動することができます。

サードシートに乗り込んだあとは、シートを後方に動かし、背もたれを起こします。

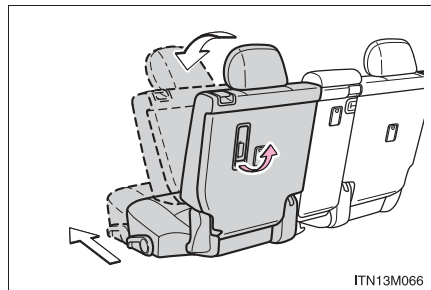


■ 降りるときは（助手席側のみ）

背もたれの背面にあるレバーをいっぱいまで引き上げる

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動することができます。

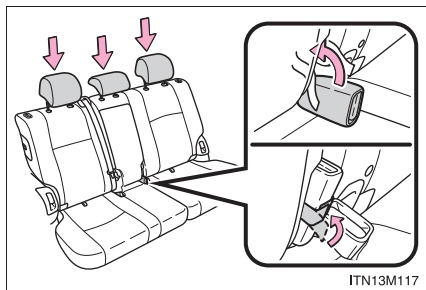
車から降りたあとは、シートを後方に動かし、背もたれを起こします。



セカンドシートの格納（5人乗り車のみ）

■ セカンドシートを格納する前に

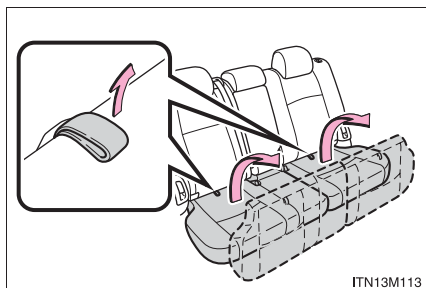
中央席シートベルトのバックルをバンドで固定しヘッドレストをいちばん下まで下げます。



ITN13M117

■ セカンドシートを格納するには

- 1 ロック解除ストラップを引いてシートクッションを引き起こす

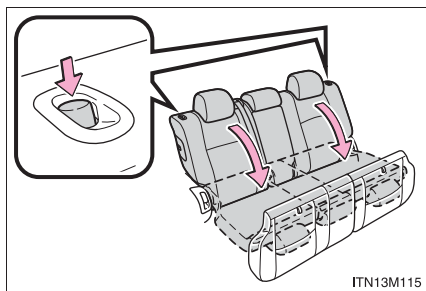


ITN13M113

- 2 背もたれを手で支えながらロック解除ボタンを押してロックを解除し、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

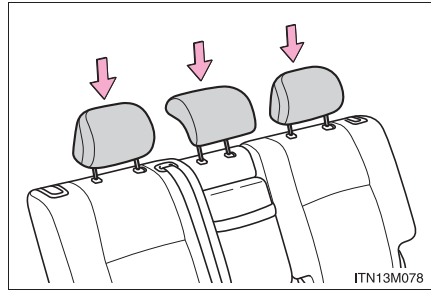
背もたれをもとの位置にもどすときは、ロックされるまで背もたれを起こしてください。



ITN13M115

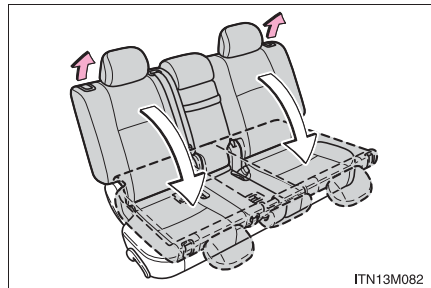
セカンドシートの前倒し（7人乗り車のみ）**■ セカンドシートを前倒しする前に**

ヘッドレストをいちばん下まで下げます。

**■ セカンドシートを前倒しするには**

前倒しレバーをいっぱいまで引き上げたまま、背もたれを前方に倒す

背もたれをもとの位置にもどすときは、確実にロックされるまで背もたれを起こしてください。

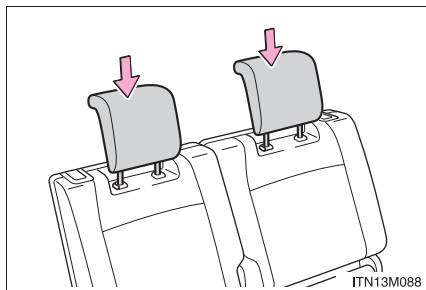


サードシートの格納（サードマニュアルシート装着車）

■ 格納する前に

ヘッドレストを下げる

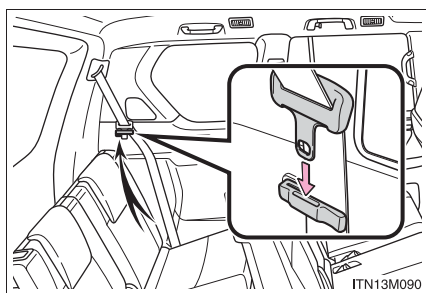
解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。



サードシートのシートベルトを格納する

シートベルトをシートベルトハンガーに挟み、ハンガーの穴部にプレートを挿し込みます。

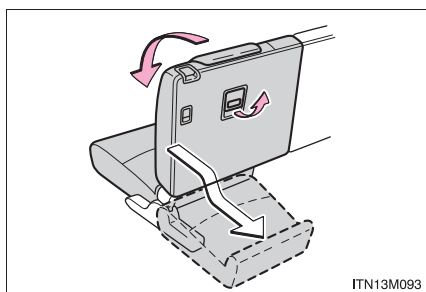
使用するときにはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。



■ 格納するには

▶ バックドア側から操作するとき
背もたれ背面のレバーを引く

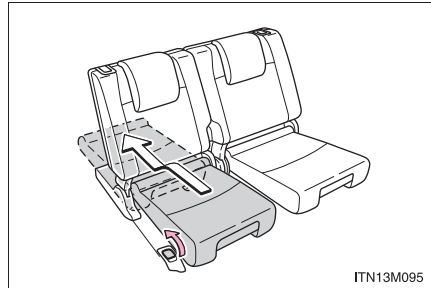
シートクッションと背もたれのロックが同時に解除され、シートクッションが自動でフロアに格納されます。



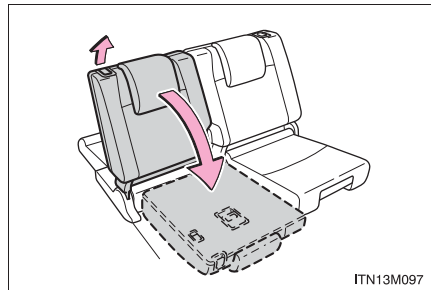
▶ 車室内から操作するとき

- 1** シート下部にあるレバーを引く

ロックが解除され、シートクッションが自動でフロアに格納されます。



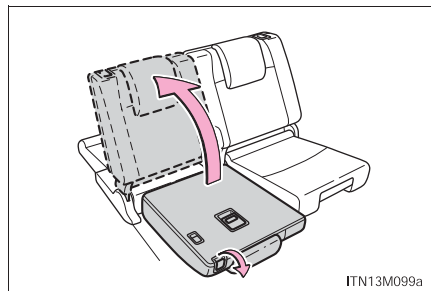
- 2** シートクッションが格納されたのを確認し、ヘッドレストの横にあるレバーを引きながら、背もたれを前に倒す



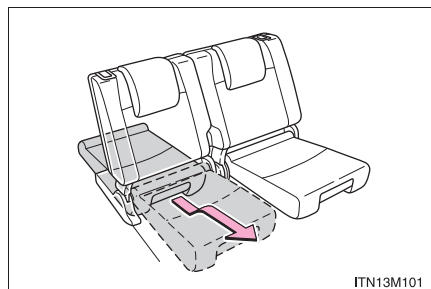
■ もとにもどすには

- 1** 背もたれを起こす

車室内からヘッドレストの横にあるレバーを引いてロックを解除したあと、固定される位置まで背もたれを起こします。



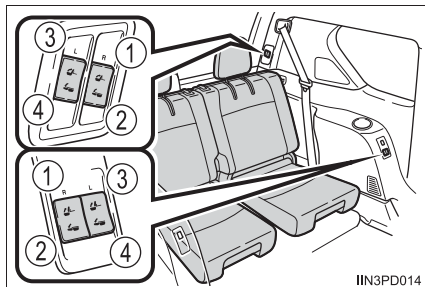
- 2** グリップを手前に引いて、シートクッションを引き出す



サードシートの格納（サードパワーシート装着車）

- ① 復帰スイッチ（運転席側用）
- ② 格納スイッチ（運転席側用）
- ③ 復帰スイッチ（助手席側用）
- ④ 格納スイッチ（助手席側用）

シート横またはバックドア横の、どちら側のスイッチでも同様に操作することができます。

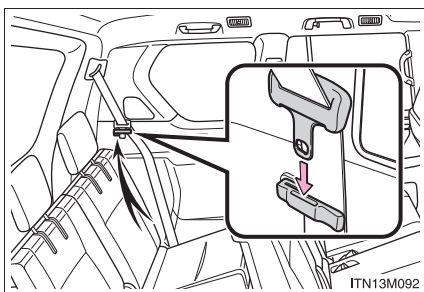


■ 格納する前に


サードシートのシートベルトを格納する

シートベルトをシートベルトハンガーに挟み、ハンガーの穴部にプレートを挿し込みます。

使用するときにはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。

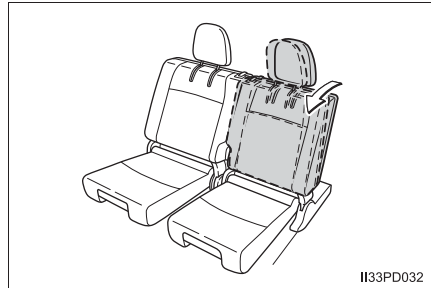



■ 格納するには

- 1  を押し続ける

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれが前方に動きます。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

ブザーが 2 回鳴り、背もたれが垂直付近で自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。

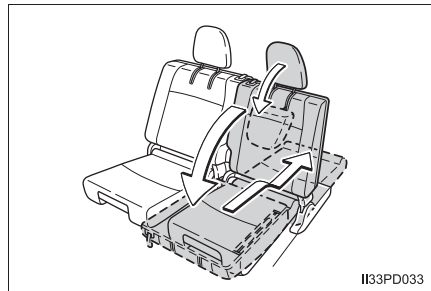


- 2  を押し続ける

ブザーが 2 回鳴ったあと、背もたれの前倒し作動が開始し、シートクッションが自動でフロアに格納されます。

背もたれの前倒し作動に合わせて、ヘッドレストが自動で前に倒れ、背もたれが完全に前に倒れます。

格納作動が完了すると、ブザーが 2 回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。



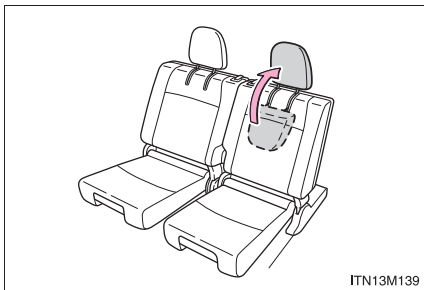
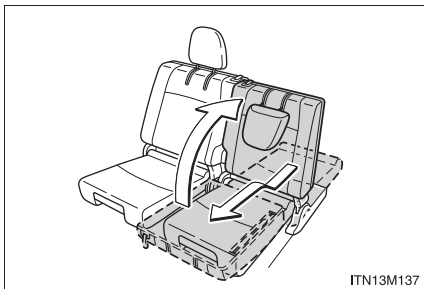
■ もとにもどすには

- 1  を押し続ける

ブザーが2回鳴ったあと、背もたれとシートクッションが作動開始します。作動中は、スイッチから手を離さないでください。

復帰作動が完了すると、ブザーが2回鳴り、自動停止します。自動停止後、スイッチから手を離します。

- 2 ヘッドレストをもとにもどす
ヘッドレストを引き起こします。

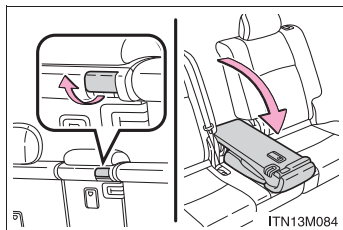


知識

■ 中央席の前倒しについて

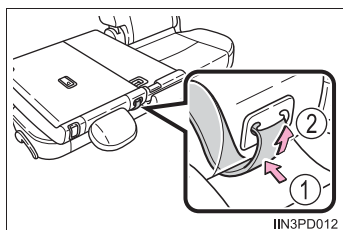
中央席の前倒しレバーをいっぱいまで引き上げると、中央席のみを前倒しすることができます。長い荷物を積む場合に便利です。

もとにもどすときは、ロックされる位置まで中央席を引き起こします。



■ 前倒したあと、背もたれが引き起こせない場合は(7人乗り車の運転席側シート)

- ① 背もたれの先端を押し込んで、中央席のシートベルトをゆるめる
- ② シートベルトを少し巻き取らせてシートベルトのロックを解除する



■ サードシート格納時の作動条件（サードパワーシート装着車）

エンジンスイッチが OFF、またはイグニッション ON モードで、シフトレバーの位置が P にあるとき

■ サードシートの格納作動中は（サードパワーシート装着車）

作動開始後は、自動停止するまでスイッチから手を離さないでください。スイッチから手を離すと作動が中断し、ブザー（連続音）が鳴ります。再度スイッチを押すと、ブザーは止まります。

■ 警告ブザーが鳴り続けて止まらない場合は（サードパワーシート装着車）


システムに異常が発生すると、エンジンスイッチがイグニッション ON モードのあいだ、警告ブザーが鳴り続ける場合があります。その際は、次の操作を行ってください。

1  を押し続けてシートを復帰する

2  を押し続けてシートを格納する

各操作時は、シートが自動停止してブザーが 2 回鳴るまで、スイッチから手を離さないでください。

以上の処置で警告ブザーが止まらないときは、続けて次の操作を行ってください。

3 シート横の  を押し続けてシートを復帰する（バックドア横のスイッチは使用しません）

4  を押し続けた状態のまま約 10 秒以内に （リクライニング前側）を 5 回押す

ブザーが 3 回鳴ったあと、連続で鳴り続けます。

5 再度手順 1～2 の操作を行う

以上の処置を行っても異常が解消しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートを操作するときは

- 走行中にシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■サードシートを格納するときは

- 操作前に必ず、シート周辺に人や荷物などがいないことを確認する
- 操作はゆっくり行う（サードマニュアルシート装着車）
- シート可動部分には絶対に手や足などを入れない
- お子さまにシートの操作をさせない
- シートクッションだけを格納した状態で使用しない
（サードマニュアルシート装着車）

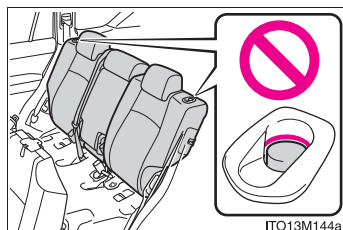
■リクライニング調整について

背もたれを必要以上に倒さないでください。

事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートをもともどしたあとは（セカンドシート）

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
5人乗り車ではシートが確実に固定されていない場合、ボタンのまわりに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



ITO13M144a

- シートベルトを挟み込まないようにする

 **警告****■ シートをもとにもどしたあとは（サードシート）**

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する（サードマニュアルシート装着車）
- シートベルトを挟み込まないようにする
- シートベルトハンガーから、シートベルトをもとどおりに取りはずしてあるか確認する
- ヘッドレストをもとどおりに起こす（サードパワーシート装着車）

 **注意****■ シートを操作するときは**

- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

ポジションメモリー★ / メモリーコール機能★

自動で運転席・ハンドル・ドアミラーを動かし、お好みのドライビングポジションに調整します。

ポジションの登録

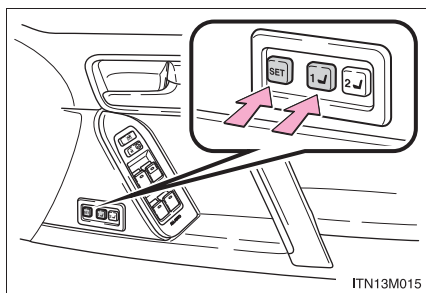
お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、2パターンまで登録できます。

■ 登録方法

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラーの角度をお好みの位置に調整する

- 4 “SET” ボタンを押しながら、または“SET” ボタンを押したあと3秒以内に1～2のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

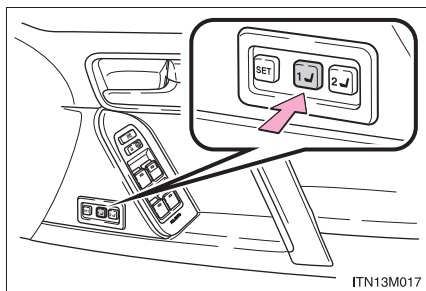
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



ITN13M015

■ 呼び出し方法

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 1～2のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



ITN13M017

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- “SET” ボタンを押す
- 1 ～ 2 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 136）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションに電子キーを登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

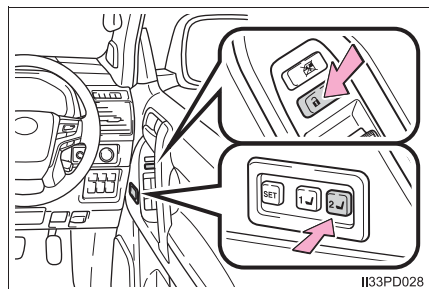
■登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 2）を呼び出す
- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

シートが登録されたポジションへ動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートは動きません。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが2つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。

□ 知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧：→P. 491)

▲ 警告

■ シート調整時の警告

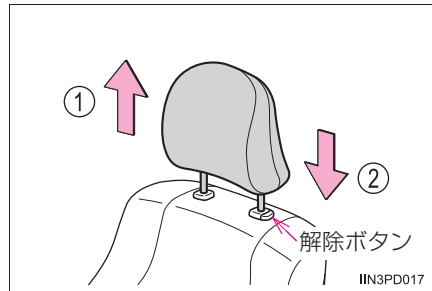
シート調整時は、シートがセカンドシート乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

フロントシート・セカンドシート・サードマニュアルシート★

- ① 上がる
- ② 下がる

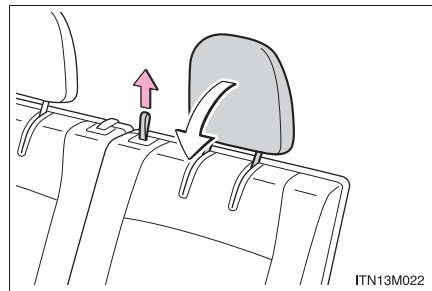
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



サードパワーシート★

ストラップを引くと、ヘッドレストが前に倒れます。

もとにもどすときは、ヘッドレストを引き上げます。

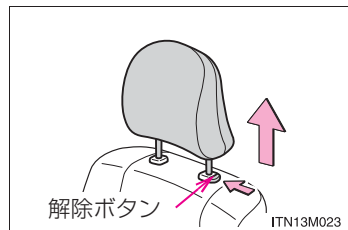


知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

▶フロントシート・セカンドシート・サードマニュアルシート

解除ボタンを押しながら取りはずします。



▶サードパワーシート

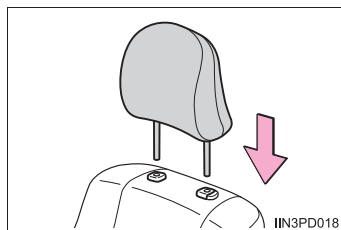
ヘッドレストを取りはずすことはできません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ヘッドレストを取り付けるときは（サードパワーシートを除く）

挿入穴にヘッドレストを挿入し、ヘッドレストがロックする位置まで押し込みます。

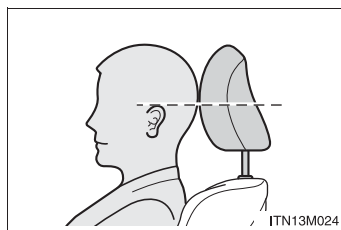
さらに下げるとき★は、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて ※1

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

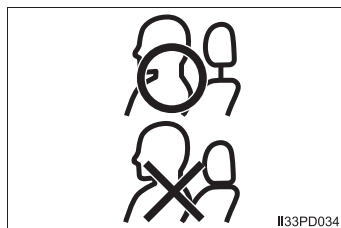
※1 5人乗り車のセカンドシートおよび、7人乗り車のセカンドシート中央席・サードシートを除く



■セカンドシート ※2・サードマニュアルシートのヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

※2 7人乗り車の左右席を除く



■サードパワーシートのヘッドレストの使用について

シートを使用するときは、必ずヘッドレストを起こした状態にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告****■ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

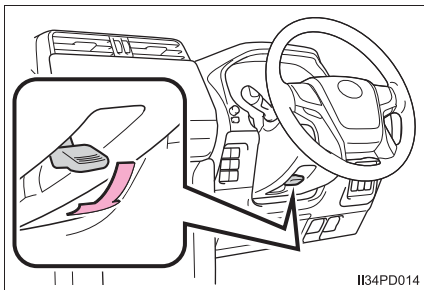
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- サードシートに乗車するときは、必ずヘッドレストを起こした状態にする（サードパワーシート装着車）

ハンドル

調整のしかた

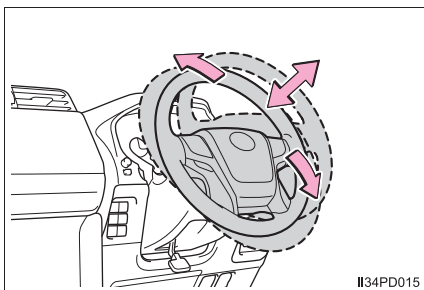
▶ マニュアルチルト&テレスコピックステアリング装着車

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



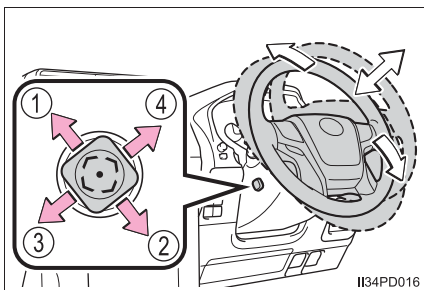
- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



▶ 電動チルト&テレスコピックステアリング装着車

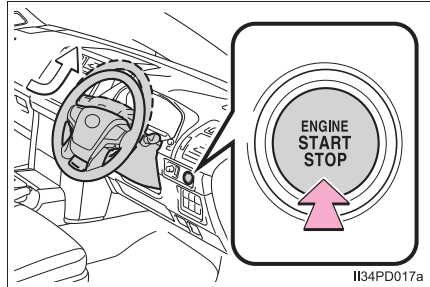
- ① 上方へ
- ② 下方へ
- ③ 前方へ
- ④ 手前へ



オートアウェイ&オートリターン機能★

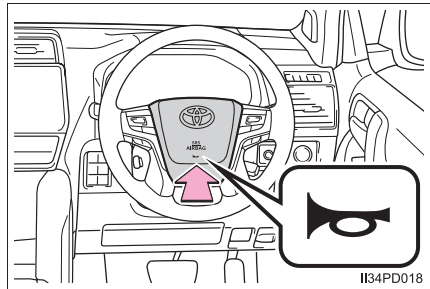
エンジンスイッチをOFFにすると、乗り降りがしやすいようにハンドルが動きます。

エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

- **ハンドル位置調整の作動条件（電動チルト&テレスコピックステアリング装着車）**
エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき
- **ハンドル位置の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）**
お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 150）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ ハンドル位置を調整したあとは
(マニュアルチルト&テレスコピックステアリング装着車)**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

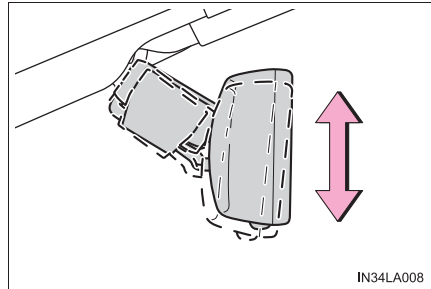
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

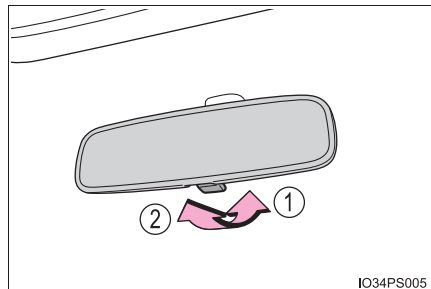


防眩機能

▶ マニュアル防眩ミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



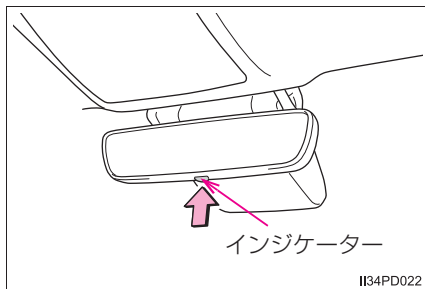
▶ 自動防眩ミラー

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。

自動モードの ON・OFF を切りかえる

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

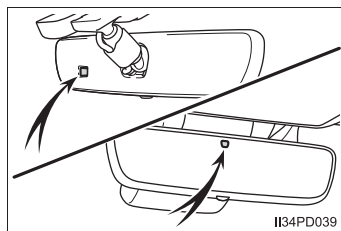
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。



☐ 知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤操作を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。



⚠ 警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

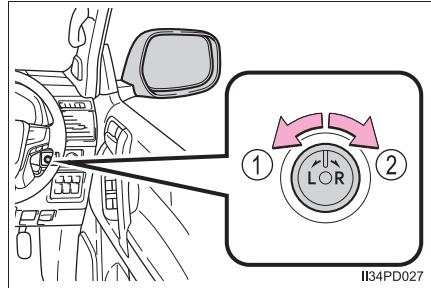
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

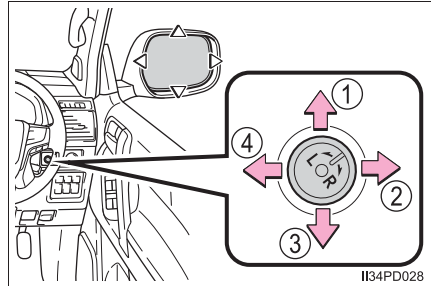
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを操作する

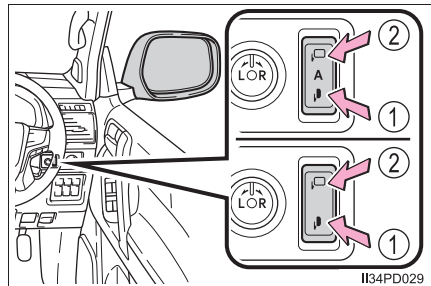
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納・復帰する

- ① ミラーを格納する
- ② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 (A) にするとオート作動に切りかわり、ドアの施錠・解錠、エンジンスイッチの操作と連動して作動します。★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リバース連動機能について

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(→ P. 331)

■ ミラー角度の自動調整 (ドライビングポジションメモリー装着車)

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 150)

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき★

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

オート電動格納★の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 488)

 警告

■ 走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ミラーの調整をしない

● ミラーを格納したまま走らない

必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

手をふれないでください。

手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているときは

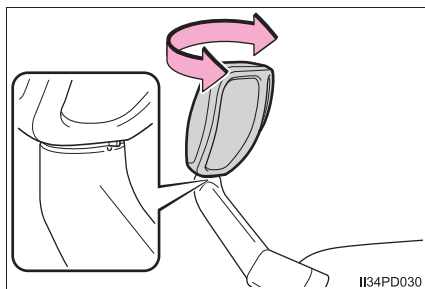
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

補助確認装置★

発進時またはごく低速時に、車両前面と助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

ミラーが動いてしまったときは、突起とマークの位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。



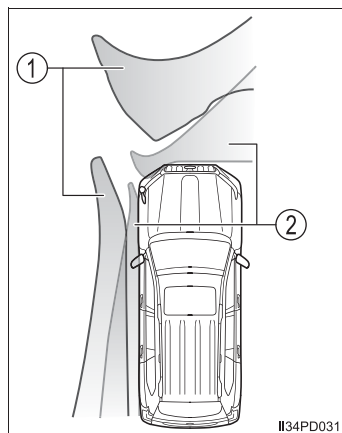
II34PD030

知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

- ① 地面が視認できる範囲
- ② 地上約 1m の高さまで視認できる範囲



II34PD031

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 補助確認装置について**

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウィンドウ

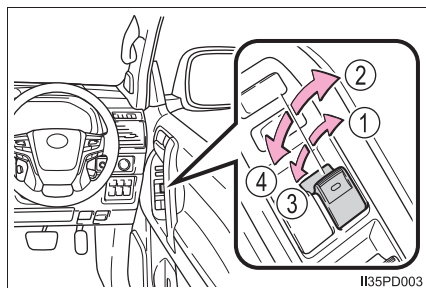
調整のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉 ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開 ※

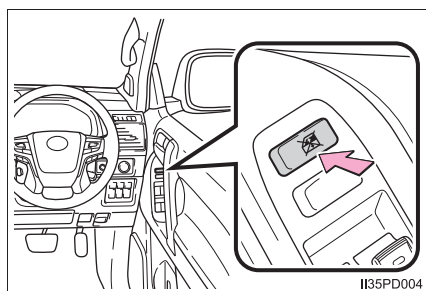
※途中で停止するとき、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアキー連動開閉機能などを設定することができます。
(カスタマイズ一覧：→P. 488)

警告

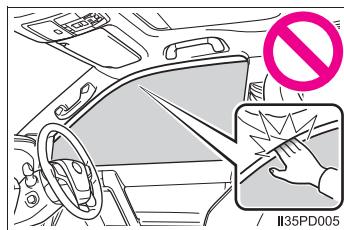
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者には、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P. 166)

- ドアガラスを開閉するとき、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

 **警告****■ 巻き込み防止機能**

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

 **注意****■ 挟み込み防止機能・巻き込み防止機能について**

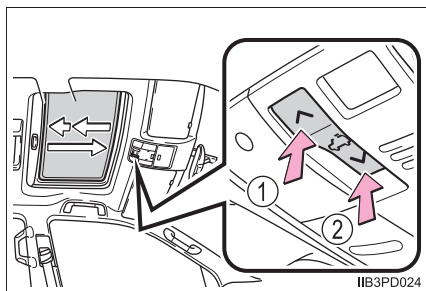
ドアガラスを開閉しているときに、ドアを強く閉めると挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動し、ドアガラスが反転・停止することがあります。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

開閉

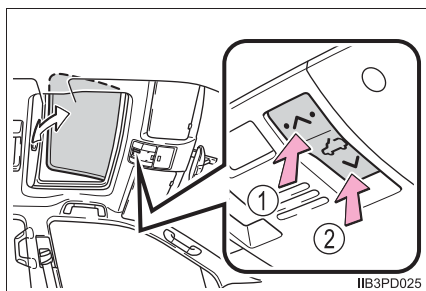
- ① ムーンルーフを開く ※
全開の手前の位置で止まります。(風切音の低減機能)
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。
- ② ムーンルーフを閉める ※
※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



IIB3PD024

チルトアップ／ダウン

- ① チルトアップ ※
- ② チルトダウン ※
※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



IIB3PD025

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ 閉め忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが OFF で、ムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

ドアキー連動開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 488)

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2  の“V”側を押し続ける※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。※2


その後再び閉じ、チルトアップし、1秒間停止します。


チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2  の“^”側を押し続け※1 ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3  から一度手を離し、再度“^”側を押し続ける※1

ムーンルーフがチルトアップの状態ですら10秒間停止し、※2 微調節後1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動でき

なくなります。その場合は、 の“V”または、 の“^”側を

押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1秒間停止します。

その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが

完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

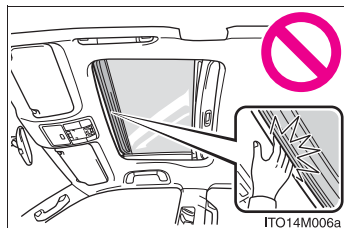
■ムーンルーフを開けているときは

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

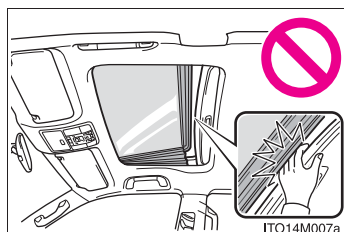
■ムーンルーフを開閉するときは

- 運転者には、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



- 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転

4

- 4-1. 運転にあたって
- 運転にあたって 176
 - 荷物を積むときの注意 187
- 4-2. 運転のしかた
- エンジン（イグニッション）
スイッチ 189
 - オートマチック
トランスミッション 195
 - 方向指示レバー 202
 - パーキングブレーキ 203
 - 排出ガス浄化装置
（ディーゼル車） 204
- 4-3. ランプのつけ方・
ワイパーの使い方
- ランプスイッチ 209
 - AHB（オートマチック
ハイビーム） 213
 - フォグランプスイッチ 217
 - ワイパー&ウォッシャー
（フロント） 219
 - ワイパー&ウォッシャー
（リヤ） 224
 - ヘッドランプクリーナー 226
- 4-4. 給油のしかた
- 給油口の開け方 227
- 4-5. 運転支援装置について
- Toyota Safety Sense 231
 - PCS（プリクラッシュ
セーフティ） 237
 - LDA（レーンディパーチャー
アラート [ヨーアシスト
機能付き]） 248
 - RSA（ロードサイン
アシスト） 258
 - レーダークルーズ
コントロール 263
 - 先行車発進告知機能 276
 - ドライブモード
セレクトスイッチ 279
 - クリアランスソナー 281
 - 運転を補助する装置 292
 - BSM（ブラインド
スポットモニター） 298
 - ・ BSM 機能 302
 - ・ RCTA 機能 305
 - PKSB（パーキングサポート
ブレーキ） 312
 - パーキングサポートブレーキ
（静止物） 320
- 4-6. 運転のアドバイス
- 寒冷時の運転 324

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 189

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→ P. 195)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 203)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み
発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 195)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 203)、シフトレバーを P にする
(→ P. 195)
- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め^{*}を使用してください。
^{*} 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

急発進の抑制（ドライブスタートコントロール）

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- Rに切りかえたとき*
- PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき*

* 状況によっては操作できない場合があります。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

ヒルスタートアシストコントロールにより、車両の後退を緩和し、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。（→別冊「オフロード走行取扱書」）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 437）

■ ドライブスタートコントロールについて

TRC の作動を停止（→ P. 294）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→ P. 294）

また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

- トランスファースイッチが L4（ディーゼル車）または H4L / L4L（ガソリン車）にあるとき※
- センターデフロック状態のとき（ディーゼル車のみ）※

※ アクティブ TRC ★、トランスファースイッチ、センターデフロックの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ エンジン停止前のアイドリング運転について（ディーゼル車）

ターボ装置の損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドリング運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況		アイドリング運転時間
市街地などの一般走行		不要
高速走行	約 80km/h 定速	約 20 秒
	約 100km/h 定速	約 1 分
山岳ドライブウェイなど急な登坂、または 100km/h 以上の連続走行		約 2 分

■ 環境に配慮した運転（エコドライブインジケーター）

→ P. 83, 96

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

● 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転するとき

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあります。危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 424を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 195)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に氣をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンプレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたりしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。特にディーゼル車は高温になる場合がありますので、注意してください。(→ P. 204)

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまう。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために（ディーゼル車）

- 高速走行・登坂走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドリング運転を行い、ターボ装置を冷却してからエンジンを停止してください。（→P. 178）
- 排気管などには指定以外の部品を使わないでください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 極寒の環境では、エンジン始動後に30秒以上アイドリング運転を行ってください。また、アイドリング運転中は空ぶかしをしないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。（→P. 483）

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 448を参照してください。

 **注意****■ 冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。*

- エンスト
- 電装品のショート
- 水を吸い込んでのエンジン破損
- グリースが洗い流されたり、グリースに泥などが混入したりすることによる、潤滑不良やゴム製部品・機械部品の故障

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

* 必要な注意事項を守って渡河を行う場合を除く
渡河を行う際の注意事項については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ トノカバー（装着車のみ）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（ルーフレール装着車）

 **警告****■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。


これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む


マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。
表示されないと、エンジンは始動しません。

- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

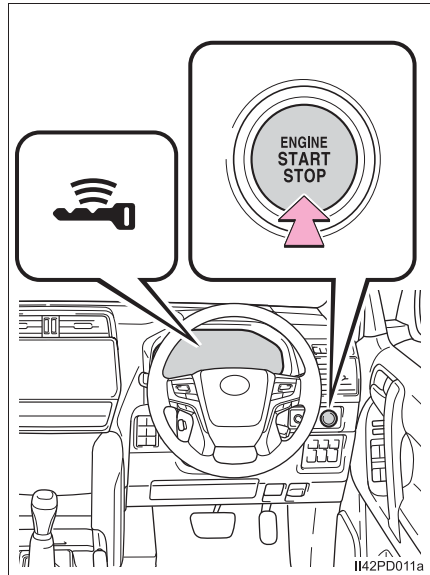
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

ディーゼル車： （予熱表示灯）が点灯後消灯したらエンジンが始動します。

エンジン冷却水の温度が約 30℃をこえると、予熱表示灯は点灯しない場合があります。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



エンジン停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 203)、シフトレバーを P の位置にする
- 3 エンジンスイッチを押す
- 4 ブレーキペダルから足を離れた状態にしてメーターの表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

① OFF*

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

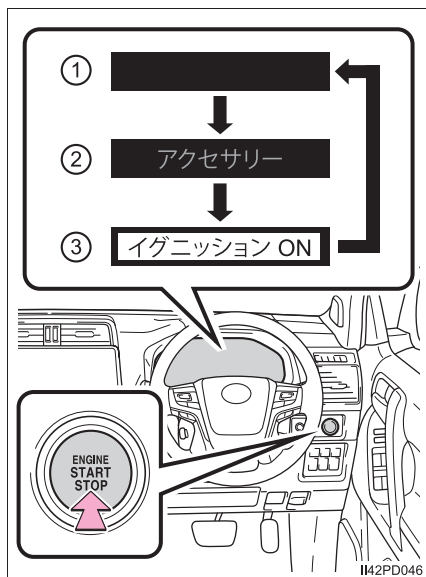
マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリ」が表示されます。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

* シフトレバーが P 以外の場合は、アクセサリモードになり、OFF になりません。



1H42PD046

シフトレバーがP以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードはOFFになりません。次の手順でOFFにしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーをPの位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源をOffしてください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを1回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源をOffしてください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上アクセサリモードか1時間以上イグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチOFF後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチOFF後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 108

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 132

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 133

■ エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→ P. 72)

トヨタ販売店へご連絡ください。

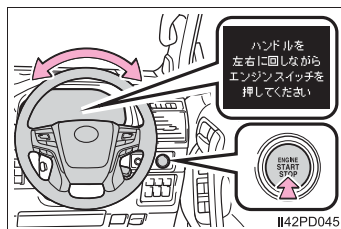
- シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとエンジンを始動することができない場合があります。

■ ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認してハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。



■ ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2～10秒程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 電子キーの電池が切れたときは

→ P. 402

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 466

 **警告****■ エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→ P. 424)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、エンジンスイッチを押してください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■ エンジンを始動するとき

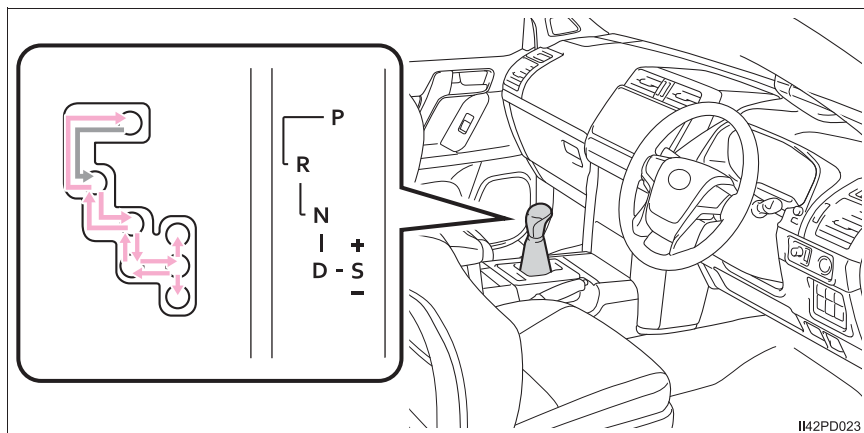
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態では、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ^{※1}
S	S モード走行 ^{※2} (→ P. 198)

^{※1} 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。パドルシフトスイッチ★の操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

^{※2} S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションに比べエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行モードの選択

■ スポーツモード／エコドライブモード

→ P. 279

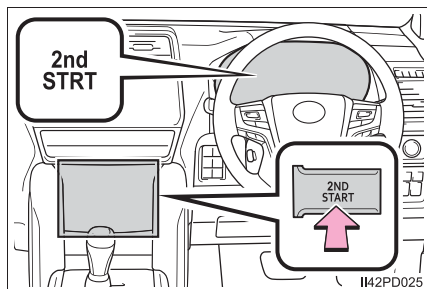
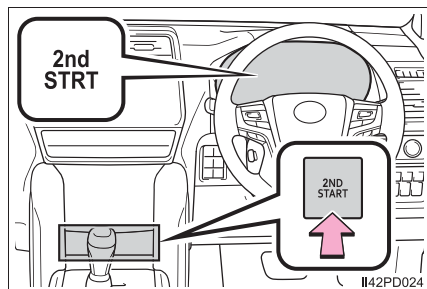
■ セカンドスタートモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行時に、走行モードをセカンドスタートモードに切りかえます。

セカンドスタートモードにするにはスイッチを押す

解除するには再度スイッチを押します。

- ▶ リヤハイトコントロールエアサスペンション非装着車
- ▶ リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車



D ポジションでのシフトレンジ切りかえ★

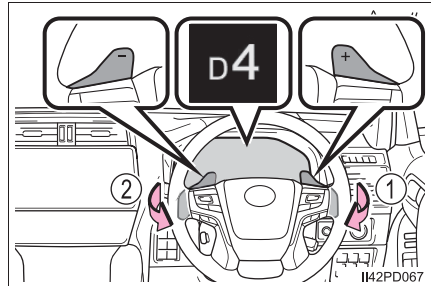
シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチを操作することにより任意のレンジを選択することができます。

レンジを選択することで、使用するレンジの上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジnbrake力を切りかえたりすることができます。

- ① シフトアップ
- ② シフトダウン

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの+側を一定時間以上保持します。



■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Sモードでのシフトレンジ切りかえ

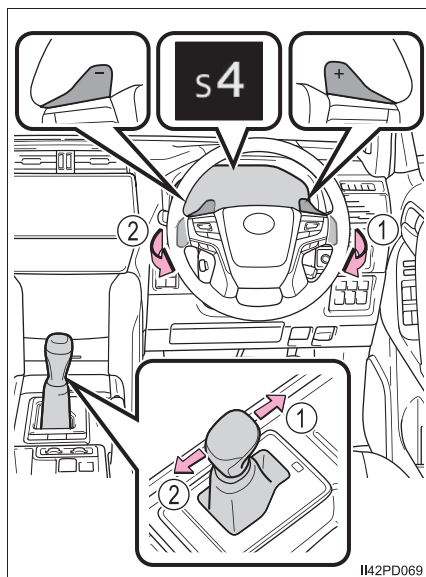
シフトレバーがSの位置にあるとき、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を次のように操作できます。

- ① シフトアップ
- ② シフトダウン

S1からS6レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

Sポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じてS4またはS5レンジに設定されます。ただし、DポジションにてAI-SHIFT制御中はそれに従い、初期のシフトレンジがS3レンジになる場合があります。

(→ P. 200)



■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤動作を防ぐシステムです。イグニッション ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除（パドルシフトスイッチ装着車）

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき
- パドルシフトスイッチの+側を操作し続けたとき

■ S モード

S4 レンジ以下のとき、シフトレバーを+側へ保持すると、S6 レンジに設定されます。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが2回鳴ります）

■ レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

S モード走行時に S4 または S5 へシフトダウンしても、エンジブレーキは効きません。（→ P. 263）

■ セカンドスタートモードの自動解除

セカンドスタートモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

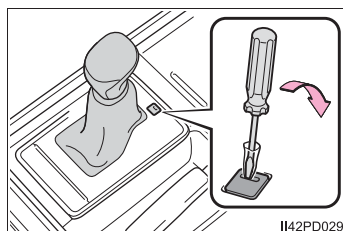
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

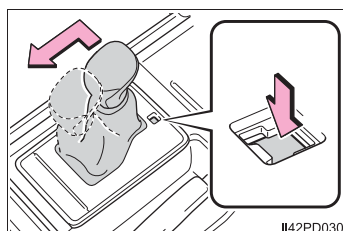
シフトロック解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■ シフトレバーを S にしても “S” が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。
(シフトレバーを S にすると、機能が解除されます)

■オートマチックトランスミッション保護機能

- ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。
このとき、トランスミッションが損傷しないように、ギヤ段が一時的に固定される場合があります。
トランスミッションの温度が下がるとギヤ段の固定は解除され、通常作動にもどります。
- トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに「AT オイル油温異常」が表示されます。
ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーをPにして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待ちます。しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

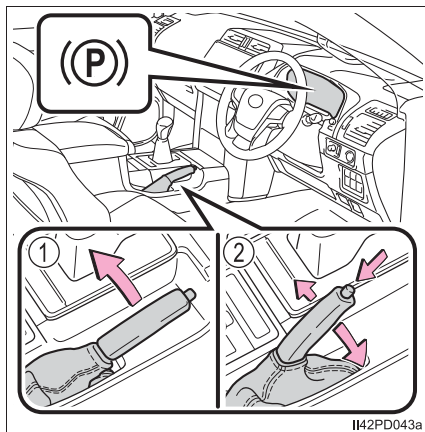
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

- ① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- ② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす



知識

- 駐車するとき
→ P. 176
- パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 438
- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 325

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

排出ガス浄化装置（ディーゼル車）

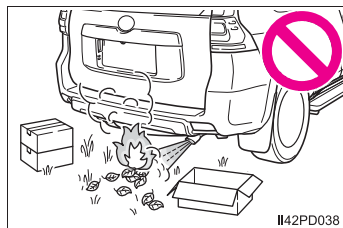
排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

警告

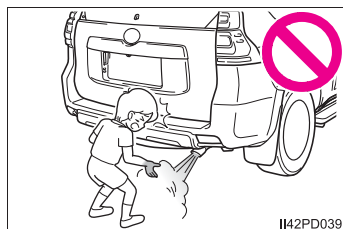
■ ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。

- 燃えやすいものや乾いた草などの近くに車を停車しない



- 排気管周辺に人がいないことを確認する



- 車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼（再生）処理を行わない
- 燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

 **注意****■ 排出ガス浄化装置の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不十分 販売店で点検を受けてください」と表示 ※ されたまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などが無いか定期的に点検する
異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 警告メッセージに合わせてエンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

◆ 燃焼（再生）処理について

- 一般走行では数百 km[※] 走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。自動で燃焼処理が行われているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生中」が表示されます。
- ススが規定量以上になったとき、燃焼処理を行うことができます。
(→ P. 206)

※ 気候や走行状況等により異なります。

◆ 排出ガス浄化装置について

排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

- 燃焼処理中はアイドル回転数が上がる
- 排気ガスの臭いが従来のディーゼル車とは異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

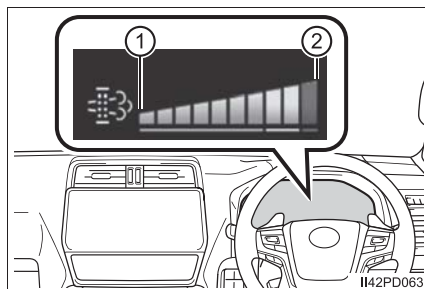
排ガス浄化装置堆積モニターについて

マルチインフォメーションディスプレイ内の表示でススの堆積量を確認することができます。

メーター操作スイッチ（→ P. 88）で **i**（ドライブインフォメーション）を選択し、**ENTER** を上下に操作して項目を選択してください。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ① 少ない
- ② 多い



排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたときは

- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不十分 取扱書を確認ください」と表示されたときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

▶ 走行して燃焼処理を行う場合

次の運転手順を推奨します。*1

- ・ 継続運転（例：時速 60km で 20 ～ 30 分間）
- ・ 短い距離の走行を回避、または継続運転（長時間エンジンをかけたまま）

燃焼（再生）処理の運転を行う前にエンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、シフトダウンしてエンジン回転数を上げることでエンジンを暖めてください。*2

燃焼（再生）処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えます。運転の状況（渋滞など）によってはススがさらに堆積し、警告メッセージが消えないことがあります。運転後も警告メッセージが消えないときは、スイッチ操作で燃焼処理を行ってください。

*1 走行時は道路交通法に従い、天候、路面状況、地形、交通状況を考慮し、十分に注意してください。

*2 状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでシフトダウンする必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

▶ スイッチを操作して燃焼処理を行う場合

- 1 車を安全な場所に停車する
- 2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

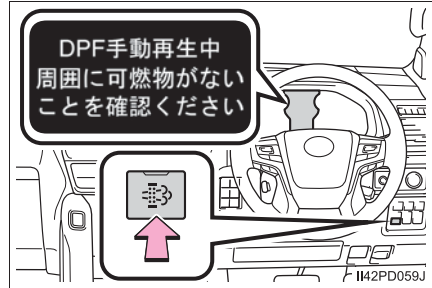
エンジンは停止しないでください。

また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。(→ P. 204)

エンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、アクセルペダルを踏み込んでエンジンを暖めてください。^{※1}

- 3 排出ガス浄化スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、アイドル回転数が上がります。



燃焼（再生）処理が終了するまでに、約 15 ～ 40 分^{※2}程度の時間が必要です。

燃焼（再生）処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消え、アイドル回転数がもとにもどります。

^{※1} 状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでアクセルペダルを踏み込む必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

^{※2} 燃焼（再生）に必要な時間は、外気温により異なります。また、排出ガス浄化スイッチを押してから 10 分後のエンジン回転数が約 2000rpm のときは、排気ガスの温度が低い状態です。その場合は、アクセルペダルを踏み込んで、しばらくのあいだ約 3000rpm までエンジン回転数を上げてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」と表示されたときは、スイッチ操作で燃焼処理を行ってください。(→ P. 206)
- マルチインフォメーションディスプレイに「DPF 再生不十分 販売店で点検を受けてください」と表示[※]されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

[※] 警告メッセージに合わせてエンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

 知識

■ 燃焼処理について

- 排出ガス浄化スイッチを押したあとは、アクセルペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。
- 燃焼（再生）処理が終了した後は、排気管をきれいにするために数回空ぶかしをしてください。
- 走行直後など排気管の温度が高いときに行うと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

■ エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。（→ P. 481）

■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージについて

走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドルリングストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示される場合があります。

 注意

■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたとき

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります[※]。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

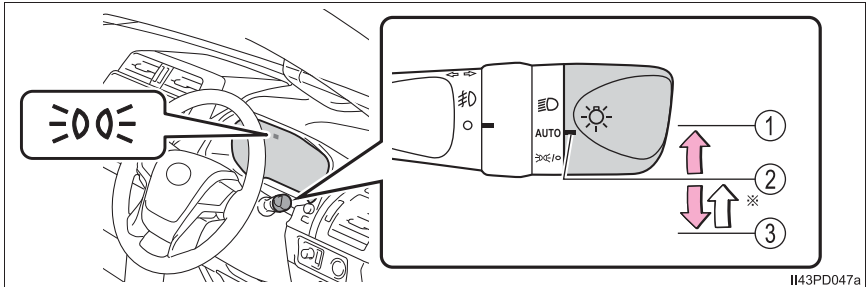
[※] このときは、排出ガス浄化スイッチが機能しなくなります。


ランプスイッチ



自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた


次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。


ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
① 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② AUTO ※ ¹	LED デイライト (→ P. 211) が点灯	ヘッドランプ・スモールラン プが点灯
③  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²



上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯を意味します。

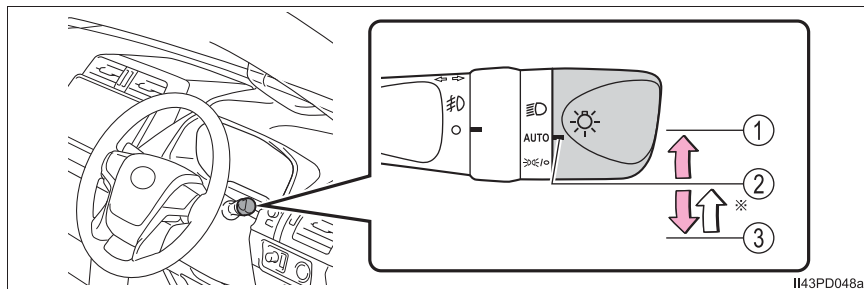
※¹ 操作するたびに、② AUTO による点灯状態と③  による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② AUTO による点灯状態に切りかわります。



消灯のしかた


☞ スイッチを③  の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に①  か③  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



I143PD048a

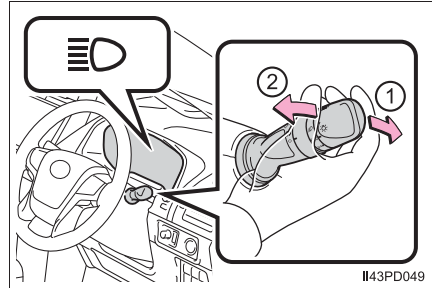
※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に②  AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③ 	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト (→ P. 211) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



知識

■ AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ LED デイライト

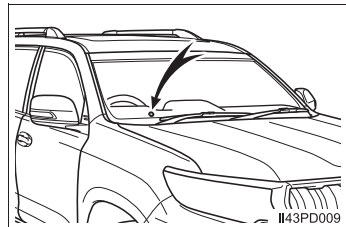
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。



■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウィンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリモード、または OFF にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプや尾灯などが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ おもてなし照明★

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯と尾灯が自動で点灯します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 488)

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラスに設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

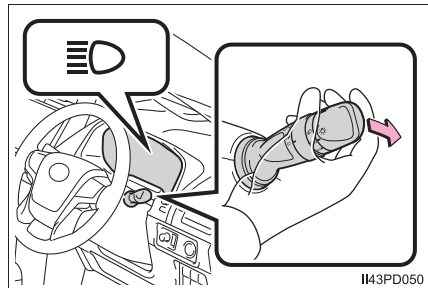
■オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームの使い方

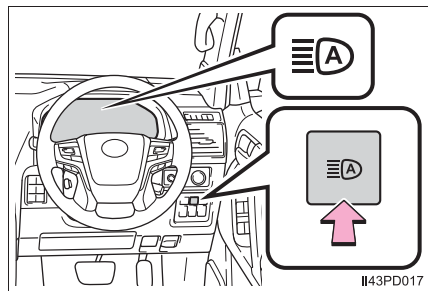
- 1 ランプスイッチを AUTO または

 にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。

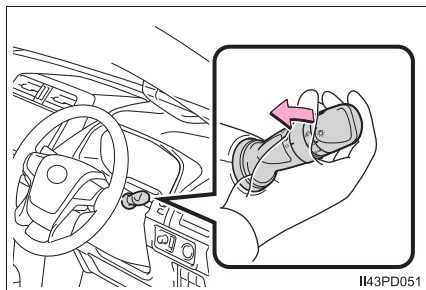


手動切りかえのしかた**■ ロービームへの切りかえ**

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

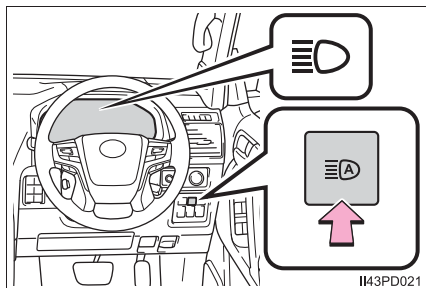
オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押しします。

**■ ハイビームへの切りかえ**

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



 知識**■ ハイビームとロービームの自動切りかえ条件**

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ カメラセンサーの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・インナーミラーやカメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
- ・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

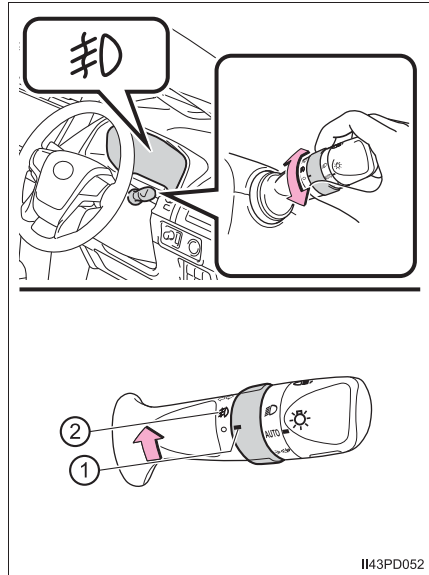
システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ

- ① ○ 消灯する
- ② 霧点灯する

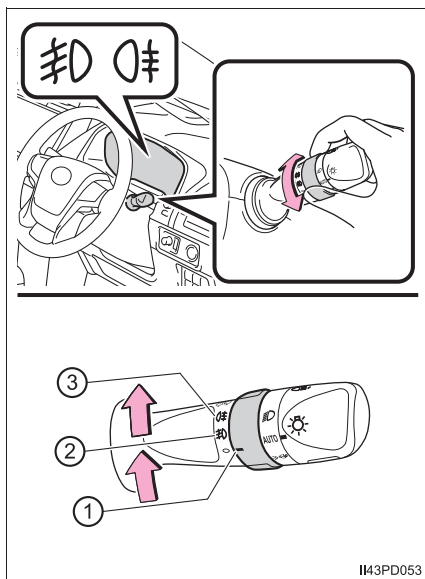


II43PD052

▶ フロント&リヤフォグランプスイッチ

- ① ○ 消灯する
- ② ㊦ フロントフォグランプを点灯する
- ③ ㊧ フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ㊦ の位置までもどります。
再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



II43PD053

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ★：
フロントフォグランプまたはヘッドランプが点灯しているときのみ使用できません。


■リヤフォグランプ★について

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

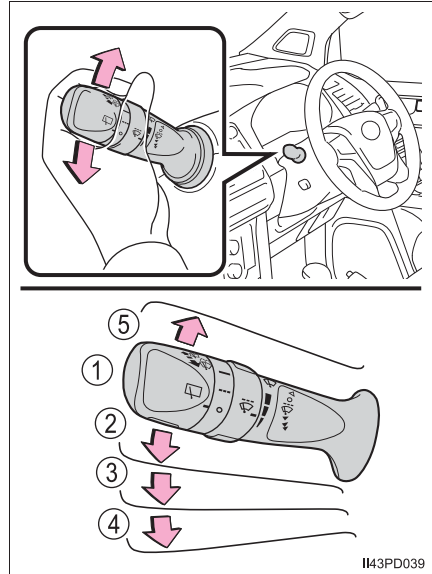
ワイパー&ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

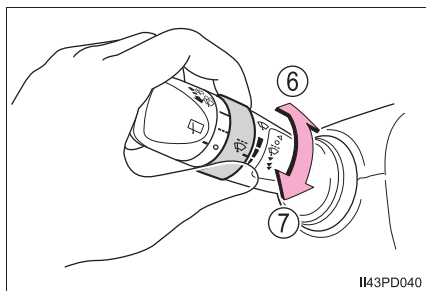
▶ 間欠作動調整式ワイパー


- ① ○ 停止
- ②  間欠作動
- ③ ▼ 低速作動
- ④ ▼▼ 高速作動
- ⑤ ▲ 一時作動

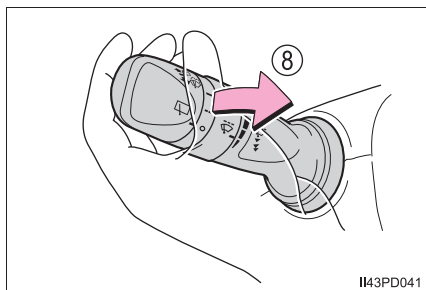


間欠作動が選択されているときは、次のようにツマミをまわして間欠時間を調整できます。

- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）
- ⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



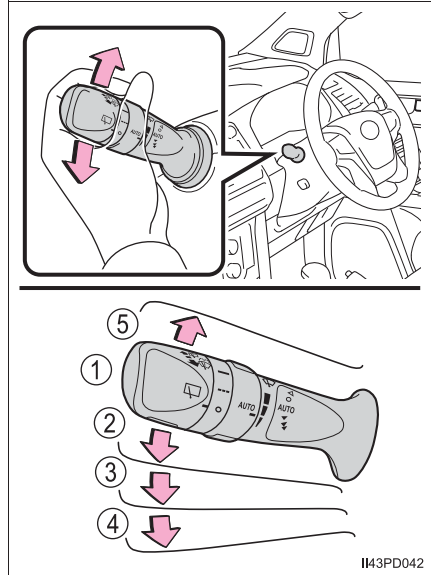
- ⑧  ウォッシャー液を出す
レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー

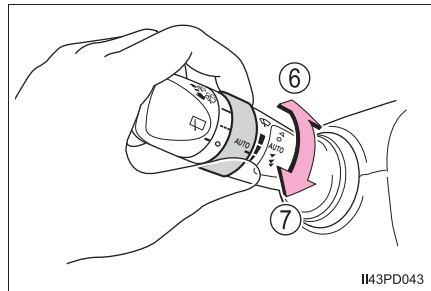
“AUTO” を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

- ① ○ 停止
- ② AUTO 雨滴感知オート作動
- ③ ▼ 低速作動
- ④ ▼▼ 高速作動
- ⑤ ▲ 一時作動



“AUTO” が選択されているときは、次のようにツマミをまわして雨滴センサーの感度を調整できます。

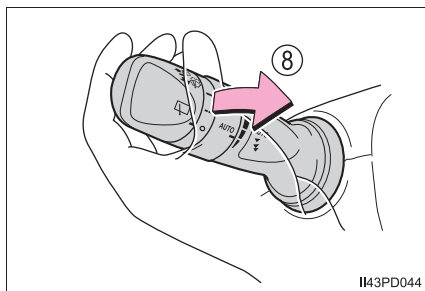
- ⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）
- ⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します)

ヘッドランプが点灯しているときは、ヘッドランプクリーナーが1回作動します。



I43PD044

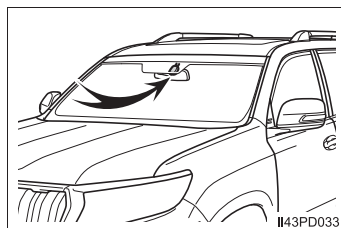
知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。



I43PD033

- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが1回作動します。
- ワイパースイッチが AUTO モードのときに雨滴感知センサーの感度調整を高側へ調整すると、作動確認のためにワイパーが1回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **警告****■ AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが働くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ フロントガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは


ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

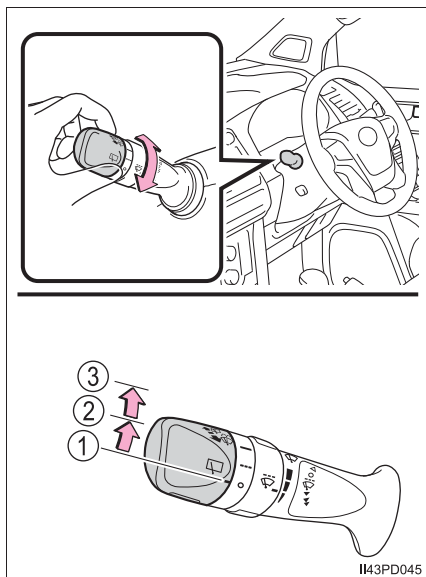
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。


ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

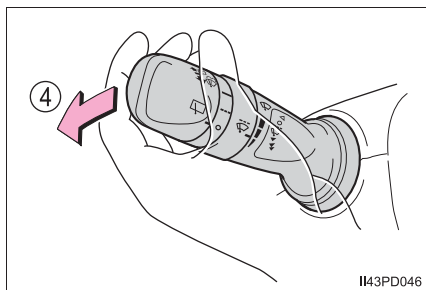
操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

- ① ○ 停止
- ② --- 間欠作動
- ③ — 通常作動



- ④  ウォッシャー液を出す
レバーを前方に押しとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードで、バックドアガラス(→P. 123)が閉まっているとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **注意****■ 窓ガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

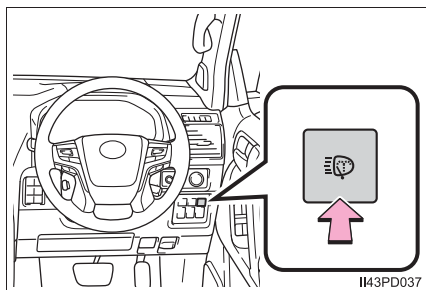
■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー

ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。

スイッチを押してヘッドランプを洗淨する



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードでヘッドランプが点灯しているとき

■ フロントガラスウォッシャー連動作動

エンジンスイッチがイグニッションONモードでヘッドランプが点灯しているときに、フロントガラスのウォッシャーを作動させると、ヘッドランプクリーナーが1回作動します。(→ P. 219)

注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

▶ ガソリン車

無鉛レギュラーガソリン

▶ ディーゼル車

超低硫黄軽油 (S10ppm 以下)

■ エタノール混合燃料について (ガソリン車)

エタノール混合燃料 (エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下) も使用することができます。

 **警告****■ 給油するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 喫煙しないでください。

- 給油口にノズルを確実に挿入してください。

- 継ぎ足し給油をしないでください。

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 **注意****■ 給油するとき**

指定の燃料を使用してください。

指定以外の燃料（粗悪ガソリン・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

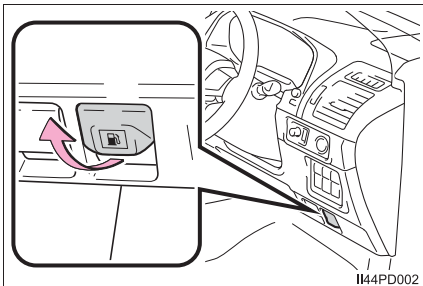
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する
- 排出ガス浄化装置が正常に機能しない（ディーゼル車）※

※ 指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

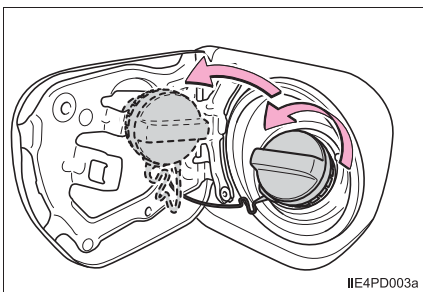
給油口の開け方

- 1 オープナーを上げて、給油口を開ける



IIE4PD002

- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける

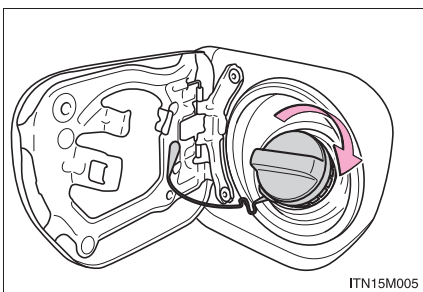


IIE4PD003a

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



ITN15M005

⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ PCS (プリクラッシュセーフティ)

→ P. 237

◆ LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き])

→ P. 248

◆ AHB (オートマチックハイビーム)

→ P. 213

◆ RSA (ロードサインアシスト)

→ P. 258

◆ レーダークルーズコントロール

→ P. 263

◆ 先行車発進告知機能

→ P. 276



警告

■ Toyota Safety Sense について

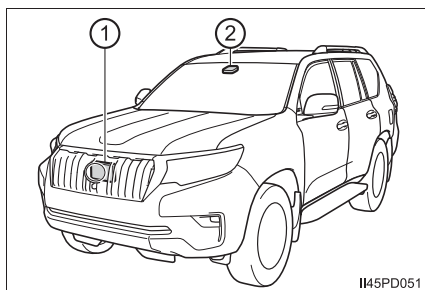
Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

- ① レーダー
- ② 前方カメラ



警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

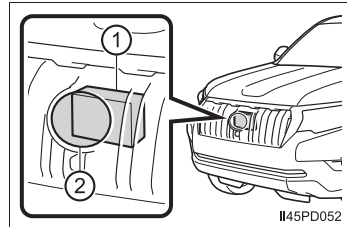
● レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

① レーダー

② レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



● レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

● レーダー周辺への強い衝撃を避ける

レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

● レーダーを分解しない

● レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

● 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパーを交換したとき

警告

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

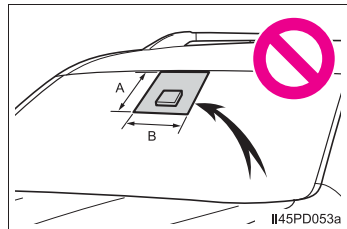
● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

● フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A: フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B: 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 331）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

 **警告**

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 **知識**

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

- 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウィンドウガラスの曇りを取るには：→ P. 331）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外するとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周囲の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウィンドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周囲の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウィンドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ現在使用できません”が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

- 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外するとき
- ・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
- ・ 車両周囲の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には“プリクラッシュセーフティ現在使用できません”が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 237）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 241）

システムの作動対象

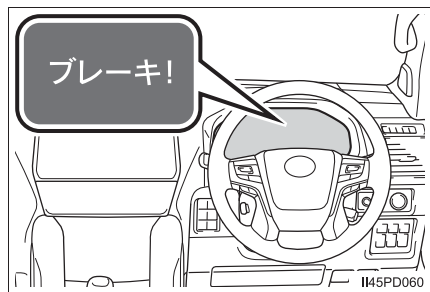
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ ブリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ ブリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS (→ P. 292) によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：
→ P. 243
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 245
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

 **警告****■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

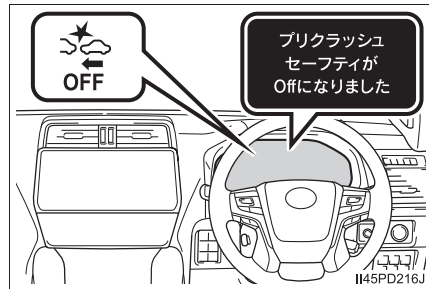
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの ☀ (→ P. 93) から、プリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

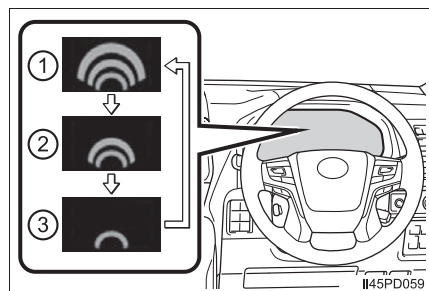


■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの ☀ (→ P. 93) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

- ① 早い
- ② 中間
初期設定
- ③ 遅い



知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

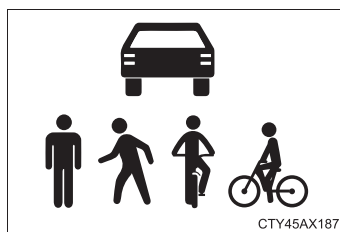
- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 245）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

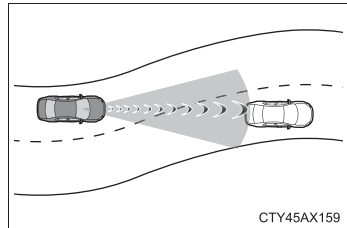
プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

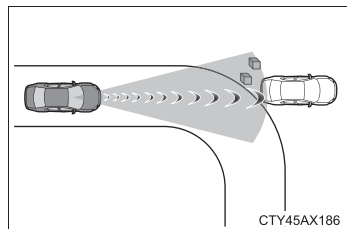
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

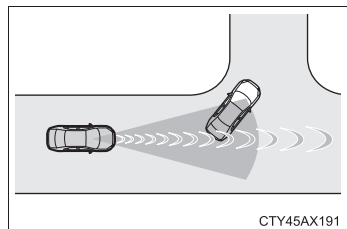
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



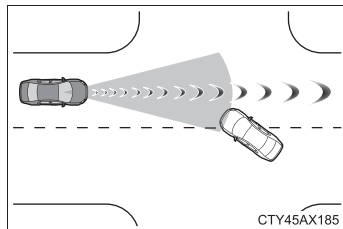
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体が存在するとき



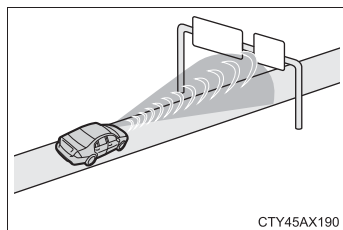
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



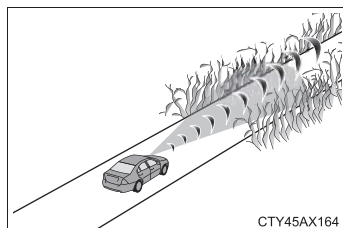
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

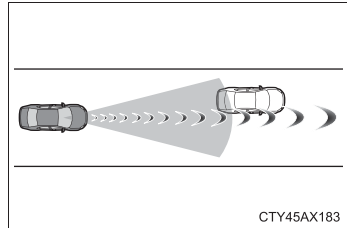


- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

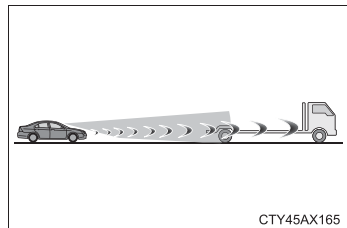
● 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき



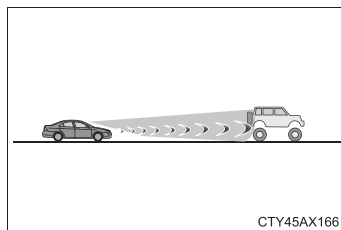
CTY45AX183

- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

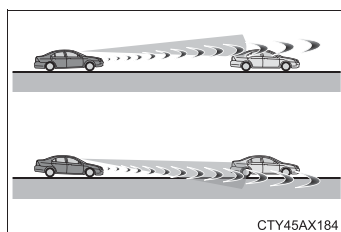


CTY45AX165

- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき

- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
 - ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
 - ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
 - ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■ VSC を停止したとき

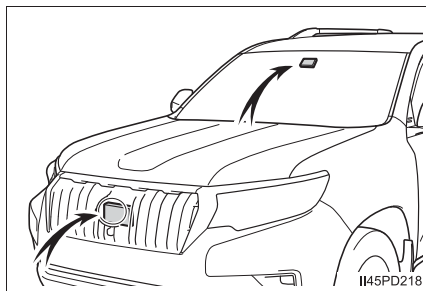
- VSC の作動を停止（→ P. 294）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA (レーンディパーチャーアラート※¹[ヨーアシスト機能付き])

機能概要

白(黄)線が整備された道路を走行中、車線または走路※²からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※²からの逸脱を避けるための進路修正の一部を支援します。

白(黄)線または走路※²を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。



※¹ : 車線逸脱警報

※² : アスファルトと草・土・縁石等の境界

 **警告****■ LDA をお使いになる前に**

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

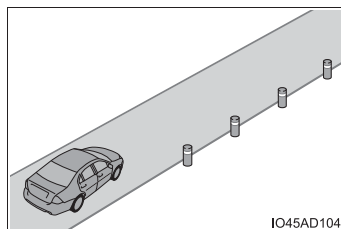
- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

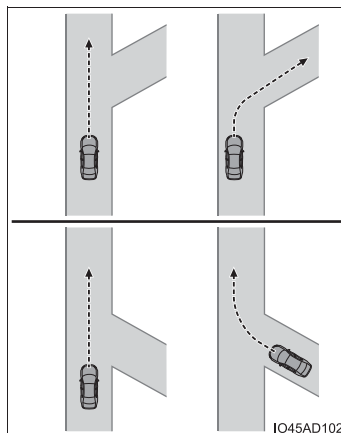
■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

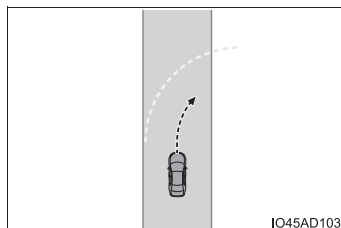
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



- 分岐・合流路などを走行するとき



- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき

 **警告**

- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき

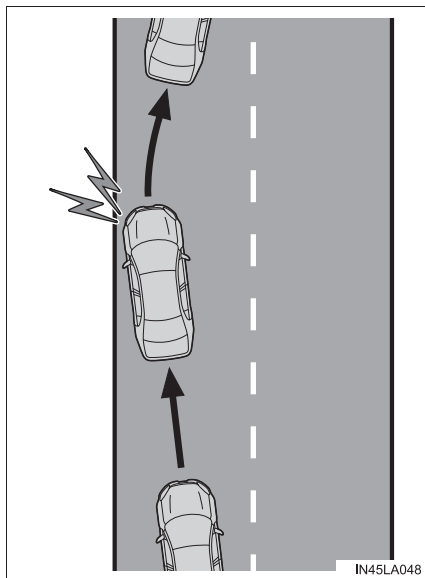
LDA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路[※]内の中央付近にもどってください。

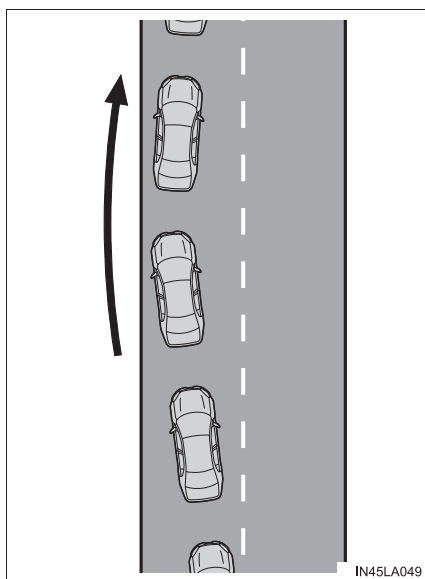
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ 車線逸脱抑制機能（ヨーアシスト機能）

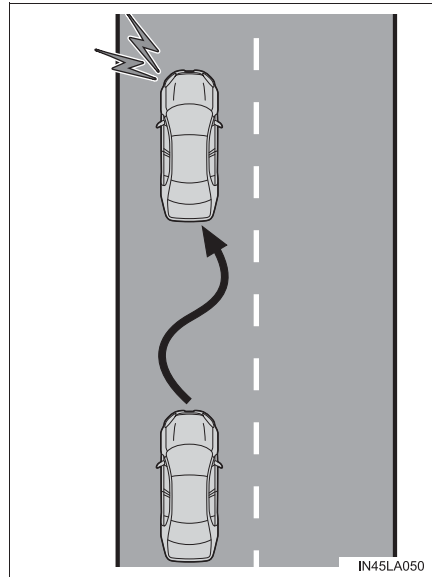
車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、短時間、ブレーキを作動させて、車線からの逸脱を避けるために必要な進路修正の一部を支援します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



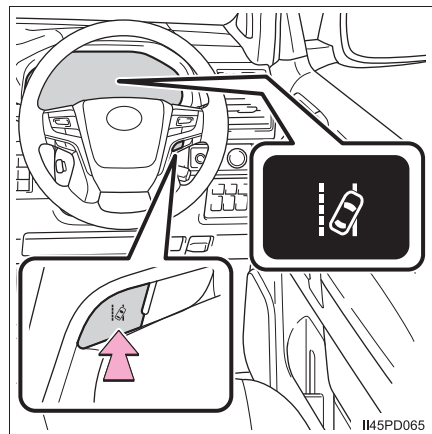
設定のしかた

LDA を ON するには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF には、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON / OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

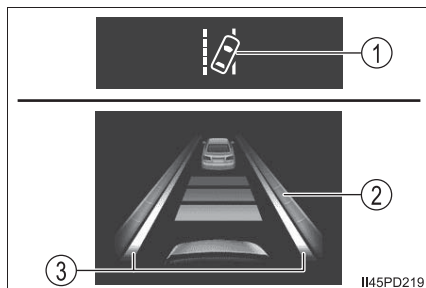
① LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：ヨーアシスト機能が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中



② ヨーアシスト機能の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援機能情報画面に切りかえると表示されます。

ヨーアシスト機能が作動中であることを示しています。

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援機能情報画面に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能


次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線または走路[※]を認識しているとき（白〔黄〕線または走路[※]が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 257）

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界


● 車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイので「ヨーアシスト」を「ON」に設定しているとき（→ P. 87）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・マルチテレーン ABS[★]・VSC・TRC・アクティブ TRC[★]・PCS が作動していないとき
- ・ TRC・アクティブ TRC[★]または VSC を OFF にしていないとき

● ぶらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイので「ぶらつき検知」を「ON」に設定しているとき（→ P. 87）
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→ P. 257）

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 255）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 車線逸脱抑制機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- この機能によるヨーアシストは、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。
- 車線逸脱抑制機能作動中に、ブレーキペダルを踏んだとき、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ 車線逸脱警報機能について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。
- 走路[※]がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。
- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●「LDA 故障 販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「LDA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LDA を OFF にして、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください。

短時間に車線または走路[※]からの逸脱を繰り返したため、システムが一時停止しています。エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、イグニッション ON モードにしてください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

●「LDA 現在の車速では使用できません」

車速が LDA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

●「LDA 約 50km/h 以下で使用できません」

車速が約 50km/h 以下のため、使用できません。約 50km/h より速い速度で走行してください。

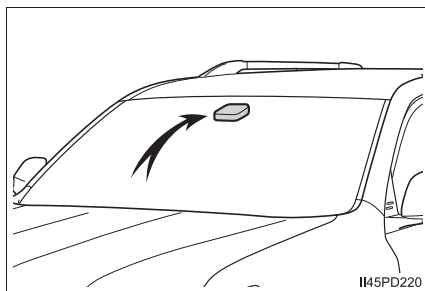
■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P. 488)

RSA (ロードサインアシスト)

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

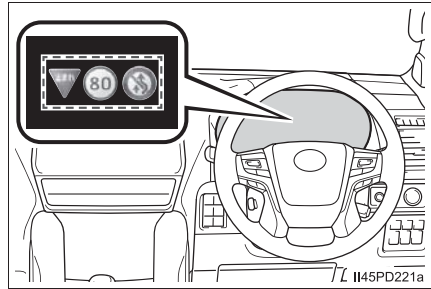
■ RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

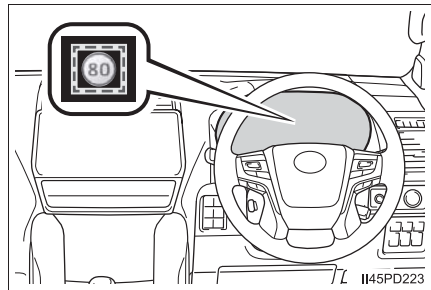
マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 走行支援機能情報画面を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。（→P. 87）



- 走行支援機能情報画面以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。
 - ・ 最高速度標識
 - ・ 車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



最高速度



はみ出し通行禁止



車両進入禁止



終わり※



一時停止

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

 知識

■ 設定のしかた

→ P. 93

■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧: → P. 488)

レーダークルーズコントロール

機能概要

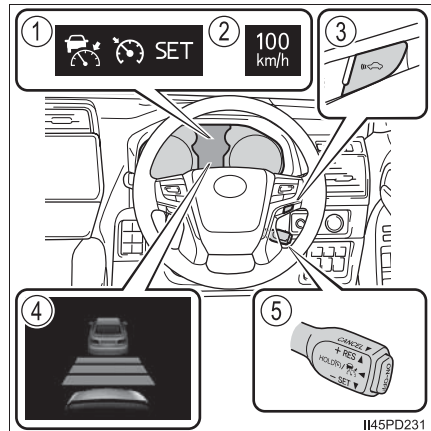
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード (→ P. 266)
- 定速制御モード (→ P. 271)

システムの構成部品

- ① 表示灯
- ② 設定速度
- ③ 車間距離切りかえスイッチ
- ④ マルチインフォメーションディスプレイ
- ⑤ クルーズコントロールスイッチ



 **警告****■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→ P. 274
 - ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→ P. 275
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

 **警告****■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

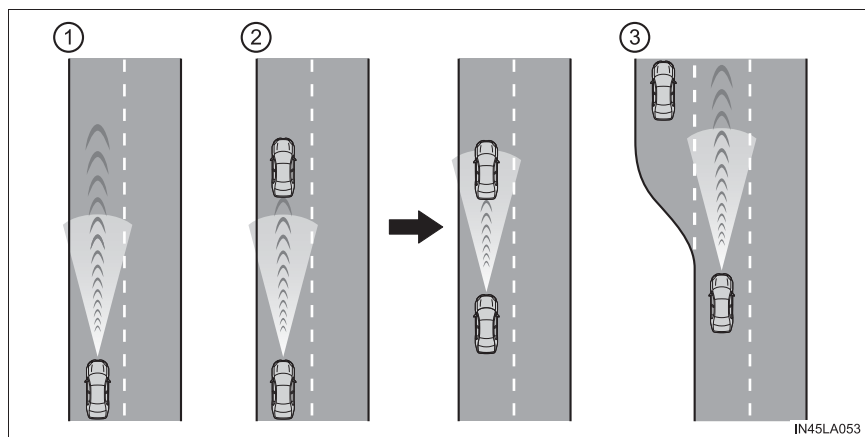
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



① 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

② 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の车速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

③ 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

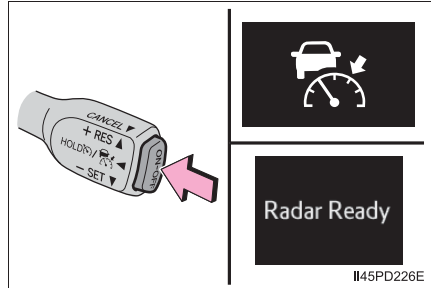
速度を設定する（車間制御モード）

- 1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF するには再度スイッチを押しません。

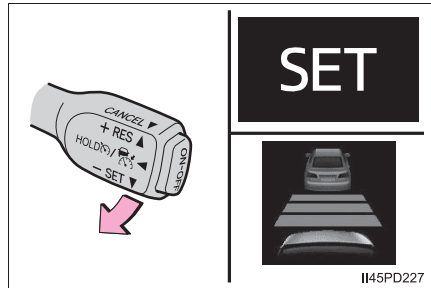
ON-OFFスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 271）



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



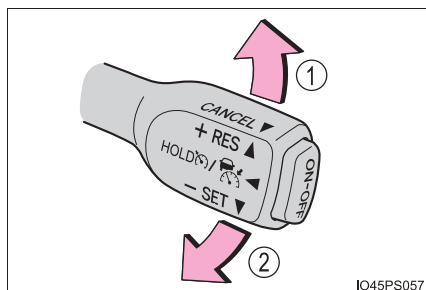
設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

- ① 速度を上げる
- ② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



IO45PS057

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 271）では、設定速度は、次のとおりに増減されます

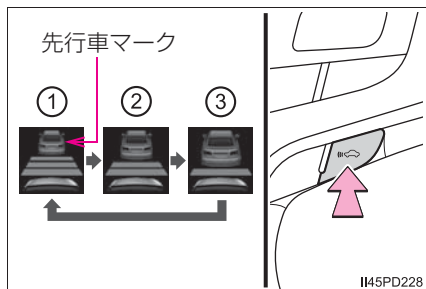
微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- ① 長い
- ② 中間
- ③ 短い



II45PD228

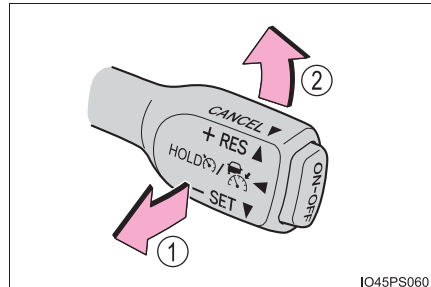
車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
 （車速 80km/h で走行している場合）
 なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御を解除する・復帰させる

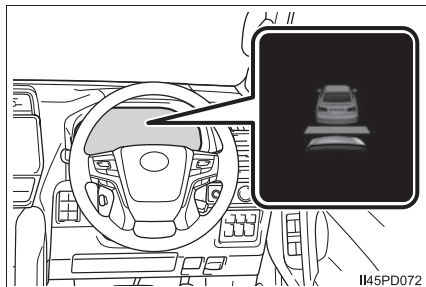
- ① 制御を解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。
- ② 制御を復帰させるには、レバーを上げる
ただし、車速が約 25km/h 未満のときは復帰しません。



IO45PS060

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

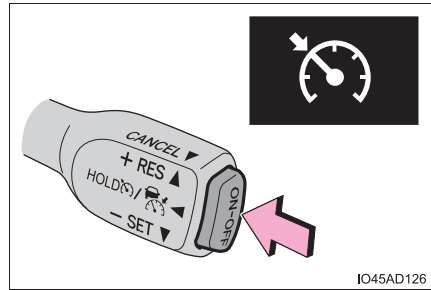
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



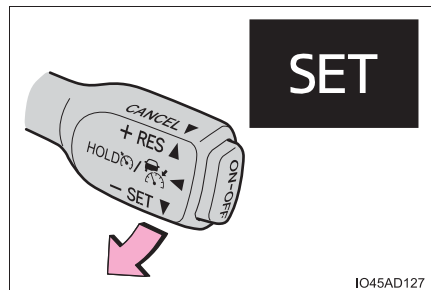
- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→ P. 268）

制御を解除する・復帰させる（→ P. 269）



 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- 制御モードによって、設定できる車速は次のとおりです。
 - ・ 車間制御モード：約 30km/h 以上のとき
 - ・ 定速制御モード：約 30km/h 以上のとき

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車速が約 25km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC・アクティブ TRC ★が一定時間作動したとき
- TRC・アクティブ TRC ★または VSC を OFF にしたとき
- 走行モードをセカンドスタートモードにセットしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- センターデフロックスイッチ★操作後、約 5 秒以上切りかえ中が続いたとき

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC・アクティブ TRC ★が一定時間作動したとき
- TRC・アクティブ TRC ★または VSC を OFF にしたとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)
- センターデフロックスイッチ★操作後、約 5 秒以上切りかえ中が続いたとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

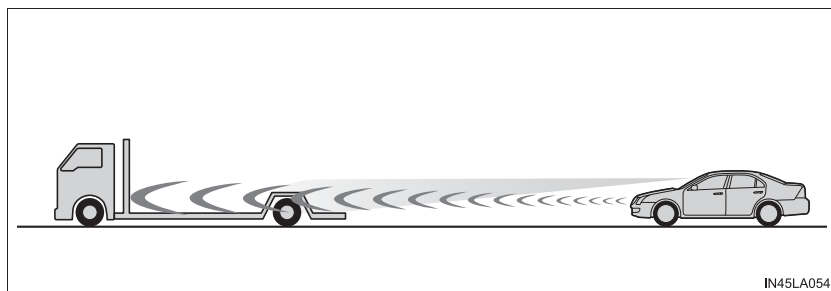
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→ P. 236, 442)

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

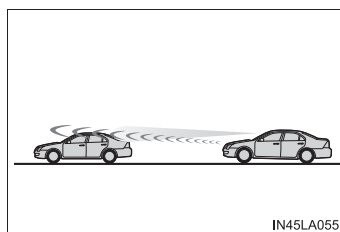
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 270）も作動しないおそれがあります。

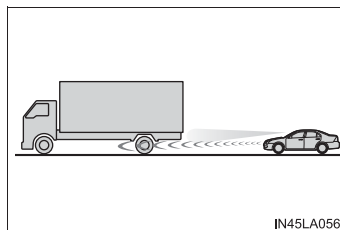
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

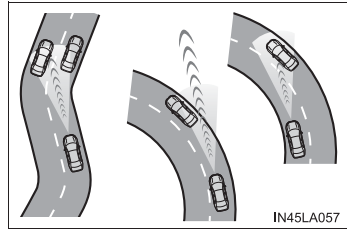


■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

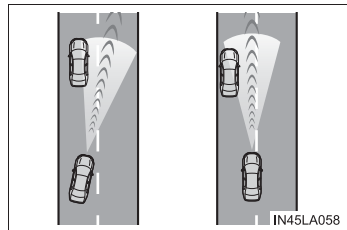
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



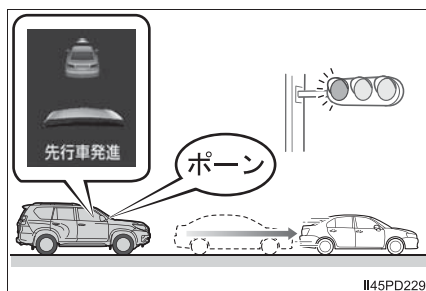
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



 知識

■ 作動条件

シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているときに作動します。

■ 先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■ 先行車が発進していても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

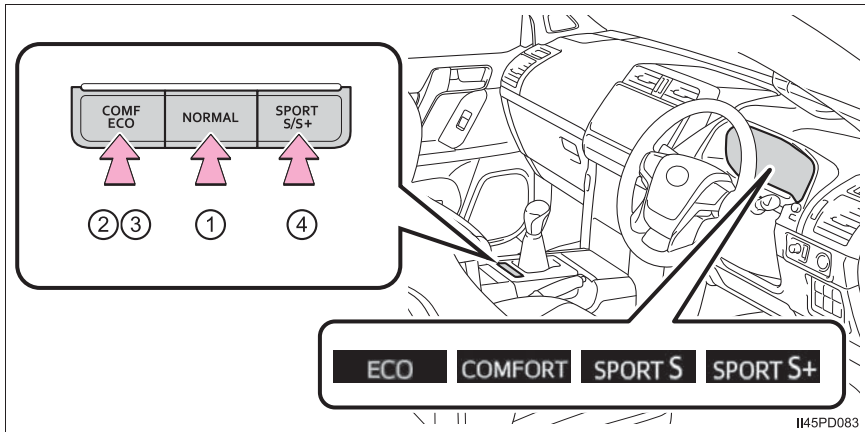
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 先行車発進告知機能の設定を変更するには

- 先行車発進告知機能の ON / OFF
システムの ON / OFF を切りかえることができます。（→ P. 93）
- 先行車発進告知機能の告知距離
告知する距離を切りかえることができます。（→ P. 93）

ドライブモードセレクトスイッチ★

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。



① ノーマルモード

通常の走行に適しています。

ノーマルモード以外の際に“NORMAL”スイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

② コンフォートモード

サスペンションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。

コンフォートモード以外の際に“COMF ECO”スイッチを押すとコンフォートモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「COMFORT」と表示されます。

③ エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

コンフォートモードの際に“COMF ECO”スイッチを押すとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「ECO」と表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

④ スポーツモード

・ スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速をしたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときに“SPORT S/S+”スイッチを押すとスポーツ S モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S」と表示されます。

・ スポーツ S +モード

トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、スポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときに“SPORT S/S+”スイッチを押すとスポーツ S +モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S +」と表示されます。

知識

■ エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。(→ P. 330)

■ スポーツモードの自動解除

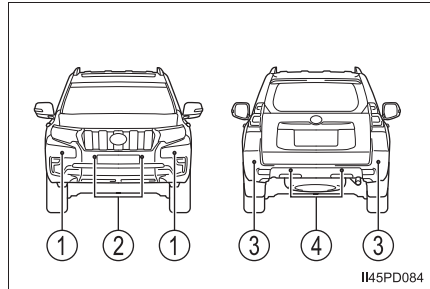
スポーツモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

センサーの位置・種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ バックセンサー



システムを作動させるには

マルチインフォメーションディスプレイの 画面 (→ P. 93) から、クリアランスソナーの ON (作動) / OFF (非作動) を切りかえることができます。

- 1 メーター操作スイッチ (→ P. 88) を上下に操作して を選択し、 を押す
- 2 マルチインフォメーションディスプレイの表示内容に従って、メーター操作スイッチ を上下に操作して「はい」または、「いいえ」を選択し、 を押す

クリアランスソナーが OFF (非作動) になっているときは、クリアランスソナー OFF 表示灯が点灯します。(→ P. 81)

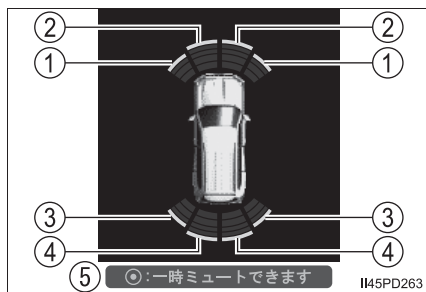
OFF (非作動) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から ON (作動) に切りかえないとシステムは復帰しません。(エンジンスイッチの操作では復帰しません)

クリアランスソナーの表示のしかた






センサーが静止物を検出すると、静止物までの位置と距離を運転者に知らせる次の表示が表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

- ① フロントコーナーセンサー作動表示
- ② フロントセンサー作動表示
- ③ リヤコーナーセンサー作動表示
- ④ バックセンサー作動表示
- ⑤ ブザー音をミュート（消音）させることができます。



距離表示の見方

マルチインフォメーションディスプレイ※	障害物までのおおよその距離	
	フロントコーナー&フロントセンサー	リヤコーナー&バックセンサー
 <p>(点灯)</p>	フロントセンサー： 約 100cm ~ 60cm	バックセンサー： 約 150cm ~ 60cm
 <p>(点灯)</p>	約 60cm ~ 45cm	約 60cm ~ 45cm
 <p>(点灯)</p>	約 45cm ~ 30cm	約 45cm ~ 30cm
 <p>(点灯および枠が遅い 点滅)</p>	約 30cm ~ 15cm	約 30cm ~ 15cm
 <p>(点灯および枠が早い 点滅)</p>	約 15cm 以下	約 15cm 以下

※ イラストは説明のための例であり、表示により異なります (→ P. 282)

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、障害物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。ただし、障害物との距離が約 30cm 以下のときは消音されません。(自動ミュート機能)

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

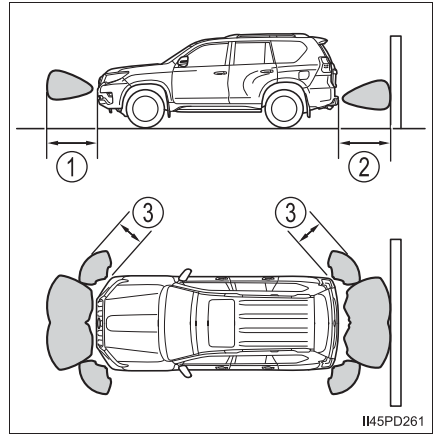
(→ P. 488)

障害物を感知できる範囲

- ① 約 100cm
- ② 約 150cm
- ③ 約 60cm

感知できる範囲は右図のとおりです。
ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



 知識

■ 作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが P 以外にあるとき
 - ・ 車両の速度が約 10km/h 以下のとき (シフトレバーが R にあるときは除く)
- フロントセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが P・R 以外にあるとき
 - ・ 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー・バックセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき

■ センサーの感知について

- センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。
- センサーが障害物に近づきすぎると感知できないことがあります。
- 障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。

■ ブザー音のミュート（消音）について

マルチインフォメーションディスプレイにミュート可能を示す表示が出ているときに、メーター操作スイッチの  を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

- ミュート（消音）が解除される時：
 - 次のとき、自動的にミュート（消音）が解除されます。
 - ・ シフトポジションを切りかえたとき
 - ・ 車速が一定以上になったとき
 - ・ クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
 - ・ エンジンスイッチを OFF にし、再度 ON にしたとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ソナー汚れ」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません」が表示されたときは

大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。メーター操作スイッチを使って設定を変更します（→ P. 488）

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ソナー故障」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

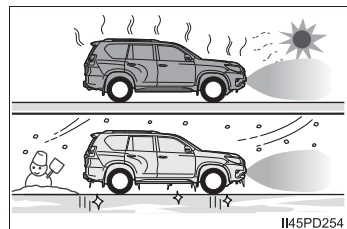
■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

- 炎天下や寒冷時



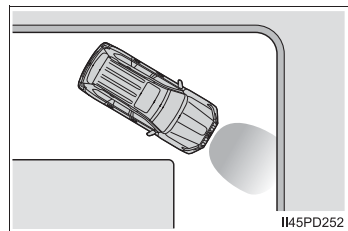
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

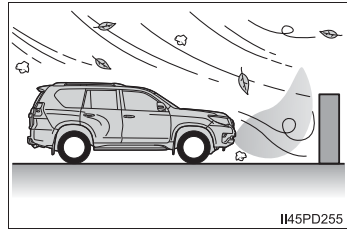
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

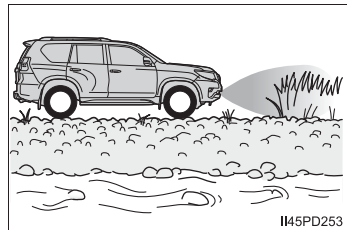


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき

- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

 **警告****■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

 **注意****■ クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・ 障害物を感知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- ・ センサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- ・ バンパーをぶつけたとき
- ・ ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき（ミュート選択時は除く）

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ マルチテレイン ABS（アンチロックブレーキシステム）★

→別冊「オフロード走行取扱書」

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）※¹

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ アクティブ TRC（トラクションコントロール）★※²

→別冊「オフロード走行取扱書」

◆ ヒルスタートアシストコントロール

→別冊「オフロード走行取扱書」

◆ KDSS（キネティックダイナミックサスペンションシステム）★

→別冊「オフロード走行取扱書」

◆ AVS（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や走行状況に合わせショックアブソーバーの減衰力を制御することで、乗り心地の向上や走行安定性を良好な状態に保ちます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

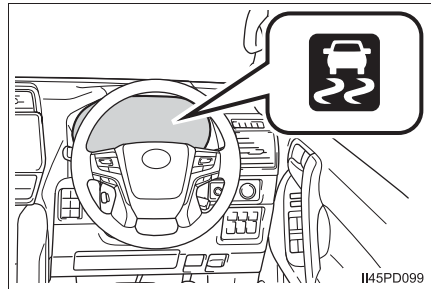
※¹ トランスファースイッチが H4 のとき

※² トランスファースイッチが L4 のとき



ただし、マルチレインセレクト装着車は、マルチレインセレクトが ON のときのみ作動します。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上らず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  または  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

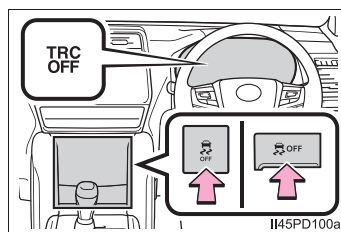
知識

■ TRC の停止方法

TRC を停止するには  または  を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  または  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



■ TRC と VSC の停止方法

TRC と VSC を停止するには、停車時に  または  を押し 3 秒以上保持する。TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。*

もう一度  または  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

* ブリクラッシュブレーキ、ブリクラッシュブレーキアシストも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 247)

■ または を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示灯が消灯しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみ作動を停止している場合) 車速が高くなったとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ AVS ★の NAVI 協調機能について (メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車)

ナビゲーションの道路コーナー情報に基づいて、旋回直前にショックアブソーバーの減衰力を高めることにより、優れたコーナリング性能を実現します。ナビゲーションにおいてルート検索可能な道路にて制御を実施します。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■ TRC が長時間作動すると

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、TRC が自動的に解除されます。この場合、TRC OFF 表示灯が点灯します。(通常走行は可能です)

しばらくして、TRC OFF 表示灯が消えれば TRC が作動可能になります。

■ KDSS ★について

KDSS システムにより左右の車高に若干の差が発生する事がありますが、異常ではありません。

詳細は販売店までお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

 **警告****■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 486）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

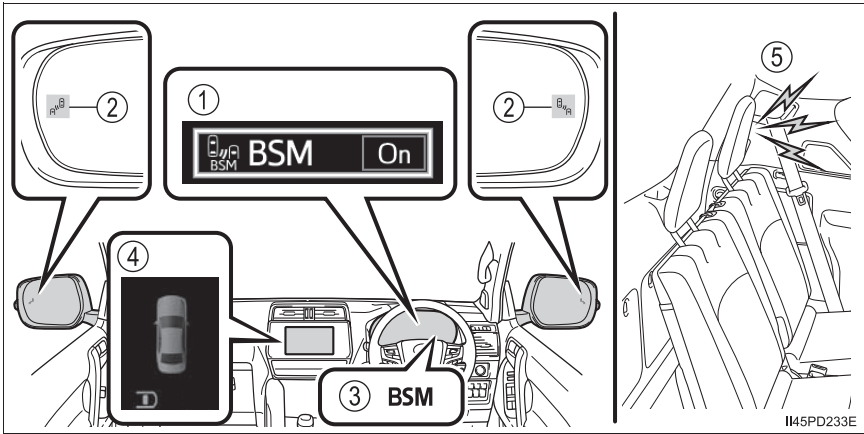
ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能
運転者による車線変更時の判断を支援します。
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能
後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① マルチインフォメーションディスプレイ

BSM の ON / OFF を切りかえます。

② ドアミラーインジケター

BSM 機能：

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケターが点滅します。

RCTA 機能：

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケターが点滅します。

③ BSM 表示灯

BSM が ON のとき、表示灯が点灯します。

④ モニター画面の表示（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面に検知した側の RCTA アイコン（→ P. 306）が点灯します。


イラストは左後方から車両が接近している例です。

⑤ RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

BSM を ON にした直後の約 1 秒間はブザーが鳴ります。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの  画面で BSM の ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 93）

OFF（停止）に切りかえて、BSM を停止させた場合、再度マルチインフォメーションディスプレイから ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいたることがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM システム 使用できません」が表示されたとき

電圧異常やセンサー周辺のリヤバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます（→ P. 301）。センサー周辺のリヤバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM システム チェック」が表示されたとき

センサーの故障や位置・向きがずれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 488）

■ レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。

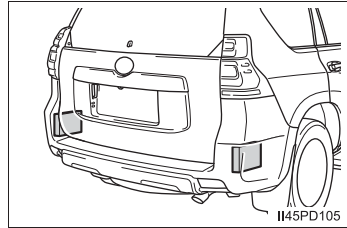
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



® 202 -LSC077

警告**■ システムを正しく作動させるために**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパーの内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
 - ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部がはずれている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼ったり、アクセサリー用品を取り付けたりしない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

BSM 機能

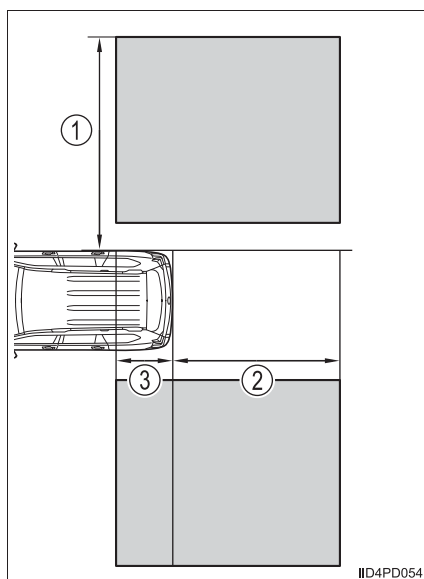
BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

検知できる範囲：

- ① 車両の両側面について、側面から約 3.5m の領域
車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。
- ② リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- ③ リヤバンパーから約 1m 前方の領域



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

 知識**■ BSM 機能の作動条件**

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- BSM 機能が ON のとき
- 車速が約 16km/h 以上のとき

■ BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが検知しない条件

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など[※]
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物[※]
- 同じ車線を走行する後続車[※]
- 2 つ隣の車線を走行する他車[※]
- 大きい速度差で自車が追い越す他車[※]

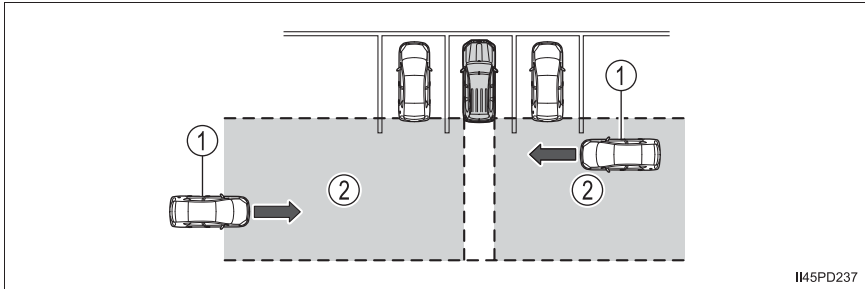
[※] 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
 - ・ BSM を ON にした直後
- BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき

RCTA 機能

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- ① 接近車両
- ② 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面上に次の表示をします。

画面表示	表示内容
	左後方から車両が接近しているとき
	右後方から車両が接近しているとき
	両方向から車両が接近しているとき
	RCTA 機能に異常があるとき (→ P. 300)

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

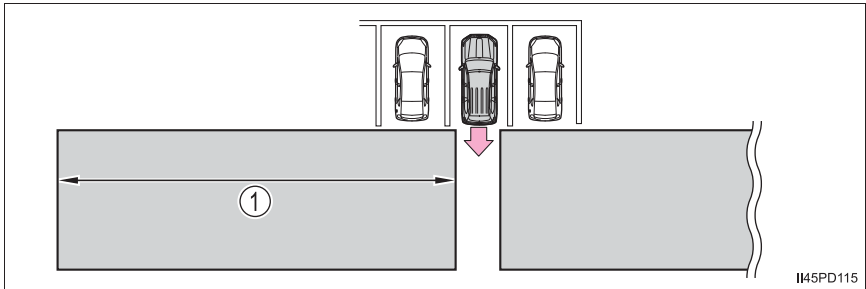
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。(→ P. 302)

■ システムを正しく作動させるために

→ P. 301

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	① 警報距離（概算）
速い	28km/h	20m
遅い	8km/h	5.5m

知識

■ RCTA 機能の作動条件

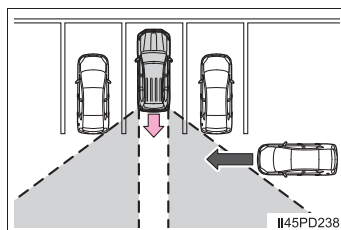
RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- BSM 機能が ON のとき
- シフトレバーが R のとき
- 自車の車速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ~ 28km/h の間のとき

■ システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真うしろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



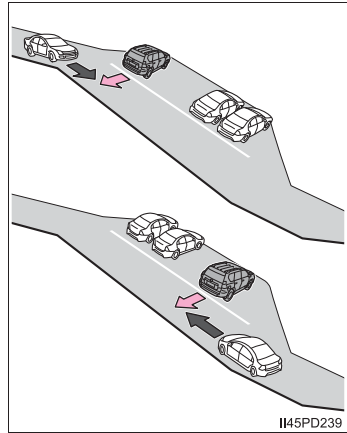
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

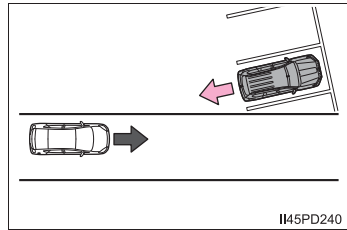
RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

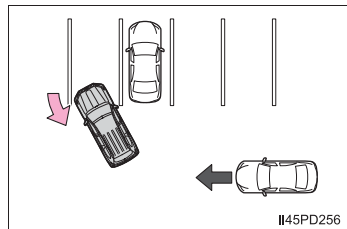
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



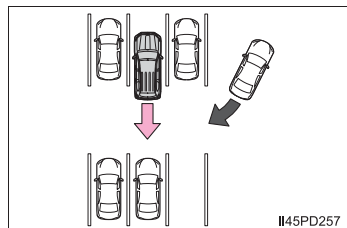
- 斜めの駐車場から出庫するとき



- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



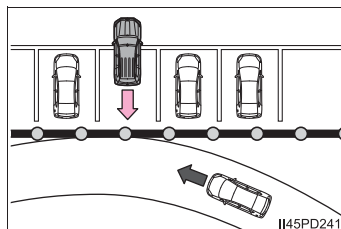
- 旋回しながら車両が近づいてきたとき



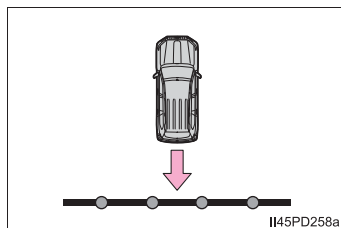
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

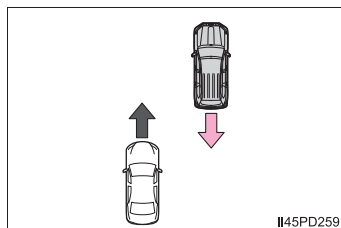
- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



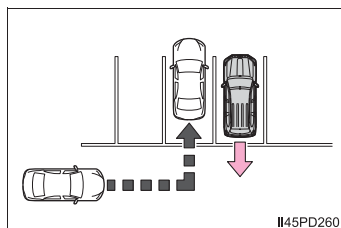
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自転車近くに室外機などの回転体があるとき
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）があります。

◆ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→ P. 320

警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

 **警告****■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

 **注意****■ マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは**

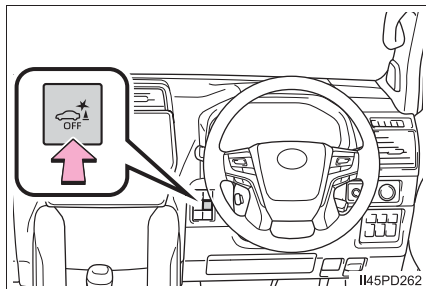
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスセンサーの周辺の汚れを取り除いてください。

PKSB スイッチ

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の ON / OFF を切りかえる

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF（非作動）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。
（→ P. 81）

スイッチを押すたびに ON（作動） / OFF（非作動）が切りかわります。OFF（非作動）にしてエンジンを停止させた場合、再度スイッチを押して ON（作動）にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません。）



エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「加速抑制中です」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「アクセルが踏まれています ブレーキを踏みなおしてください」

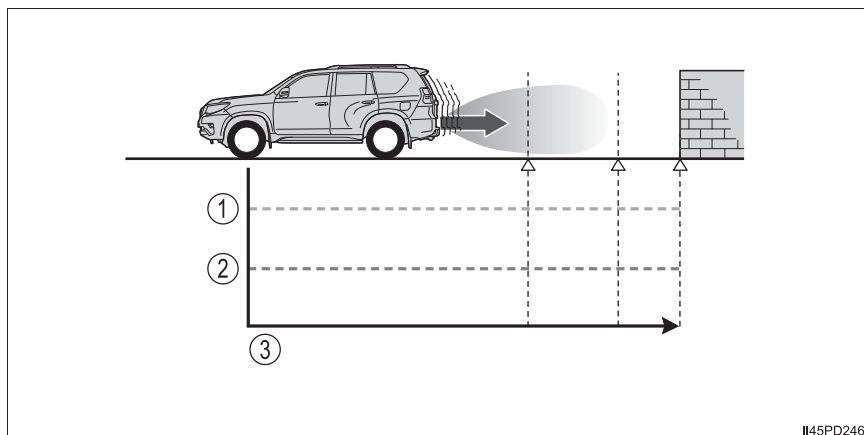
アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏んでください」が表示されます。

PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

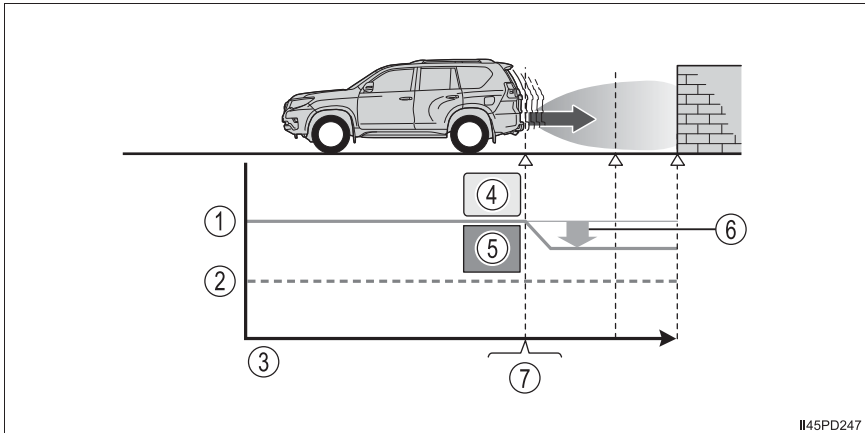
PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

II45PD246

- ① エンジン出力
- ② 制動力
- ③ 時間

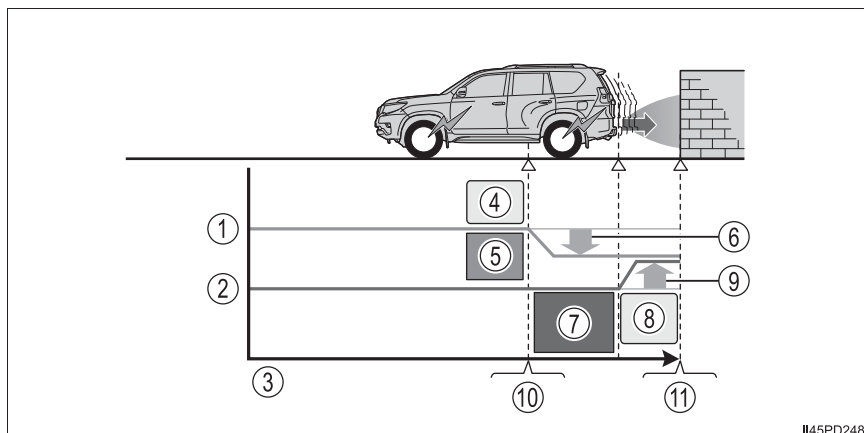
● 図2 (エンジン出力抑制制御時)



II45PD247

- ① エンジン出力
- ② 制動力
- ③ 時間
- ④ エンジン出力抑制制御開始
- ⑤ 作動対象と衝突の可能性があるときシステムが判断したとき
- ⑥ エンジン出力を抑える
- ⑦ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「ブレーキ！」

● 図3 (エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時)



I145PD248

- ① エンジン出力
- ② 制動力
- ③ 時間
- ④ エンジン出力抑制制御開始
- ⑤ 作動対象と衝突の可能性があるシステムが判断したとき
- ⑥ エンジン出力を抑える
- ⑦ 作動対象と衝突の可能性が非常に高いシステムが判断したとき
- ⑧ ブレーキ制御開始
- ⑨ ブレーキ制御を上げる
- ⑩ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「ブレーキ！」
- ⑪ 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示「アクセルが踏まれています ブレーキを踏みなおしてください」

 知識**■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは**

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合、次のいずれかを行うと、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰します。このとき、PKSB OFF 表示灯が消灯します。（→ P. 81）

- PKSB システムを ON（作動）にする（→ P. 314）
- エンジンスイッチを OFF にしてから、イグニッション ON モードにする
- シフトレバーを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■ マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは

- 同時に「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示されている場合は、センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。
- 大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■ バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■ トランスファーレンジを L4 にしたときは

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は自動的に OFF（非作動）になります。

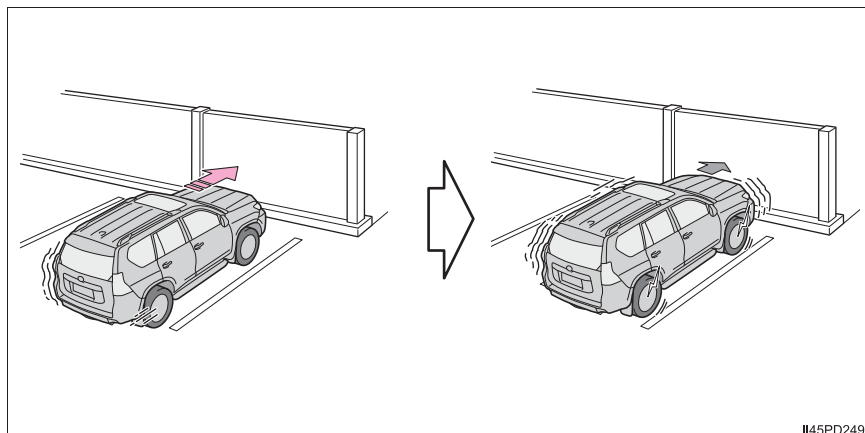
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

システム作動例

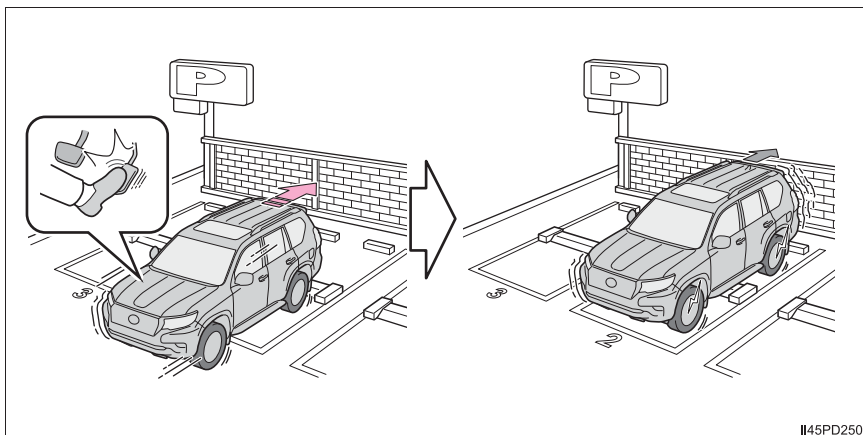
次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき

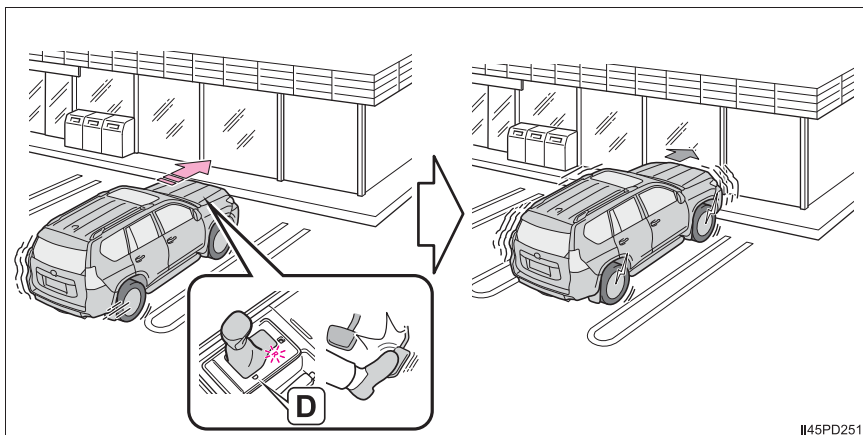


II45PD249

■ アクセルペダルを踏みすぎってしまったとき



■ 誤ってシフトレバーをDに入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→ P. 281

 **警告****■ システムを正しく作動させるために**

→ P. 290

■ 万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→ P. 319

■ 洗車時の注意

→ P. 290

 知識**■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件**

PKSB OFF 表示灯が点灯（→ P. 79, 81）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物がある（約 2～4m 先まで）
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ エンジン出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2～4m 先まで）

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2～4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 285）とは異なります。

そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 287

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 288

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
 - ・ 燃料（ディーゼル車）
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。
 - ・ タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 376）
 - ・ タイヤチェーンは、必ずランドクルーザープラド指定のトヨタ純正品を使用してください。（→ P. 327）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については、次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ~ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ ディーゼル車の燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分に以下にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安 [※]
JIS 2 号軽油	- 5℃
JIS 3 号軽油	- 12℃
JIS 特 3 号軽油	- 19℃

※ 環境や使用状況により異なります。

■ リヤライトコントロールエアサスペンション※ 装着車は

寒冷時は、リヤライトコントロールエアサスペンションの作動に制限がかかる場合があります。

※ リヤライトコントロールエアサスペンションについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

▲ 警告**■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジnbrakeの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA(レーンディパーチャーアラート[ヨーアシスト機能付き])を使用しない

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

- 必ずランドクルーザープラド指定のトヨタ純正品を使用してください。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコン・デフォグガーの
使い方

オートエアコン	330
シートヒーター & ベンチレーター	336

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	338
・フロント パーソナルランプ	339
・ルームランプ	340
・読書灯	340
・ラウンジ照明調光 スイッチ	341

5-3. 収納装備の使い方

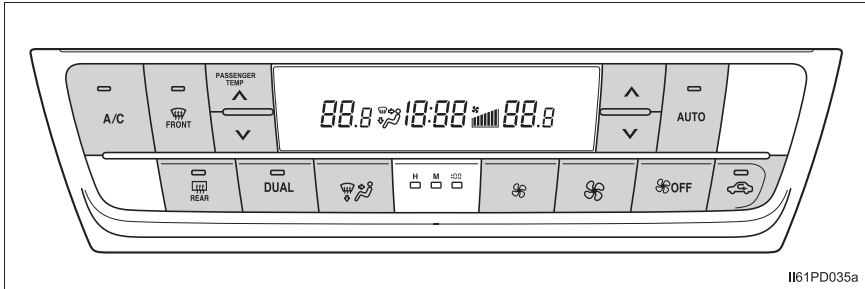
収納装備一覧	343
・グローブボックス	344
・コンソールボックス	345
・カップホルダー／ ボトルホルダー／ ドアポケット	347
・小物入れ	350
・オープントレイ	351
・カードホルダー	352
ラゲージルーム内装備	353

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	357
・サンバイザー	357
・バニティミラー	357
・後席確認ミラー	358
・時計	359
・アクセサリーソケット・ アクセサリーコンセント	360
・アームレスト (セカンドシート)	363
・コートフック	363
・アシストグリップ	364
・ステアリングスイッチ	365

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。






■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは“**^**”を、下げるときは“**v**”を押す

A/C スイッチのインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは  を、減らすときは  を押す

 OFF を押すと、ファンが止まります。


■ 吹き出し口を切りかえる

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

エアコン操作について

■ オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 ファンを止めたいときは  OFF を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- DUAL スイッチを押す
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

左右独立モードのとき、リヤ吹き出し口の設定温度は、運転席側の設定温度になります。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す


スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ フロントガラスの曇りを取るには


を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグター & ミラーヒーター

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときにご使用ください。

を押す

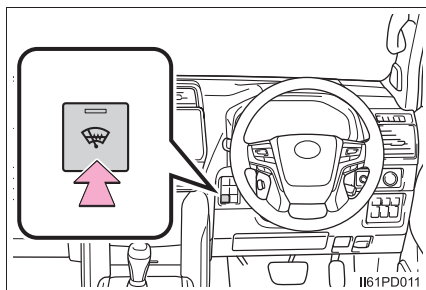
リヤウインドウデフォグターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウィンドシールドデアイサー★

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにご使用ください。

ウィンドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウィンドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



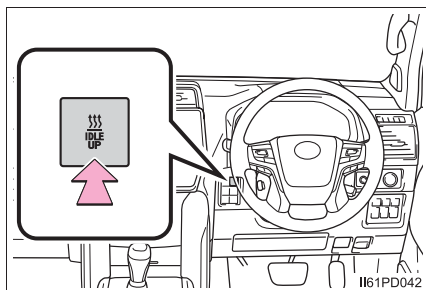
■ ヒーターアイドルアップ機能★

寒冷時に暖房効果を高めるためにご使用ください。

ヒーターアイドルアップスイッチを押す

アイドル回転数が上がります。もう一度スイッチを押すと、もとのアイドル回転数にもどります。

スイッチを押した状態でエンジン停止後にエンジンを再始動すると、アイドル回転数が上がります。

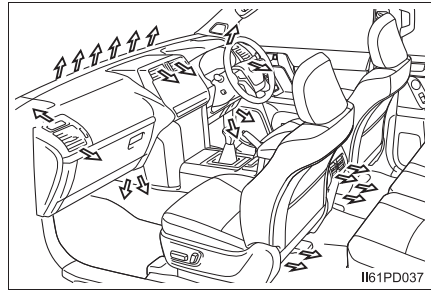


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

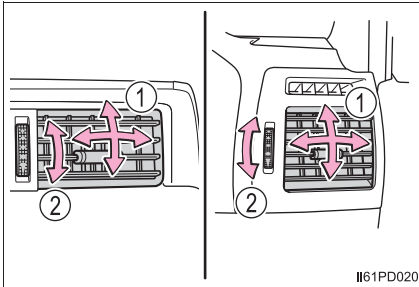
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



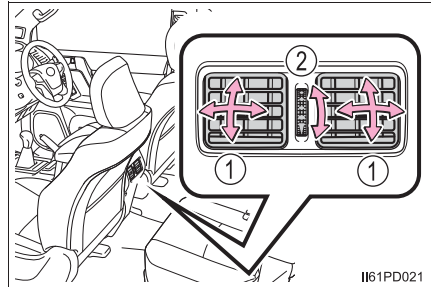
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口の開閉

▶ リヤ



- ① 風向きの調整
- ② 吹き出し口の開閉

 知識**■ オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内気循環／外気導入について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

A/C スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について（ドライブモードセレクトスイッチ装着車）

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 風量を調整する
 - ・ エコドライブモードを解除する

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 398

■ 設定可能な機能

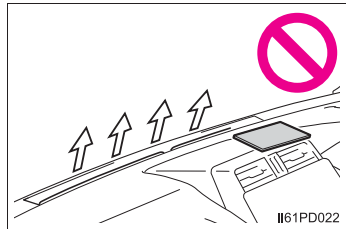
AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 488)

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■ リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。(ウインドシールドデアイサー装着車)

⚠ 注意

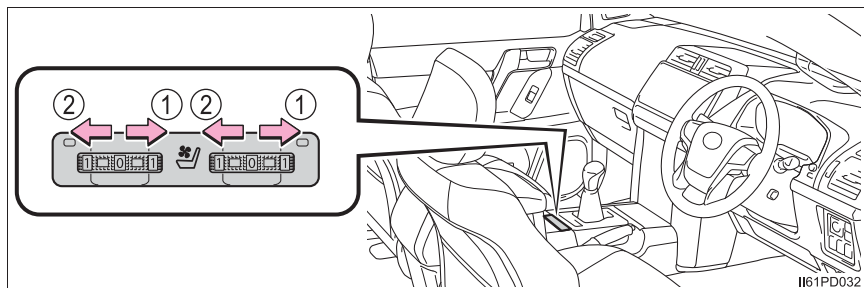
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター & ベンチレーター★

フロントシートを暖めたり、フロントシートから風を出して通気をよくできます。



- ① シートを暖める
表示灯が点灯します。
数字が大きくなるほど高温になります。
- ② シートから風を出す
表示灯が点灯します。
数字が大きくなるほど風が強くなります。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 使用しないときは

ノブを “0” にもどしてください。表示灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

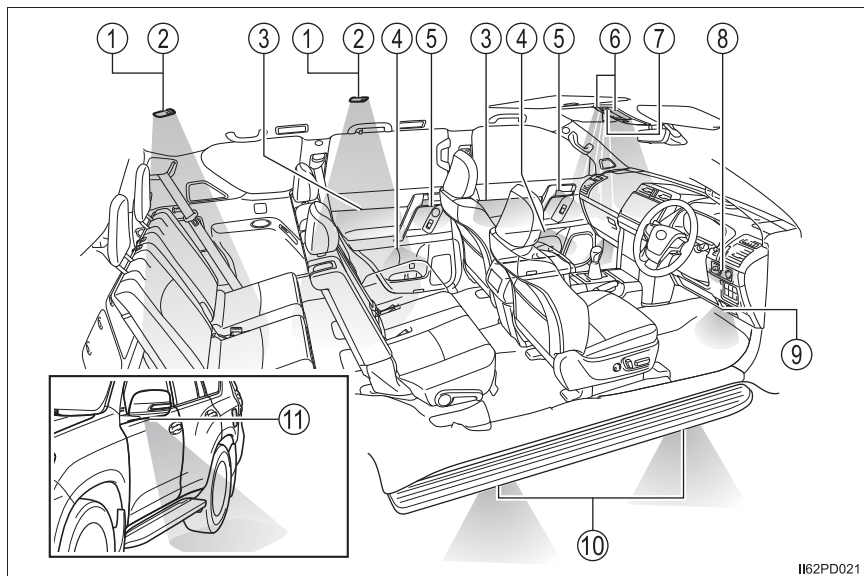
 **警告**

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

 **注意**

- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止した状態で使用しないでください。

室内灯一覧



I162PD021

- ① ルームランプ★ (→ P. 340)
- ② 読書灯★ (→ P. 340)
- ③ ドアトリム照明★※
- ④ ドアポケット照明★※
- ⑤ インサイドドアハンドル照明★※
- ⑥ フロントパーソナルランプ (→ P. 339)
- ⑦ センターコンソールイルミネーション★
- ⑧ エンジンスイッチ照明
- ⑨ 足元照明★※
- ⑩ サイドステップ照明★
- ⑪ ドアミラー足元照明★

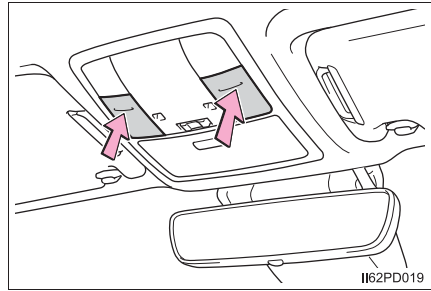
※ ラウンジ照明調光スイッチ (→ P. 341) で、明るさを調整できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントパーソナルランプ

■ 独立スイッチでの操作

ランプを点灯・消灯する

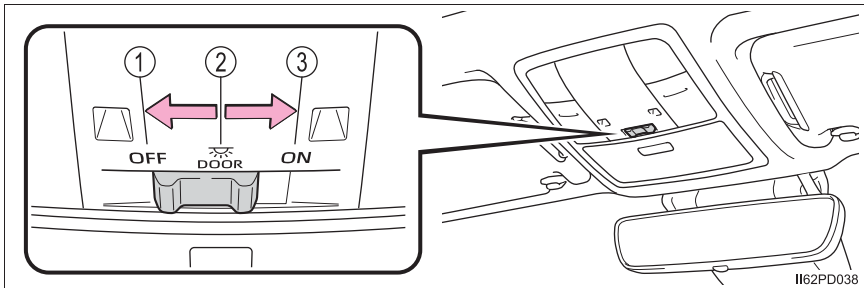


■ 連動スイッチでの操作

フロントパーソナルランプの連動スイッチを操作すると、ルームランプ※¹ または読書灯※² も連動して作動します。

※¹ ルームランプのスイッチがドアポジションのときに連動します。
(→ P. 340)

※² 読書灯のスイッチが OFF のときに連動します。(→ P. 340)



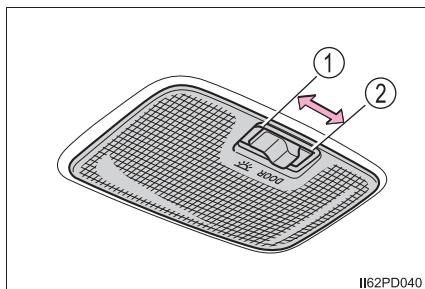
- ① ランプを消灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）を ON にする
ドアを開けると点灯し、ドアを閉めると消灯します。
- ③ ランプを点灯する

ルームランプ★

- ① ランプを点灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）を ON にする

フロントパーソナルランプの連動スイッチに連動して作動します。

(→ P. 339)

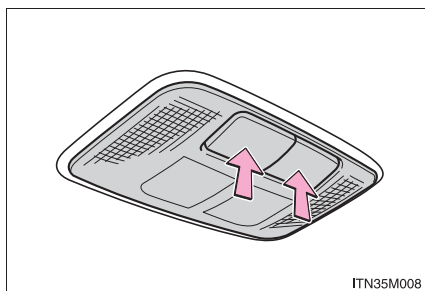


読書灯★

押すたびにスイッチの ON / OFF が切りかわります。

- ・ ON :
ランプを点灯する
- ・ OFF :
フロントパーソナルランプの連動スイッチに連動して作動する
(→ P. 339)

連動スイッチによって点灯しているときは、読書灯のスイッチで消灯することはできません。

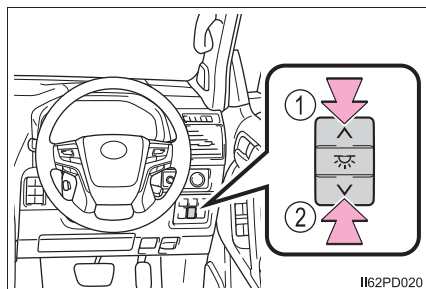


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラウンジ照明調光スイッチ★

次の照明の明るさを調整することができます。

- インサイドドアハンドル照明
 - ドアトリム照明
 - ドアポケット照明
 - 足元照明
- ① 明るくする
 - ② 暗くする



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明※が自動的に点灯・消灯します。

※ フロントパーソナルランプとルームランプの両方共に、スイッチの位置がドアポジション (☞) のときに作動します。

■ 自動消灯機能

エンジンスイッチが OFF の場合、次の照明が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

- フロントパーソナルランプ
- ルームランプ★
- ドアトリム照明★
- ドアポケット照明★
- インサイドドアハンドル照明★
- 足元照明★

■ カスタマイズ機能

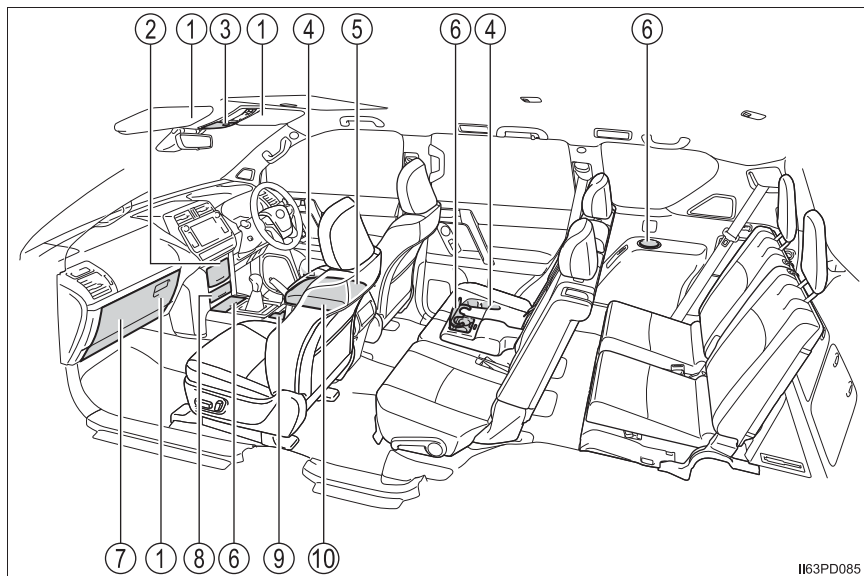
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 491)

 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



- ① カードホルダー (→ P. 352)
- ② センターボックス★ (→ P. 350)
- ③ オーバーヘッドコンソールボックス (後席確認ミラー付き)
(→ P. 350)
- ④ ボトルホルダー (→ P. 348)
- ⑤ ドアポケット (→ P. 348)
- ⑥ カップホルダー (→ P. 347)
- ⑦ グローブボックス (→ P. 344)
- ⑧ インstrumentパネルボックス★ (→ P. 350)
- ⑨ オープントレイ★ (→ P. 351)
- ⑩ コンソールボックス (エアコン送風機能付き) (→ P. 345)

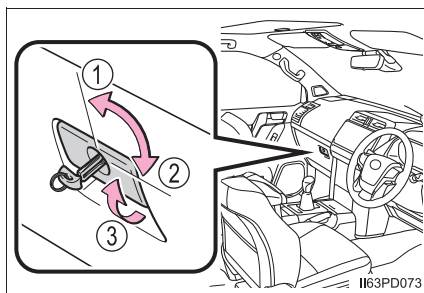
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

- メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
 放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
 急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

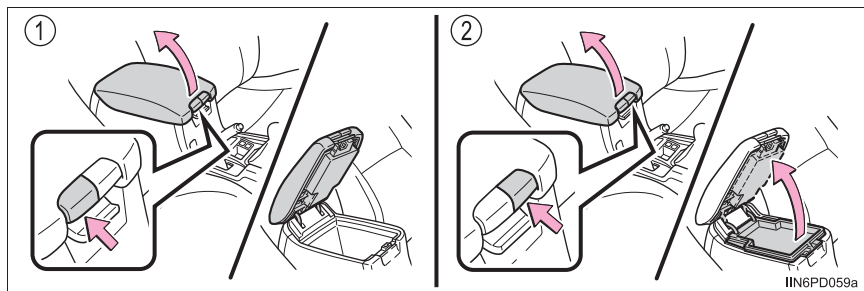
グローブボックス

- ① メカニカルキーで解錠
- ② メカニカルキーで施錠
- ③ 開ける（レバーを引き上げる）



知識

- 車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。
- グローブボックス内に、カードホルダーがあります。（→ P. 352）

コンソールボックス（エアコン送風機能付き）

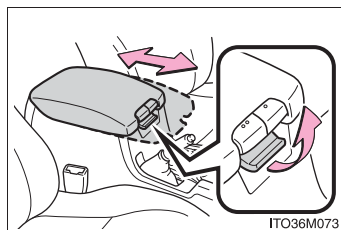
左右いずれかのノブを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

- ① 中間トレイごと開くとき
- ② フタのみを開くとき

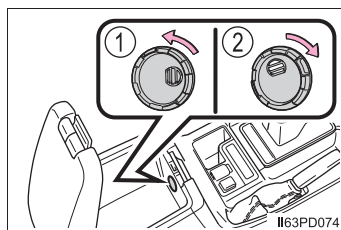
中間トレイは持ち上げて開くことができます。

知識

- コンソールボックスのフタをアームレストとして使うときは、レバーを引き上げ、フタを前後にスライドして位置を調整できます。



- A/C スイッチ (→ P. 330) が ON のとき、エアコンの冷風をコンソールボックス内へ送風することができます。また、送風開閉ダイヤルで送風機能の ON / OFF 切りかえが可能です。(エアコン送風機能)



- ① 開ける
- ② 閉じる

- 入れるものとして適さないもの
 - ・ フタがされていない容器に入ったもの
 - ・ 割れもの・腐るもの・臭いが強いもの
 - ・ 取扱書・車検証・電子機器・CD など

注意

コンソールボックスのフタや中間トレイが閉まらない、またはフタだけを閉めようとしても中間トレイが一緒に持ち上がってしまうときは、次のことを確認してください。

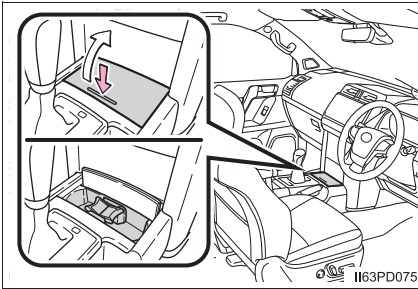
無理に操作すると、コンソールボックスや収納物などの損傷につながるおそれがあります。

- コンソールボックスに収納したものが中間トレイに干渉していないか
- 中間トレイに収納したものがコンソールボックスのフタに干渉していないか

カップホルダー／ボトルホルダー／ドアポケット

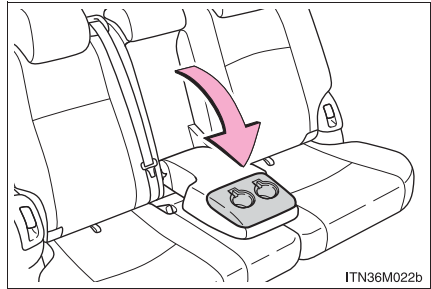
■ カップホルダー

▶ フロントシート



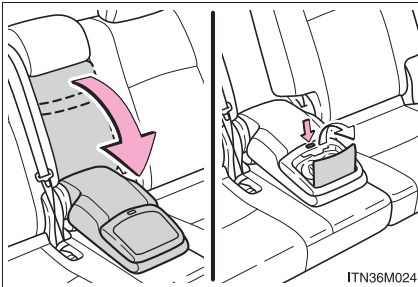
フタの手前側を押して開ける

▶ セカンドシート (5人乗り車)



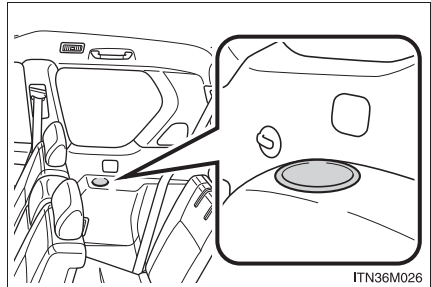
セカンドシートアームレストを引き出す

▶ セカンドシート (7人乗り車)



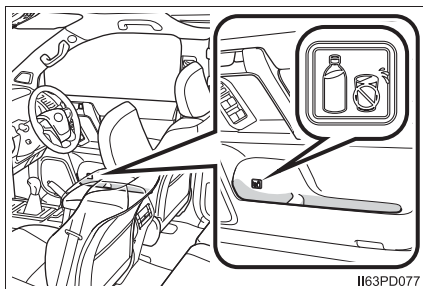
セカンドシートアームレストを引き出して、ボタンを押す

▶ サードシート

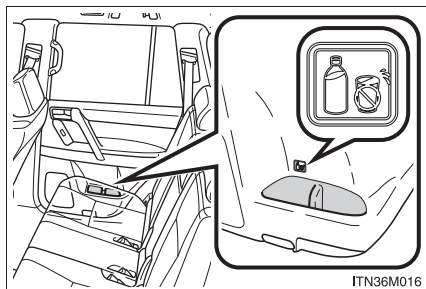


■ ボトルホルダー／ドアポケット

▶ フロントシート



▶ セカンドシート

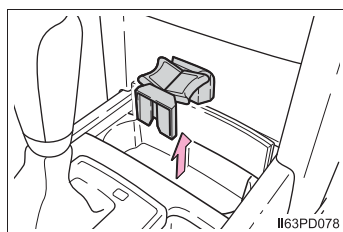


□ 知識

■ カップホルダーの仕切りの取りはずし

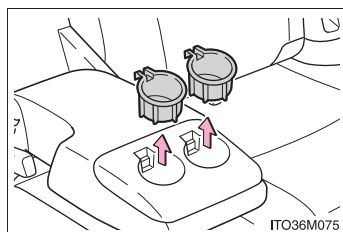
▶ フロントシート

ベース部分を持ってホルダーを引き上げます。



▶ セカンドシート (5人乗り車)

ホルダーを引き上げます。



■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 **警告**

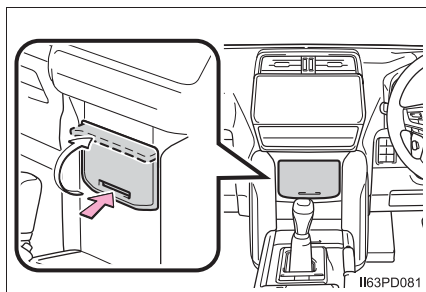
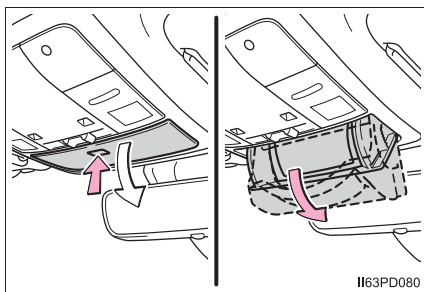
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

 **注意**

- カップホルダーの破損を防ぐために、カップホルダーのフタに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- カップホルダーの破損を防ぐために、セカンドシートのカップホルダーを開いた状態で、アームレストを格納しないでください。(7人乗り車のみ)
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

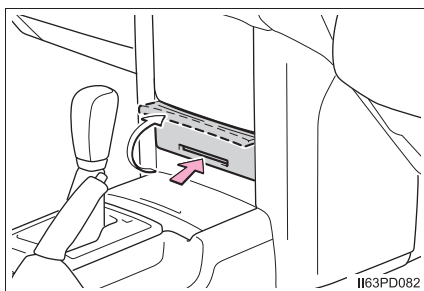
- ▶ オーバーヘッドコンソールボックス
- ▶ センターボックス★



ボタンを押して、いっぱいまで開ける

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

- ▶ インストルメントパネルボックス★



フタの下側部分を押し開ける

フタの下側部分を押し開ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

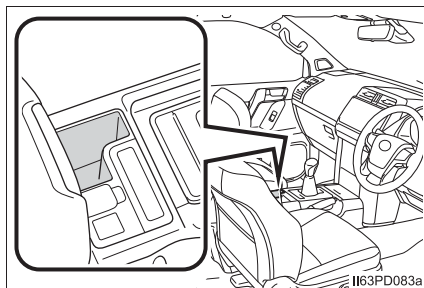
後席確認ミラー（オーバーヘッドコンソールボックスのフタ側面）

→ P. 358

 警告

オーバーヘッドコンソールボックスに 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オープントレイ

 警告

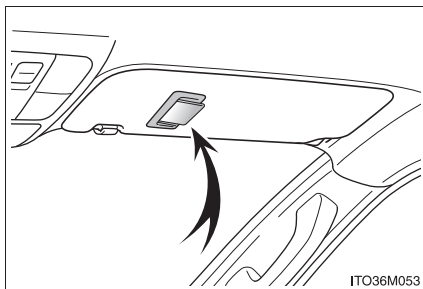
オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

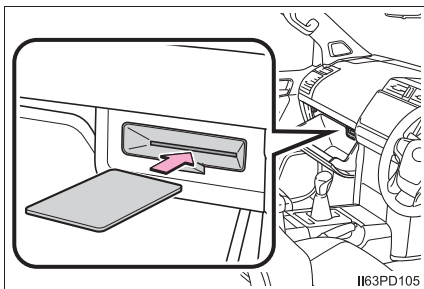
オープントレイには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カードホルダー

▶ サンバイザー



▶ グローブボックス内★



使用するときは、レバーを引き上げてグローブボックスを開きます。(→ P. 344)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

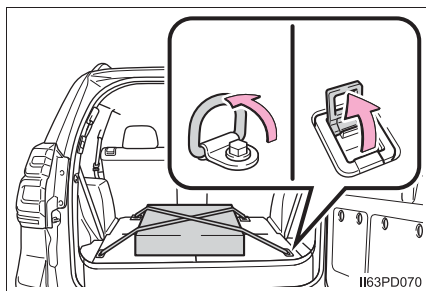
ラゲージルーム内装備

デッキフック★

フックを起こして使用してください。

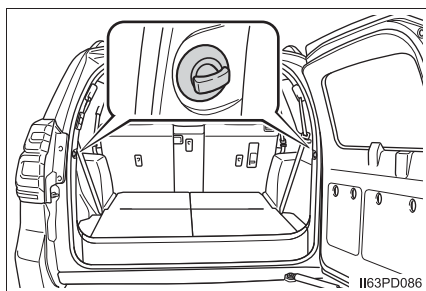
フックを使って荷物を固定することができます。

デッキフックの装着位置・形状は車種により異なります。



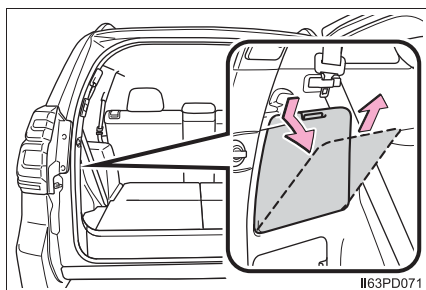
ネットフック

積荷ネットなどをかけるフックです。



小物入れ★

ツメを押しながらフタを手前に開き、取りはずす



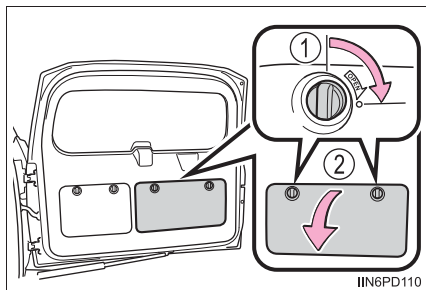
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

三角表示板等収納スペース

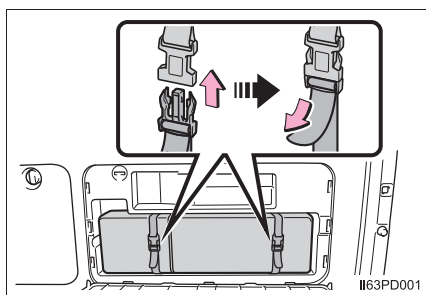
市販の三角表示板などを収納することができます。

1 カバーを開く

- ① ダイヤルを OPEN 側にまわしてロックをはずす
- ② カバーを手前に開く



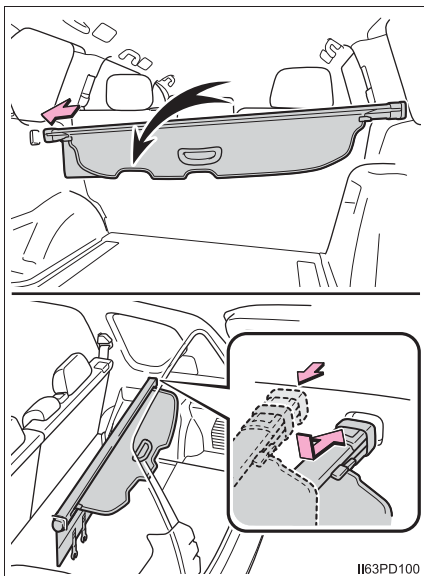
2 三角表示板を収納し、ベルトで固定する



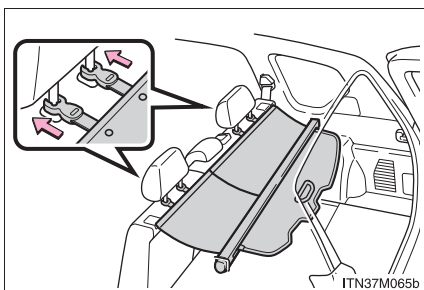
トノカバー★

■ トノカバーの取り付け

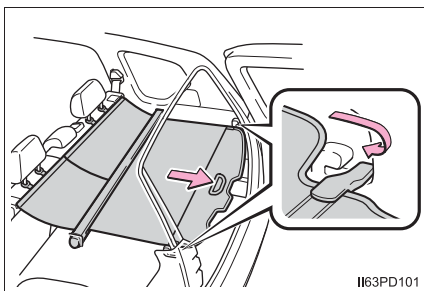
- 1 カバー部に切り欠きのある側を車両左側のホルダーに取り付け、反対側の先端を内側に押し込んで、右側のホルダーに取り付ける



- 2 サブカバーのクリップをセカンドシートヘッドレストに取り付ける



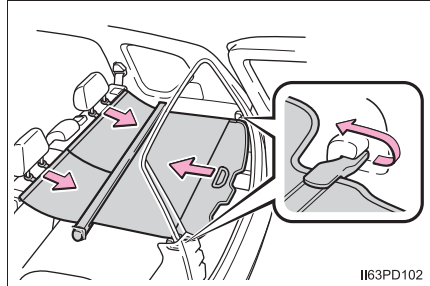
- 3 カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ トノカバーの取りはずし

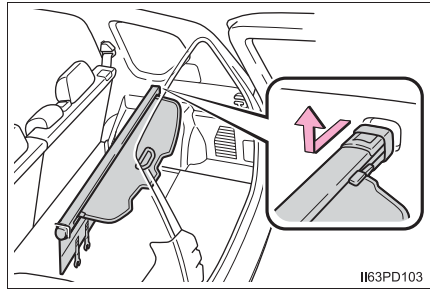
- 1 サブカバーのクリップとカバー部を左右のホルダーから取りはずし、巻き取る



I163PD102

- 2 トノカバー本体の両端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

取りはずしたあとは、車から降ろして保管してください。



I163PD103

☐ 知識

■ 三角表示板の収納について

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

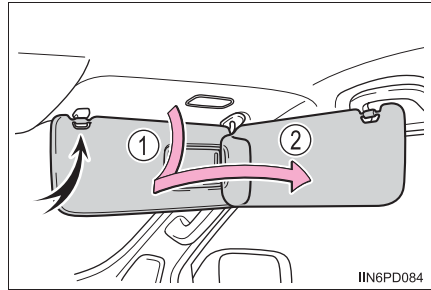
⚠ 警告

- デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。
- 各収納スペースのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。
トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(トノカバー装着車)
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。(トノカバー装着車)

その他の室内装備

サンバイザー

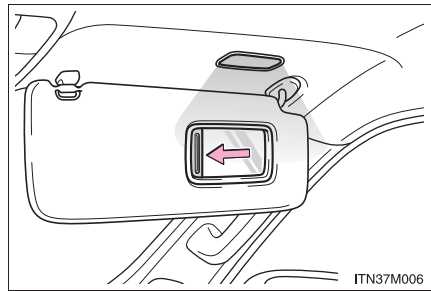
- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

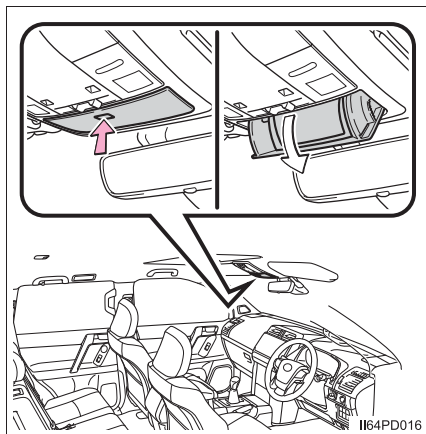
注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

後席確認ミラー

車室内後方の状態を確認することができます。

ボタンを押して開ける



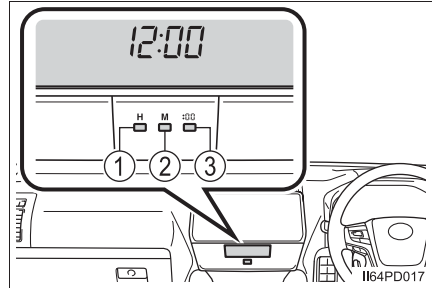
知識

後席確認ミラーをいっぱいまで引き出すと、サングラスなどの小物入れとして使用することができます。(→ P. 350)

時計

- ① “時” を調整する
- ② “分” を調整する
- ③ “分” を00にする※

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

アクセサリースOCKET・アクセサリコンセント★

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

アクセサリースOCKET：

DC12 V/10 A（消費電力 120W）未満の電気製品※

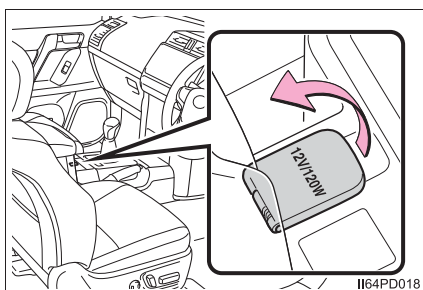
アクセサリコンセント：

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

※ 電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリースOCKETに接続されている電気製品の消費電力合計を 120 W 未満にしてください。

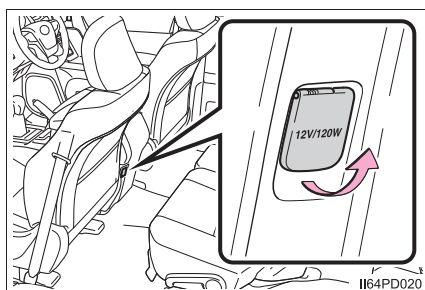
■ アクセサリースOCKET

▶ フロント



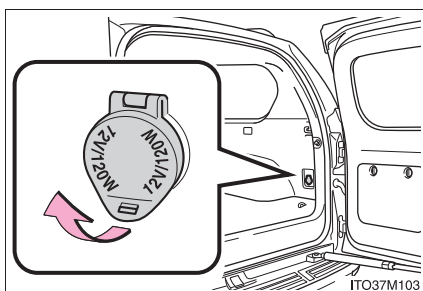
フタの前側を引き上げて開ける

▶ リヤ



フタの下側を引き上げて開ける

▶ ラゲージルーム★

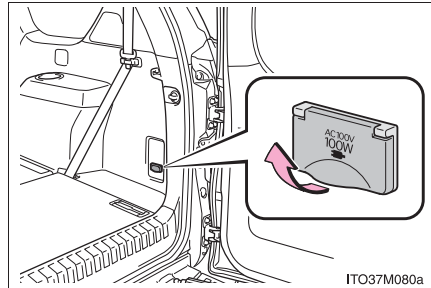


フタの下側を引き上げて開ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アクセサリーコンセント★

フタの下側を引き上げて開ける



■ 知識

■ 使用条件

▶ アクセサリーソケット

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶ アクセサリーコンセント

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ アクセサリーソケットを使用するときは

接続する機器によっては、USB 接続端子★と同時に使用することができない場合があります。

USB 接続端子については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ エンジンスイッチを OFF にするとき（アクセサリーソケット使用時）

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ ショートや故障を防ぐために**

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために**▶ アクセサリーソケット**

- DC12 V/10 A (消費電力 120W) 以上の電気製品を使用しないでください。
- 電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120 W 以上にしないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケット・アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正常に使用できないおそれのある電気製品（アクセサリーコンセント）

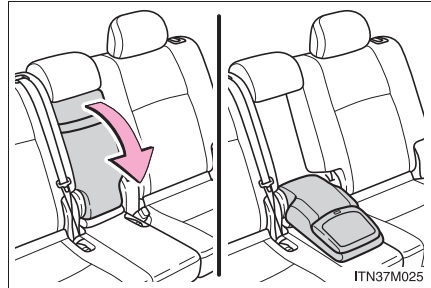
次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

アームレスト（セカンドシート）

手前に倒して使用します。

アームレストは、車種により形状が異なります。

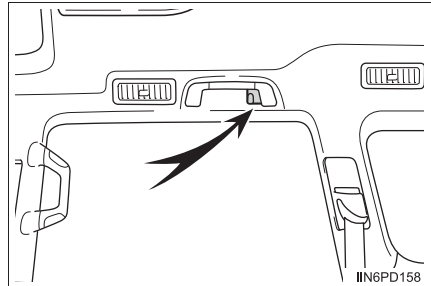


⚠ 注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。



⚠ 警告

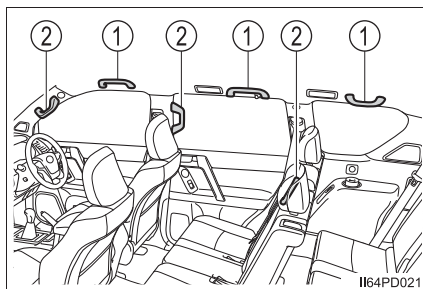
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップ

アシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、アシストグリップ（固定式）をお使いください。

- ① アシストグリップ（回転式）
- ② アシストグリップ（固定式）



警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

注意

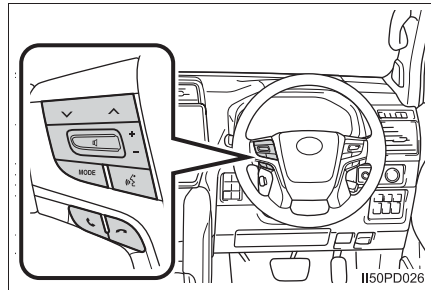
破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

ステアリングスイッチ

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



⚠ 警告

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	368
内装の手入れ.....	373
タイヤについて.....	376
タイヤ空気圧について.....	387

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	389
エンジンルームカバー.....	391
AdBlue [®] （尿素水）の補充 （ディーゼル車）.....	393
エアコンフィルターの 交換.....	398
ウォッシャー液の補給.....	400
キーの電池交換.....	402
ヒューズの点検・交換.....	405
電球（バルブ）の交換.....	408

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う
ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。
- リヤライトコントロールエアサスペンション装着車は、ノズルの先端をエアサスペンション付近に近付けすぎないでください。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- ・ 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- ・ 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 131）

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておく、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

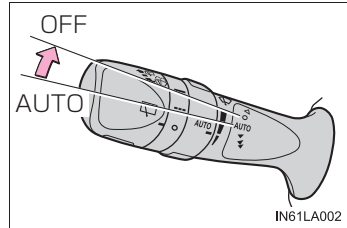
警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。ディーゼル車は特に高温になりますのでご注意ください。

■ ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

 **注意****■ 高圧洗浄機を使用するときは**

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識■ **本革部分のお手入れの目安**

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ **カーペットの洗淨**

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ **シートベルト**

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ **スーパー UV カットガラスについて**

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

 **警告**■ **車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 32)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・アルコール・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次の注意をお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→ P. 232)

■ リヤウィンドウガラス・リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパーUVカットガラスを清掃するとき

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの溝の深さ

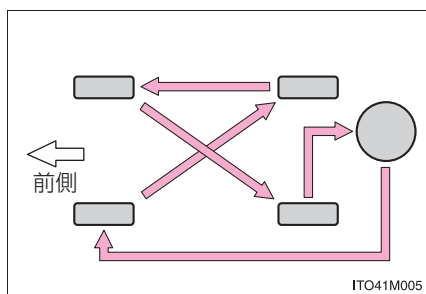
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤ空気圧警報システム装着車：タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。



タイヤ空気圧警報システム★

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 436)
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



◆ 空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。(→ P. 379)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施したとき
- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- ID コードの登録を実施したとき (→ P. 379)

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。また、タイヤの位置判定を行います。

■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、20分以上エンジンを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

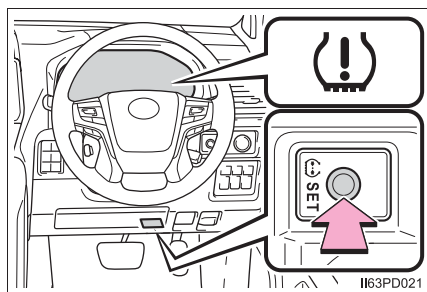
- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する (→ P. 486)

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

- 3 エンジンを始動する (→ P. 189)

- 4 タイヤ空気圧警告灯が3回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「--」になり、タイヤの位置判定を開始します。



- 5 約 40km/h 以上を維持しながら約 10 ~ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

◆ ID コードの登録について

■ ID コード登録が必要なとき

- 新しいバルブ／送信機を装着したとき
- すでに ID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コードの登録のしかた

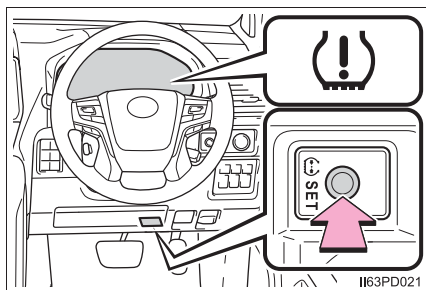
- 1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）
- 2 エンジンを始動する（→ P. 189）

- 3 リセットスイッチを素早く 3 回連続で押す

タイヤ空気圧警告灯が 3 回ゆっくり点滅します。

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「--」になります。



その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。

- 4 約 2 分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合

- 5 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→ P. 378）

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合

- 5 約 40km/h 以上を維持しながらタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する

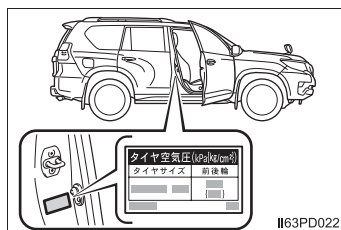
約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

- 6 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→ P. 378）

知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa (kg/cm ²)]	
	前輪	後輪
265/65R17 112S	220 (2.2)	220 (2.2)
265/60R18 110H	220 (2.2)	220 (2.2)
265/55R19 109V	220 (2.2) * 230 (2.3)	220 (2.2) * 230 (2.3)

* リヤライトコントロールエアサスペンション装着車

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ ホイールごとタイヤを交換するとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■ タイヤ空気圧警報システム★について

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧警報システム★の警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧警報システム★が正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき
 - ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
 - ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
 - ・ 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
 - ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
 - ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・ スペアタイヤが電波受信の悪い環境下にあるとき
 - ・ 電波受信に影響をおよぼすような大きな金属がラゲージルームにあるとき
 - 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき
 - 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
 - タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。
- ## ■ タイヤ空気圧警報システム★を初期化するときは
- 通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。
 - 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
 - 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
 - タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に左右折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■初期化操作について（タイヤ空気圧警報システム装着車）

- 初期化中にエンジンスイッチをOFFにしてしまった場合は、次回イグニッション ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ空気圧警報システム★の初期化がうまくいかないとき

- 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
 - ・ 約 40km/h 以上を維持して走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。
- 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも初期化できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ID コードの登録をするときは（タイヤ空気圧警報システム装着車）

- 通常は約30分以内の走行で登録が完了します。すでにIDコードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。
- ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- 登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。
- ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ID コード登録の中止について（タイヤ空気圧警報システム装着車）

- ID コードの登録を中止するには、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。
走行し始めたあとに登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。
- ID コードの登録を中止した場合、次回エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。
- しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。

■ ID コードの登録がうまくいかないとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - ・ 走行前に約 15 分以上駐車していない
 - ・ 約 40km/h 以上を維持して走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・ タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 登録操作時に警告灯がゆっくり 3 回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

 **警告****■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ空気圧警報システム★を初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。

お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ タイヤ交換時の注意**

- 必ずナットのテーパー部分を内側にして取り付けてください。(→ P. 459)
テーパー部分を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機（タイヤ空気圧警報システム装着車）・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 486)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等につけないようにする

 **警告****■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 **注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

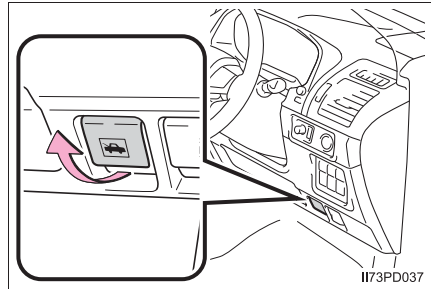
タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

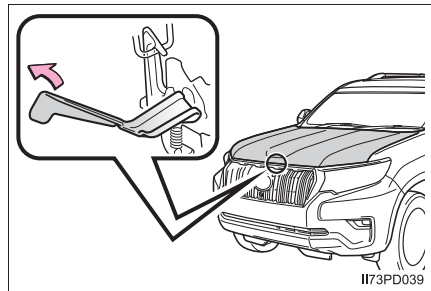
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを左に引いてフックをはずし、ボンネットを持ち上げる



知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告**■ 走行前の確認**

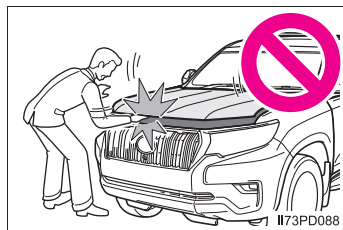
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

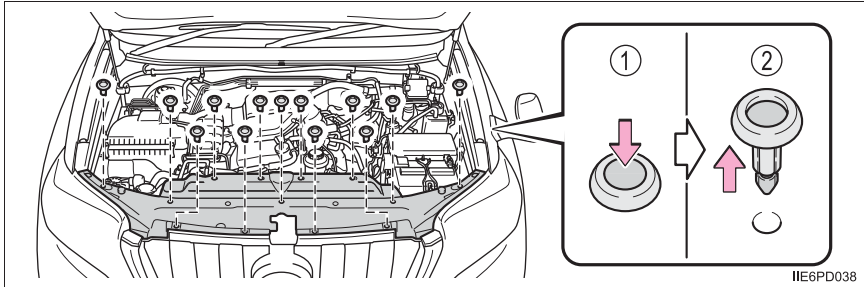
**注意****■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

エンジンルームカバー

メンテナンス時など、必要に応じて取りはずすことができます。

エンジンルームカバーの取りはずし方



① 中央部分を押し

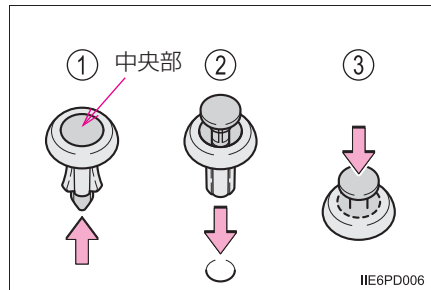
② 引き抜く

クリップの取り付け方

① クリップ中央部分を押し上げる

② 挿し込む

③ クリップ中央部分を押し



 **警告****■ けがを防ぐために**

エンジンルームカバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **注意****■ エンジンルームカバーを取り付けたあとは**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

AdBlue[®]（尿素水）の補充（ディーゼル車）

この車は排気ガス中の窒素酸化物を低減するために AdBlue[®] を使用しています。AdBlue[®] について、次のことにご留意ください。

- AdBlue[®] は走行に従って消費されます。
- AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを再始動できなくなります。
- 補充する際は、トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

走行可能距離について

AdBlue[®] の消費量は運転状況や走行環境などにより異なります。AdBlue[®] の消費量が多くなると、AdBlue[®] の補給が必要になるまでの走行可能距離が短くなります。

走行可能距離		
短 ^{※1}		長
←	→	→
[高負荷走行]	[通常走行] ^{※2}	[低負荷走行]
<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセルを深く踏み込んでいるとき ・ 長い上り坂を走行しているとき ・ 排出ガス浄化装置が働いているとき 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 短距離を走行するとき ・ 渋滞のとき

※1 高地（標高が高いとき）や気温が低い時も、AdBlue[®] の消費量が増加します。

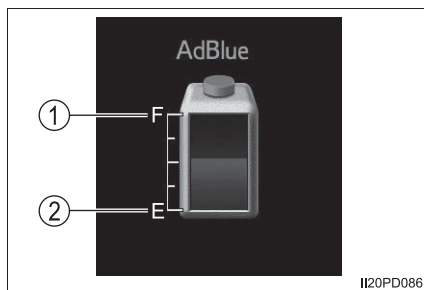
※2 通常の走行では、約 700km 走行すると、1L の AdBlue[®] を消費します。また、最大まで補充した状態から約 8000km 走行すると、残量がなくなります。

AdBlue[®] 残量表示

マルチインフォメーションディスプレイ内の表示で AdBlue[®] 残量を確認することができます。

メーター操作スイッチ（→ P. 88）で **i**（ドライブインフォメーション）を選択し、 を上下に操作して項目を選択してください。

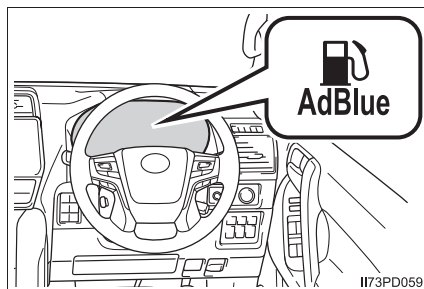
- ① 多い
- ② 少ない



AdBlue[®] の警告灯・警告メッセージ

AdBlue[®] の残量が少なくなると警告メッセージ（→ P. 395）と警告灯でお知らせします。

走行可能距離が約 2400km 以下になると警告灯が点灯し、警告メッセージが表示されます。



■ マルチインフォメーションディスプレイに AdBlue[®] に関する警告メッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

警告メッセージ	対処方法
「AdBlue を 2400km 以内に補充してください 取扱説明書を参照ください」※1	AdBlue [®] を補充してください。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。
「AdBlue 残量が少なくなっていますあと 800km で再始動不可 AdBlue を補充してください 取扱説明書を参照ください」※1,2	表示されている距離をこえて走行すると、エンジンを再始動できなくなります。ただちに AdBlue [®] を補充してください。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。
「AdBlue 残量が少なくなっています エンジン再始動不可 AdBlue を補充してください 取扱説明書を参照ください」※2	ただちに AdBlue [®] を補充してください。 エンジンを停止させると、再始動できません。エンジンを停止せず、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

- ※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離は、目安としてご利用ください。補充方法・運転状況・走行環境などにより、表示された走行可能距離と実際の走行距離とが異なる場合があります。(→ P. 393)
- ※2 警告メッセージに合わせてマスターウォーニングが点灯し、ブザーが鳴ります。

注意

■ AdBlue[®] の残量が少なくなったとき

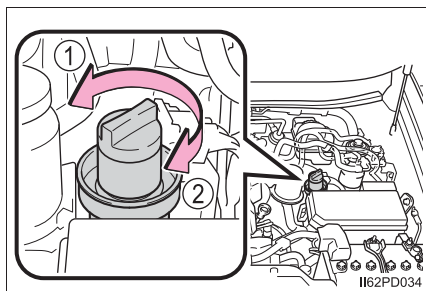
AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを始動できなくなります。残量がなくなる前に AdBlue[®] を補充してください。
トヨタ販売店で補充することをおすすめします。

緊急時にご自身で AdBlue[®] を補充する場合

AdBlue[®] の残量がなくなってエンジンが始動できなくなってしまったときは、約 6.5L 以上の AdBlue[®] を補充することで、エンジンを始動することができます。次の手順で AdBlue[®] を補充してください。(AdBlue[®] タンク容量は 12.1L です)

- 1 平坦な場所に駐車してエンジンスイッチを OFF にし、ボンネットを開ける (→ P. 389)
- 2 補給口のキャップを開け、あふれないようゆっくりと AdBlue[®] を補充する
 - ① 開ける
 - ② 閉める

キャップが「カチッ」と鳴るまで閉めてください。



- 3 エンジンが始動することを確認する

警告灯・警告メッセージが消えたことを確認してください。

トヨタ販売店で AdBlue[®] をいっぱいまで補充することをおすすめします。

知識

■ AdBlue[®] の補充について

AdBlue[®] (ISO 22241-1 に準拠したもの) を使用してください。

AdBlue[®] (アドブルー) はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

■ AdBlue[®] を補充するとき

AdBlue[®] の補充後は、エンジンが始動するまでの時間が通常よりも数秒、長くなる場合があります。

 **注意****■ AdBlue[®]を補充するとき**

AdBlue[®]を補充するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

- AdBlue[®]以外の尿素水を補充しない
- AdBlue[®]が車両の塗装部分に付着してしまった場合は、すぐに水で洗い流す
- AdBlue[®]をエンジンルームにこぼしてしまった場合は、水を含ませた布ですぐにふき取る

■ AdBlue[®]の保管について

AdBlue[®]を保管するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装の損傷、また、AdBlue[®]の成分が変質し異臭の発生につながるおそれがあります。

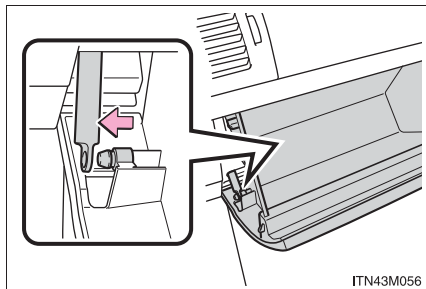
- AdBlue[®]を車内に放置しない
- AdBlue[®]の容器を密閉し、直射日光のあたらない、換気の良い冷暗所に保管する

エアコンフィルターの交換

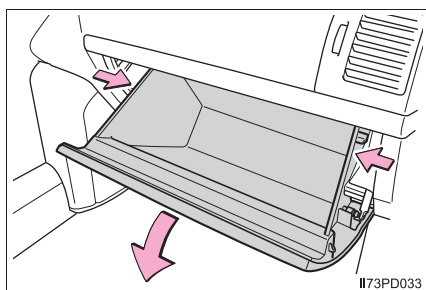
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

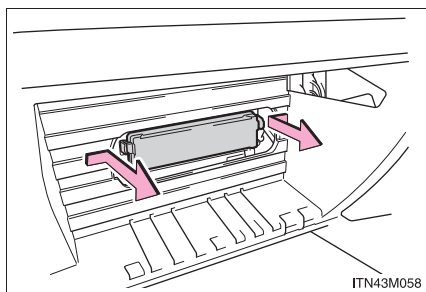
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーのピンをはずす



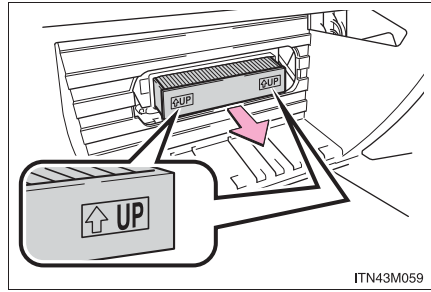
- 3 グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



- 4 フィルターカバーを取りはずす



- 5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



- 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km [7500km^{*}] ごと

^{*} 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

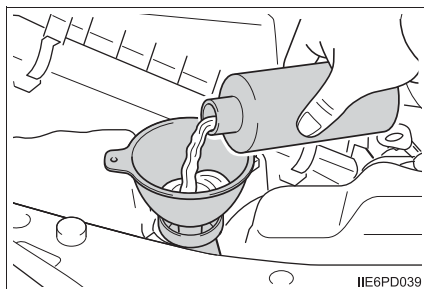
■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

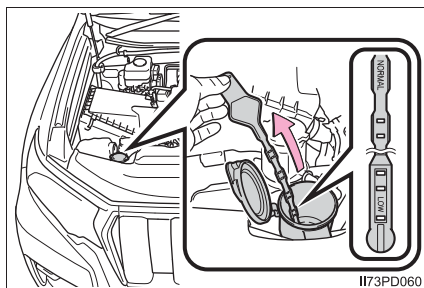
ウォッシャー液の補給

次のような場合は、ウォッシャー液を補給してください。

- ワイパースイッチを操作してもウォッシャー液が出ないとき
- マルチインフォメーションディスプレイに「ウォッシャー液不足」が表示されたとき（寒冷地仕様車のみ）



- ゲージでの点検の際、液面がLOWの位置に近付いていたとき（ゲージ装着車のみ）

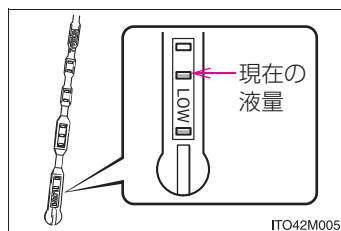


知識

■ ゲージ★の使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった（LOWの位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ ウォッシャー液を補給するときは**

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

 **注意****■ ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

キーの電池交換

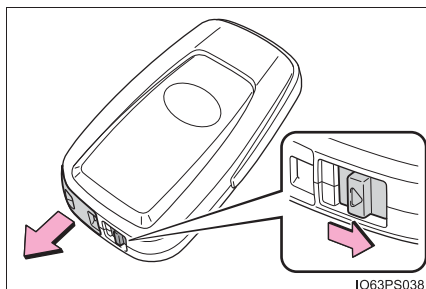
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバーなど
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

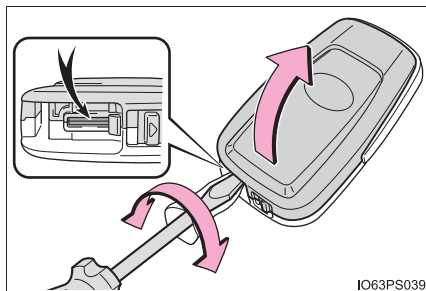
- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



- 2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

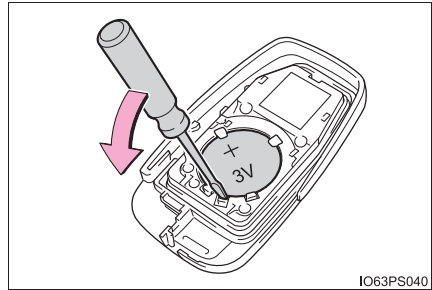


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、+ 極を上にして取り付けます。

**4** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける**知識****■ リチウム電池 CR2032 の入手**

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

 **警告****■ 電子キーの電池について**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスのもれを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 **注意****■ 交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

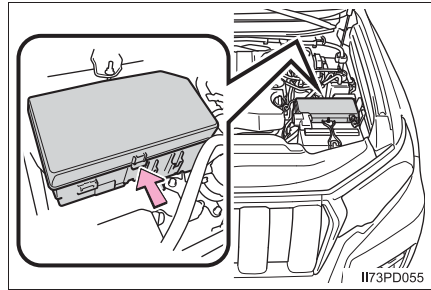
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

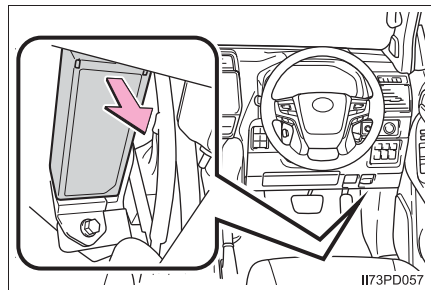
▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



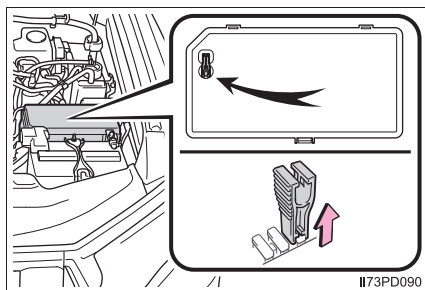
▶ 運転席足元

カバーを取りはずす



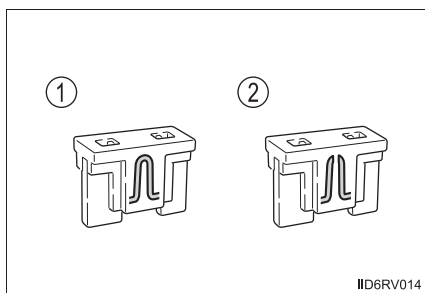
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

**4** ヒューズが切れていないか点検する

- ① 正常
- ② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 408)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 **警告****■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 **注意****■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

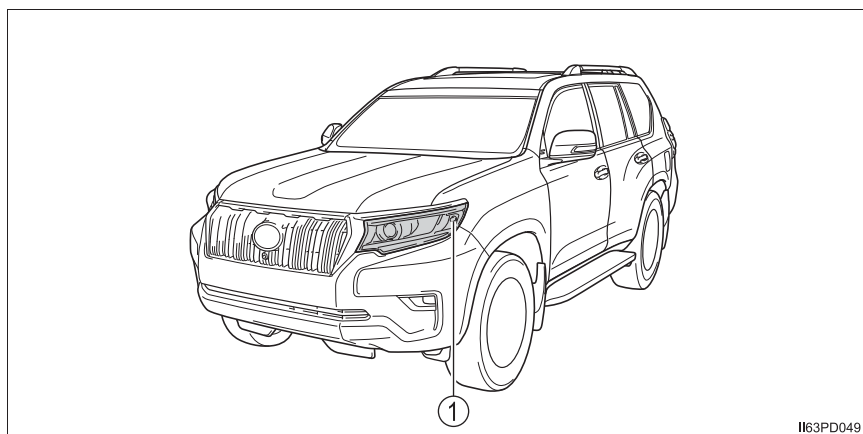
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 487）

バルブ位置

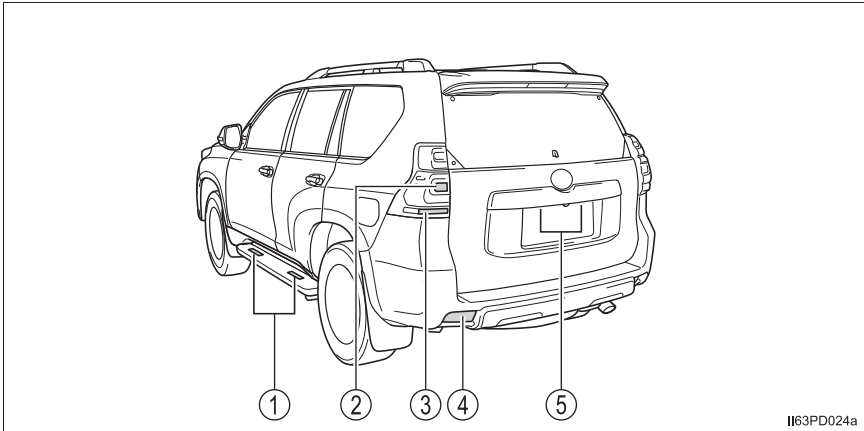
■ フロント



I163PD049

- ① フロント方向指示／非常点滅灯

■ リヤ

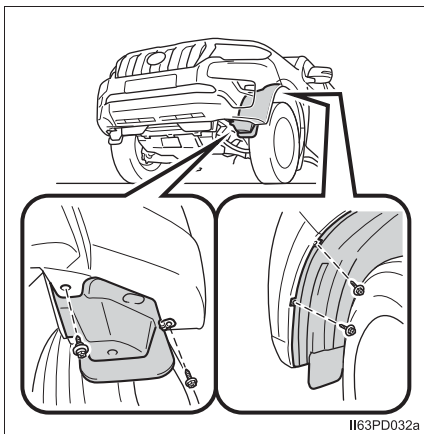


- ① サイドステップ照明★
- ② リヤ方向指示／非常点滅灯
- ③ 後退灯
- ④ リヤフォグランプ★
- ⑤ 番号灯

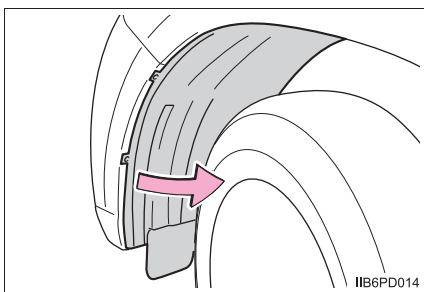
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球交換のしかた**■ フロント方向指示／非常点滅灯**

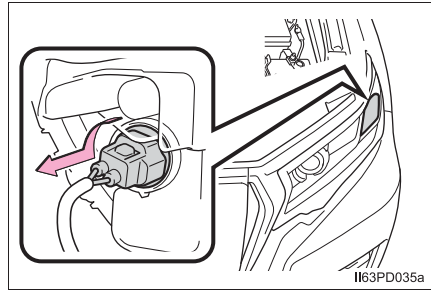
- 1 ボルト（4本）を取りはずす
ハンドルをいっぱいまでまわしてタイヤを動かし、作業スペースを広げます。



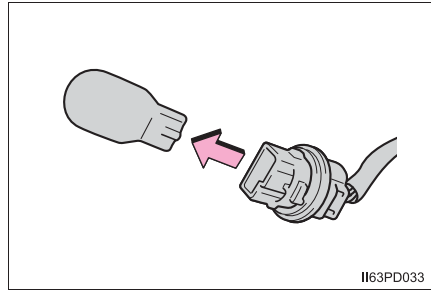
- 2 フェンダーライナーをめくる



3 ソケットを取りはずす



4 電球を取りはずす



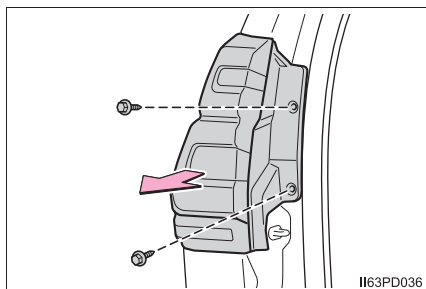
5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示／非常点滅灯・後退灯

① バックドアを開ける

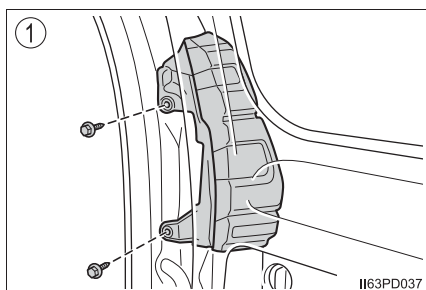
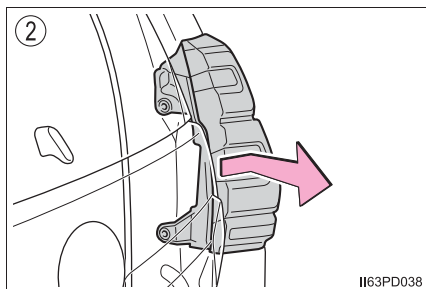
▶ 助手席側

ボルト（2本）をはずしてランプ
本体をはずす

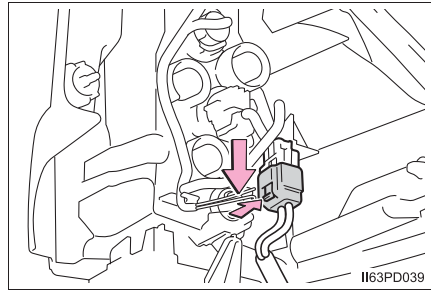


▶ 運転席側

① ボルト（2本）をはずす

② バックドアを半開にして、車両
本体とバックドアとのすき間を
広げた状態にし、ランプ本体を
はずす

2 コネクターをはずす



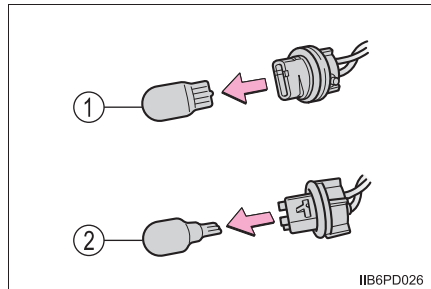
3 ソケットを取りはずす

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



4 電球を取りはずす

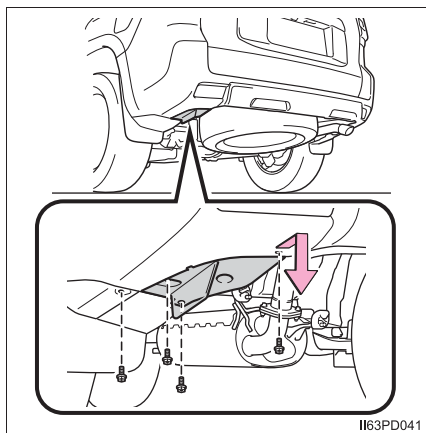
- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



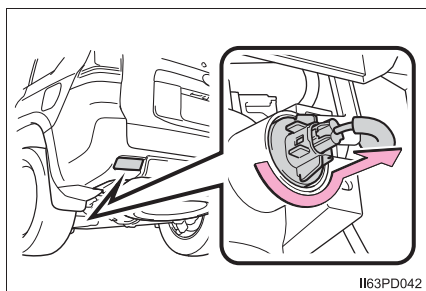
5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤフォグランプ★

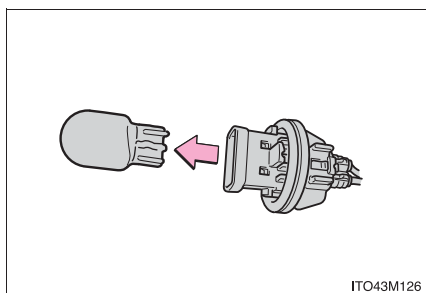
- 1 ボルト（4本）をはずし、アンダーカバーを取りはずす



- 2 ソケットを取りはずす



- 3 電球を取りはずす

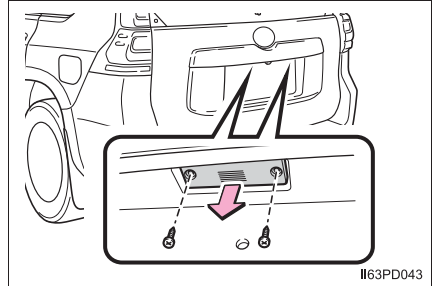


- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

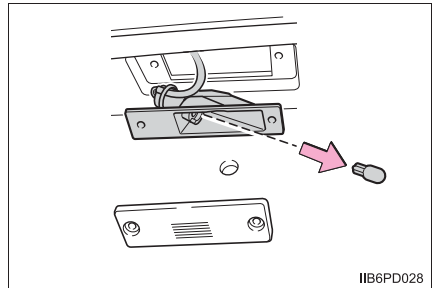
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 番号灯

- 1 ネジ(2本) をはずしてカバーを取りはずす



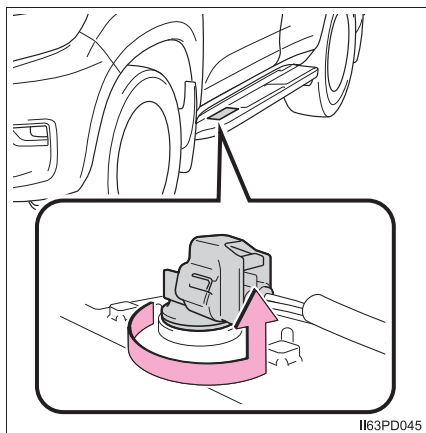
- 2 電球を取りはずす



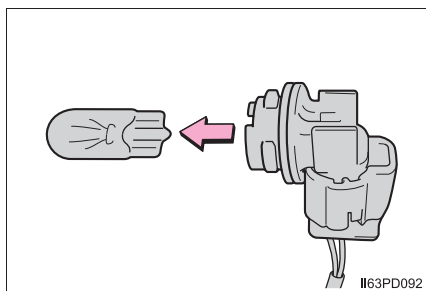
- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ サイドステップ照明★

1 ソケットを取りはずす



2 電球を取りはずす



3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次のランプを交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム
- ヘッドランプハイビーム
- 車幅灯／LED デイライト
- フロントフォグランプ
- サイド方向指示／非常点滅灯
- ドアミラー足元照明★
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップランプ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ 番号灯のカバーを取り付けるときは**

必ずパッキンをもとどおりに取り付けてください。パッキンが正しく取り付けられていないと、水が入る原因になります。

■ LED ランプについて

ヘッドランプロービーム、ヘッドランプハイビーム、車幅灯／LED デイライト、フロントフォグランプ、サイド方向指示／非常点滅灯、ドアミラー足元照明、制動灯、尾灯、ハイマウントストップランプは数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するときは

→ P. 406

 **警告****■ 電球を交換するときは**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万が一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	420
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	421
発炎筒.....	422
車両を緊急停止するには.....	424
水没・冠水したときは.....	425

7-2. 緊急時の対処法

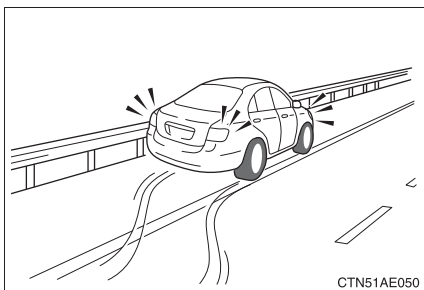
けん引について.....	426
フューエルポンプ シャットオフシステム （ガソリン車のみ）.....	433
警告灯がついたときは.....	434
警告メッセージが 表示されたときは.....	442
パンクしたときは.....	448
エンジンがかからない ときは.....	464
電子キーが正常に 働かないときは.....	466
バッテリーが あがったときは.....	468
オーバーヒートした ときは.....	473
スタックしたときは.....	477

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

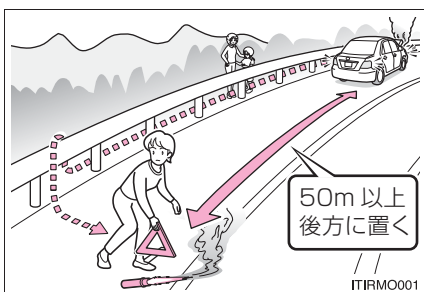
非常点滅灯（→ P. 421）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

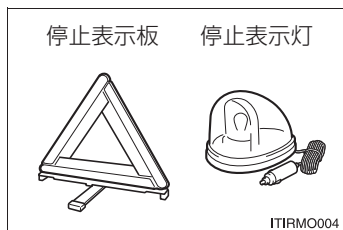
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 422）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

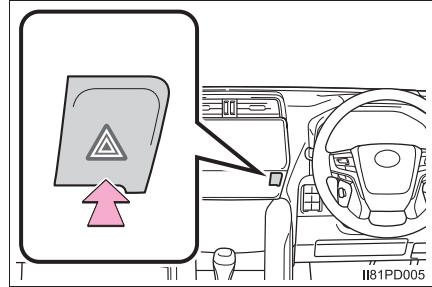


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示器が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

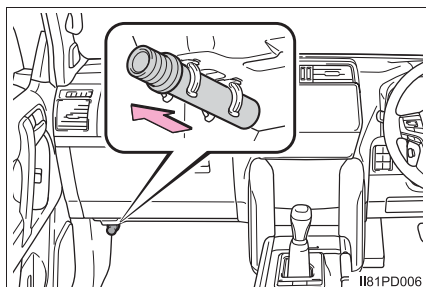
■ 非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

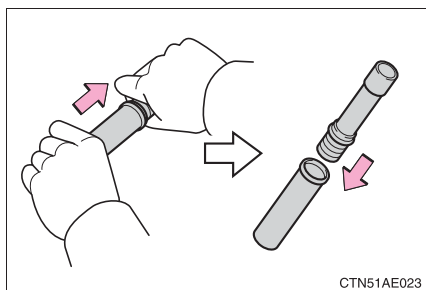
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
 (トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

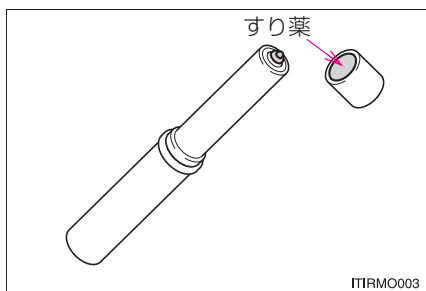
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
 必ず車外で使用してください。
 着火させる際は、筒先を顔や体に向け
 ないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 **警告****■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

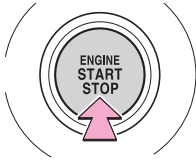
■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
 - 2 シフトレバーを N に入れる
 - ▶ シフトレバーが N に入った場合
 - 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
 - 4 エンジンを停止する
 - ▶ シフトレバーが N に入らない場合
 - 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
 - 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する
- 

2 秒以上押しまたは 3 回以上連続で押す

CTY52AD212
- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー[※]の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割るできません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

[※] 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

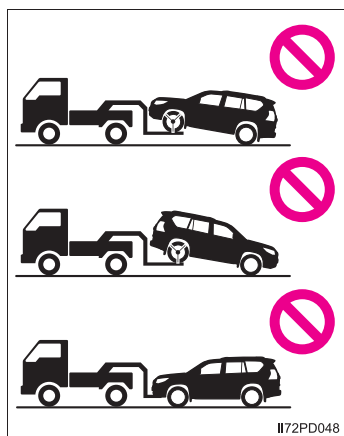
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



II72PD048

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、車高制御をOFF にしてください。作動を停止しないと車高が変わり、車両に体が挟まれるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(リヤハイトコントロールエアサスペンション ※ 装着車のみ)
- ※ リヤハイトコントロールエアサスペンションの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。
- エンジンスイッチをOFF にしないでください。ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

 **注意****■ 車両の損傷を防ぐために**

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

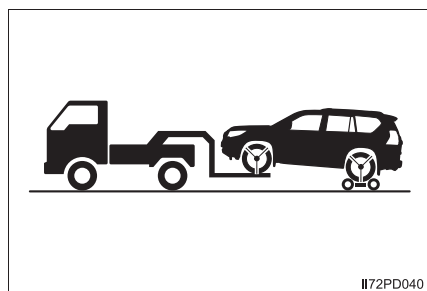
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

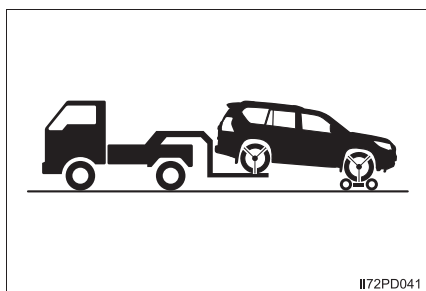
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

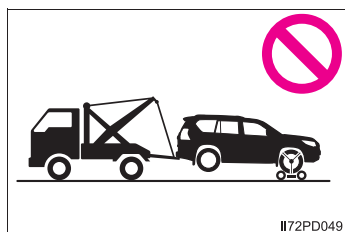


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

■ レッカー車でけん引するとき

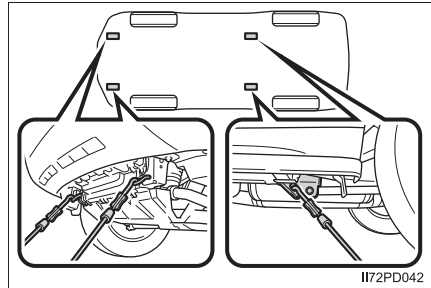
車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



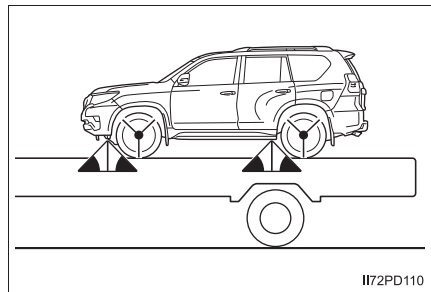
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

鎖やケーブルなどを取り付ける前にフロントスポイラーを取りはずします。



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



⚠ 注意

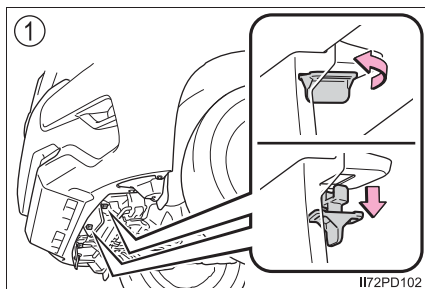
■ 車両運搬車に車を固縛するとき

- ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。
 - 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、車高制御をOFFにしてください。作動を停止しないと車高が変わり、車両に体が挟まれるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(リヤライトコントロールエアサスペンション※ 装着車のみ)
- ※ リヤライトコントロールエアサスペンションの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

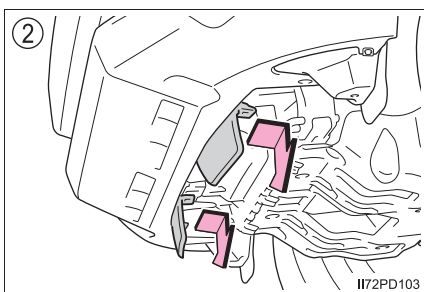
他車にけん引してもらおうとき

1 フロントスポイラーを取りはずす

① クリップをまわして引き抜く

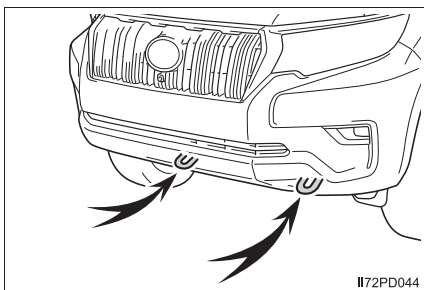


② スポイラーを矢印の方向に動かして、取りはずす



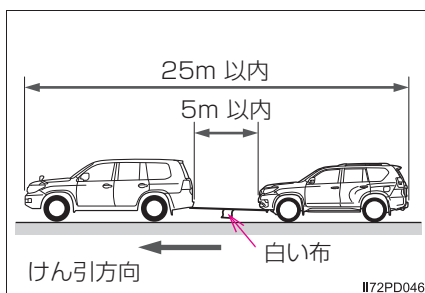
2 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



3 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



- 4** 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する
エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。
PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。（→P. 312）
- 5** ガソリン車：
トランスファースイッチを H4F にする ※¹
センターデフロック作動表示灯が消灯したことを確認してください。
ディーゼル車：
トランスファースイッチを H4 かつセンターデフロックスイッチを OFF にする ※¹
センターデフロック作動表示灯・デフロック表示内の表示灯が消灯したことを確認してください。
- 6** 車高モードを N（標準）モードにし、車高制御を禁止する ※²
（リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車のみ）
車高制御 OFF スイッチを押すと、ハイトコントロール OFF モードになり、現在の車高モードで固定されます。
- ※¹ トランスファースイッチの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。
- ※² リヤハイトコントロールエアサスペンションの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。
- 7** けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する
けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 200

 知識

■けん引フックの使用目的

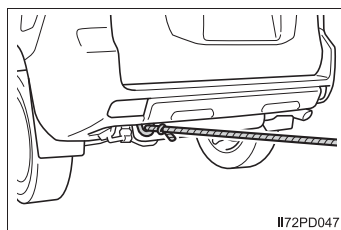
けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



I172PD047

フューエルポンプシャットオフシステム（ガソリン車のみ）

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に






車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。








警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。








警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
	油圧警告灯（警告ブザー）※1 ・ エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	高水温警告灯 ※1 エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車して点検する（→ P. 473）
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 ・ 排出ガス浄化装置の異常★ → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。





★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。


警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ABS & ブレーキアシスト警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ABS /マルチテレイン ABS ★ ※2 の異常 ・ ブレーキアシストの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>パワーステアリング警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パワーステアリングの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>スリップ表示灯（点灯したままのとき）</p> <p>次のいずれかの機能の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VSC ・ TRC /アクティブ TRC ★ ※2 ・ ダウンヒルアシストコントロール ★ ※2 ・ ヒルスタートアシストコントロール ※2 ・ マルチテレインセレクト ★ ※2 ・ クロールコントロール ★ ※2 <p>上記のシステムの作動時は点滅します。</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>KDSS 警告灯★ ※2</p> <p>KDSS の異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>ヘッドランプオートレベリング警告灯</p> <p>自動光軸調整システムの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>LED ヘッドランプ警告灯</p> <p>LED ヘッドランプの異常</p> <p>異常時は LED ヘッドランプは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	<p>PCS 警告灯 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージに従ってください。(→ P. 236, 442)</p> <p>プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC (ビークルスタビリティコントロール) システムが停止しているときも点灯します。 → P. 247</p>
	<p>半ドア警告灯 (警告ブザー) ※3 いずれかのドア、またはバックドアガラスが確実に閉まっていない → 全ドア・バックドアガラスを閉める</p>
	<p>燃料残量警告灯 燃料の残量が約 15L 以下になった → 燃料を補給する</p>
	<p>シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー) ※4 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する</p>
	<p>マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 442</p>
	<p>AdBlue® 残量警告灯 (ディーゼル車) AdBlue® の残量不足 → AdBlue® を補充してください。 トヨタ販売店で補充することをおすすめします。</p>
	<p>タイヤ空気圧警告灯★ ・ 自然要因 ・ タイヤのパンク ・ タイヤ空気圧警報システムの異常 → ただちに安全な場所に停車してください。 対処方法 (→ P. 439)</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）※⁵ パーキングブレーキの未解除 → パーキングブレーキを解除する</p>
	<p>クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー） ・ センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない ・ クリアランスソナーの異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 286） 警告メッセージが表示されたままの場合はただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>
	<p>PKSB OFF 表示灯（警告ブザー） ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 （→ P. 319, 442）</p>
	<p>ブレーキオーバーライドシステム警告灯／ドライブスタートコントロール警告灯※¹ 警告ブザーが鳴った場合： ・ ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ ドライブスタートコントロールの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ・ アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことによりドライブスタートコントロールが作動 → ただちにアクセルペダルを離してください。 警告ブザーが鳴らない場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことによりブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p> <p>PKSB 警告灯※¹ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した （→ P. 315） → 表示された画面の指示に従ってください。</p>

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (橙色)	LDA 表示灯 ※¹ (警告ブザー) LDA (レーンデパーチャーアラート) の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→ P. 257)

- ※¹ マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。
- ※² システムの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。
- ※³ **半ドア走行時警告ブザー：**
 いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
- ※⁴ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
 運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。
- ※⁵ **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
 パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

 知識**■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について**

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

■ L4 作動表示灯・センターデフロック作動表示灯・リヤデフロック作動表示灯が点滅したままのときは

別冊「オフロード走行取扱書」を参照し、それぞれの対処方法に従って処置してください。

ブレーキ警告灯やエンジン警告灯が同時に点灯している場合や、所定の対処方法を行っても、L4 作動表示灯・センターデフロック作動表示灯・リヤデフロック作動表示灯が点滅し続けている場合は、エンジンやブレーキシステム、4WD システムが故障しているおそれがあります。この場合は、トランスファーモードの切りかえができなくなったり、センターデフロック・リヤデフロックの切りかえができなくなることがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧警告灯★が点灯した場合

タイヤがパンクしている可能性があるので確認してください。

タイヤがパンクしている場合：→ P. 448

タイヤがパンクしていない場合：

エンジンを停止する。エンジンを再始動したあとに、警告灯が点灯、または点滅するかを確認してください。

▶ 警告灯が点灯した場合

- 1 タイヤが十分に冷えたあと、指定空気圧に調整してください。
- 2 数分後に警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であるかを確認した上で、初期化してください。(→ P. 377)

数分後に警告灯が消灯しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ 警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報★について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ タイヤ空気圧警報システム★が正常に働かないおそれがある状況

→ P. 381

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。



警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯★が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯している場合はタイヤがパンクしている可能性がありますので、確認してください。
タイヤがパンクしている場合はスペアタイヤに交換し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤの修理をしてください。
- 急ハンドル・急ブレーキは避けてください。
もしタイヤの状態が悪化した場合、ハンドル操作またはブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システム★による警報ができない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ ブレーキ警告灯について（ディーゼル車）**

ポンピングブレーキ※を行うと、一時的に点灯することがあります。この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。なお、その後消灯すれば異常ではありません。

※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方

■ タイヤ空気圧警報システム★についての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方が変わり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→ P. 377）では解除できません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

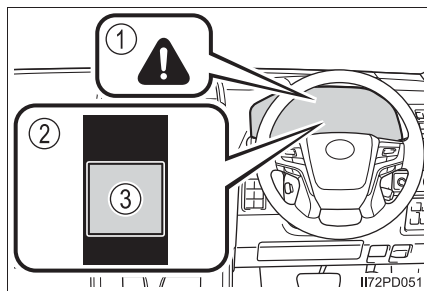
① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法


マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
点灯	—	あり	
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識**■ 警告メッセージについて**

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

● ABS の異常

ABS & ブレーキアシスト警告灯が点灯します。(→ P. 435)

**● 「ブリクラッシュセーフティ現在使用できません」、 「VSC が Off のためブリクラッシュブレーキも停止します」が表示されている：
PCS 警告灯が点滅または点灯します。(→ P. 436)****● 開いているドアまたはバックドアガラスが表示されている：
半ドア警告灯が点灯します。(→ P. 436)****● タイヤ空気圧警報システム★の異常**

タイヤ空気圧警告灯が点灯します。(→ P. 436)

■ 「エンジン油圧不足」の警告メッセージが表示されたときは

エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ 「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは**● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

・ 「故障のため ブレーキ力が低下 安全な場所に停車して 取扱書を確認」

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・ 「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」

● AdBlue® に関するメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。(ディーゼル車) (→ P. 395)**■ 「AT 油温異常」が表示されたときは**

ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーを P にして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待ってください。しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 「DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください」または「DPF 再生不十分 取扱書を確認ください」が表示されたときは（ディーゼル車）
排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要です。（→ P. 204）
- 「フューエルフィルタ メンテナンスの時期です」が表示されたときは（ディーゼル車）
燃料フィルタの目詰まりが考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 「燃料フィルタの水抜きを実施してください」が表示されたときは（ディーゼル車）
燃料フィルタ内に規定レベル以上の水がたまっています。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。
- 「排ガス異常 エンジン再始動不可 販売店で点検を受けてください」が表示されたときは（ディーゼル車）
エンジンを停止させると、再始動できません。エンジンを停止せず、ただちに、トヨタ販売店へ連絡してください。
- 「エアサスペンション システムチェック」が表示されたときは★
ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
システムの詳しい説明については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。
- 「バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました」が表示されたときは
自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。
この場合、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。
- 「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたときは
シフトレバーが P 以外の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアを開けたときに表示されます。
警告メッセージが表示されたときはシフトレバーを P にしてください。
- シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたときは
誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。
- 「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたときは
警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。
トヨタ販売店ですみやかに点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- LED ヘッドランプ
- ヘッドランプオートレベリングシステム
- AHB (オートマチックハイビーム)

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。

(→ P. 236, 434)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き])
- AHB (オートマチックハイビーム)
- RSA (ロードサインアシスト)
- レーダークルーズコントロール
- 先行車発進告知機能

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→ P. 236, 434)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き])
- レーダークルーズコントロール
- 先行車発進告知機能

■「クルーズコントロール使用不可」が表示されたとき

レーダークルーズコントロールのシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。(要因および対処方法→ P. 236)

■「クルーズコントロール 現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロールのシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください。

■「エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください」が表示されたとき

エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

傾斜路などに停車したとき表示される場合があります。水平な路面に移動し、警告メッセージが表示されるか確認してください。

- 次のメッセージが表示されたときは、対処法に従ってください。表示が消えたら使用可能です。★※
 - 「CRAWL 操作時は L4 に切替え、D 又は R レンジに入れてください」
 - 「CRAWL 操作時は作動条件の確認をしてください」
- ※ 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。
- 警告ブザーについて
→ P. 440

 **注意****■ エンジン油量に関する警告が表示されたとき**

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

■ 「燃料フィルタの水抜きを実施してください」が表示されたとき（ディーゼル車のみ）

警告メッセージが表示されたまま走行しないでください。燃料フィルタ内に水がたまった状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプの損傷につながります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。(タイヤについての詳しい説明は、P. 376 を参照してください)

警告

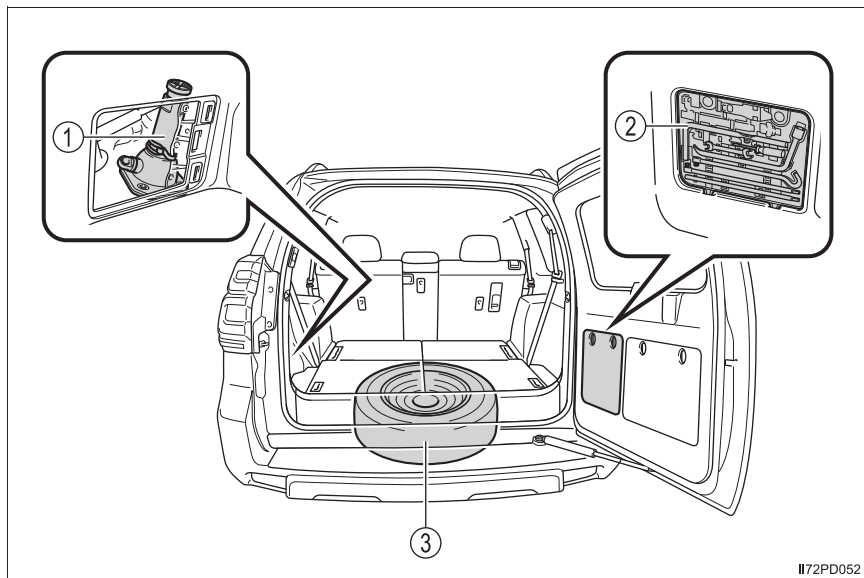
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
 - パーキングブレーキをかける
 - シフトレバーをPに入れる
 - 車高制御を禁止する*
(リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車)
 - エンジンを停止する
 - 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 421)
- * 車高制御の禁止のしかたについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

工具箱・ジャッキ・スペアタイヤの位置

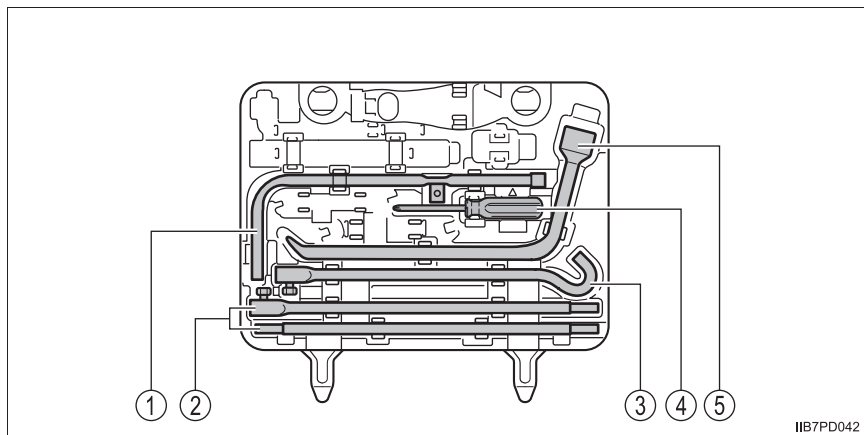


II72PD052

- ① ジャッキ
- ② 工具（工具箱）
- ③ スペアタイヤ

■ 工具

工具箱の中に収納されています。(工具箱の取り出し方：→ P. 452)



- ① ジャッキハンドル
- ② ジャッキハンドル延長バー
- ③ ジャッキハンドルバー
- ④ ドライバー (→ P. 462)
- ⑤ ホイールナットレンチ

 **警告****■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - 車高制御が禁止の状態、エンジンが停止している*（リヤハイトコントロールエアサスペンション装着車）
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

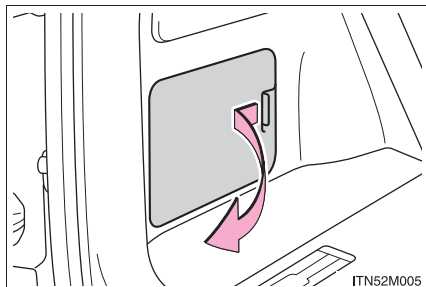
* 操作方法については、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

■ ジャッキハンドルを使用するときは

ジャッキハンドルが不意に分解しないように、ジャッキハンドルを組み付けたあと、搭載されているドライバーでネジ部を確実に締め付けてください。

ジャッキの取り出し方

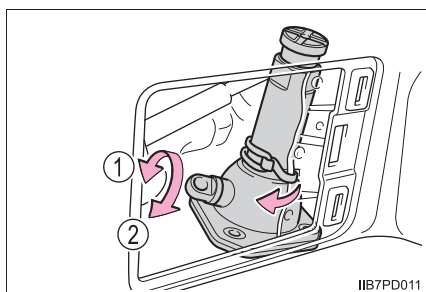
- 1 ツメを押しながらフタを手前に引き、取りはずす



- 2 固定バンドをはずし、ジャッキをゆるめて取りはずす

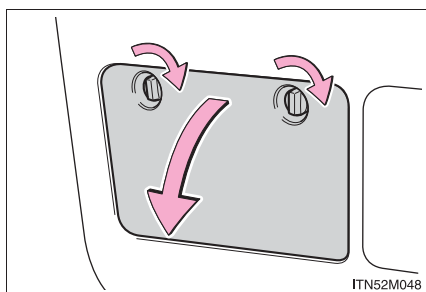
- ① ゆるむ
② 締まる

使用後はもとの位置にもどします。
また、ジャッキはバンドで確実に固定してください。



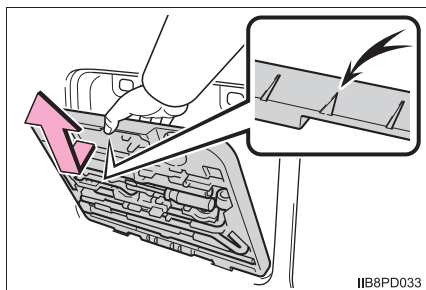
工具箱の取り出し方

- 1 ダイヤルを OPEN 側にまわしてロックをはずし、カバーを手前に開く



- 2 工具箱を取りはずす

マークの付いている部分をつかんで、持ち上げます。

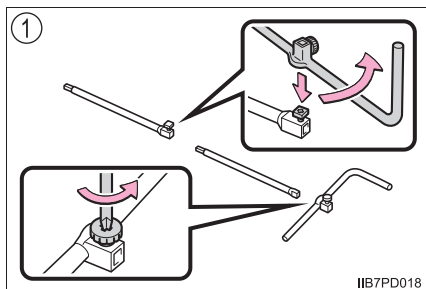


スペアタイヤの取り出し方

1 ジャッキハンドルを組み付ける

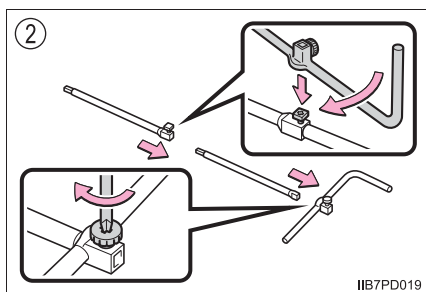
工具箱からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バーを取り出し、図のように組み付けます。

- ① ボルト（1本）・ネジ部（1ヶ所）をジャッキハンドルおよびドライバーを使用してゆるめる



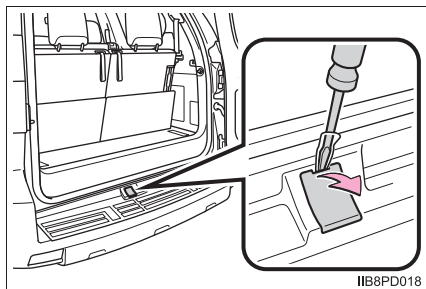
- ② ジャッキハンドル、ジャッキハンドル延長バーを組み付け、ボルト（1本）・ネジ部（1ヶ所）を締め付ける

ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。



- 2 マイナスドライバーを使用して、リヤバンパーのフタを取りはずす

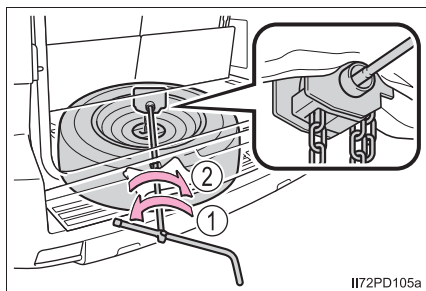
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



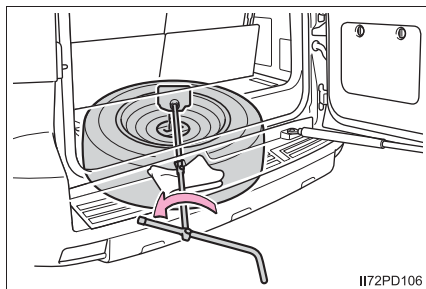
- 3 組み付けたジャッキハンドルを
図のように挿し込む

- ① 下がる
- ② 上がる

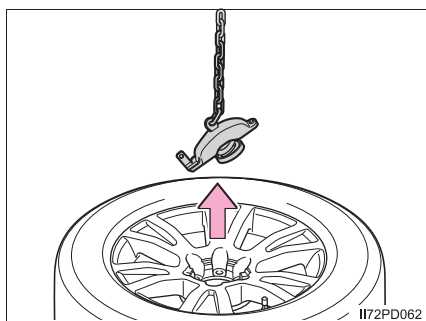
あて布をジャッキハンドルの下にして
リアバンパーを保護してください。



- 4 ジャッキハンドルをまわして、ス
ペアタイヤが完全に地面に着く
まで下げる



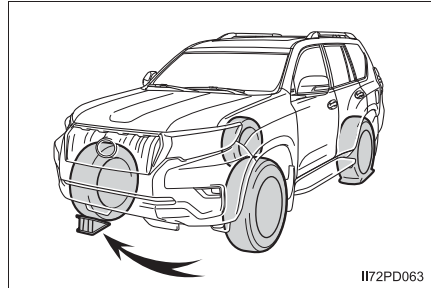
- 5 スペアタイヤを引き出し、アン
カープレートを取りはずす



パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

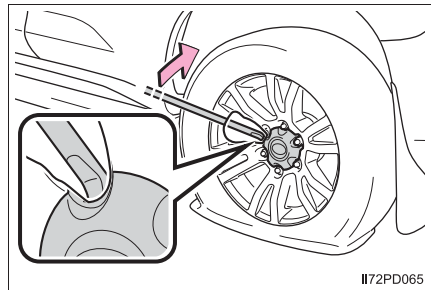


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

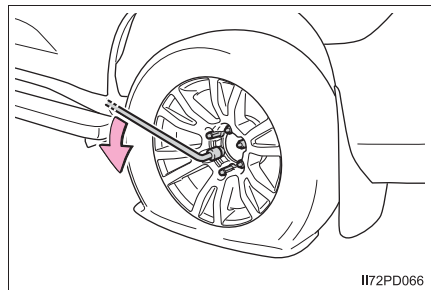
2 センターオーナメントをはずす

ホイールナットレンチの後端を図のように挿し込んで、センターオーナメントをはずします。

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。



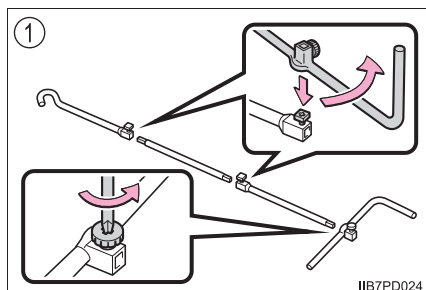
3 ナットを少し(約1回転)ゆるめる



4 ジャッキハンドルを組み付ける

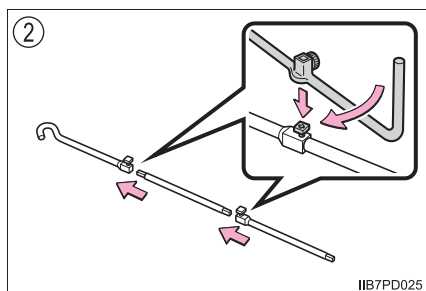
工具箱からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バー・ジャッキハンドルバーを取り出し (→P. 450)、図のように組み付けます。

- ① ボルト (2 本) ・ネジ部 (1ヶ所) をジャッキハンドルおよびドライバーを使用してゆるめる

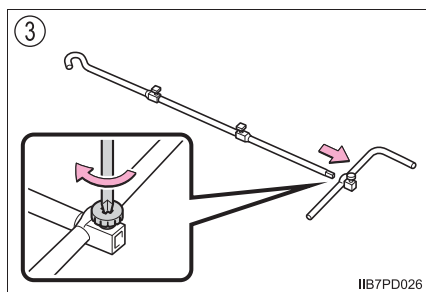


- ② ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルバーを組み付け、ボルト (2 本) を締め付ける

ボルトがしっかりと固定されていることを確認します。



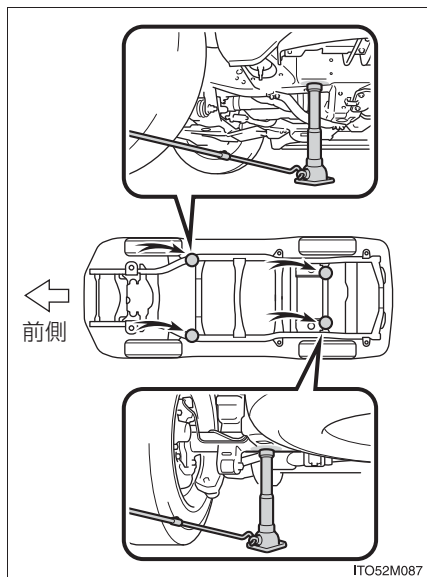
- ③ ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルを組み付け、ネジ部 (1ヶ所) を締め付ける
- ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。



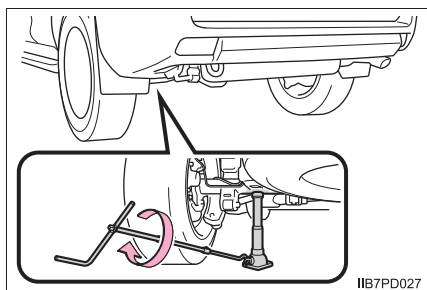
- 5 組み付けたジャッキハンドルをジャッキ穴部に挿し込みジャッキセット位置にジャッキをかける

ジャッキセット位置：

フロント	シャシーフレーム サイドレール下
リヤ	リアアクスル ハウジング下

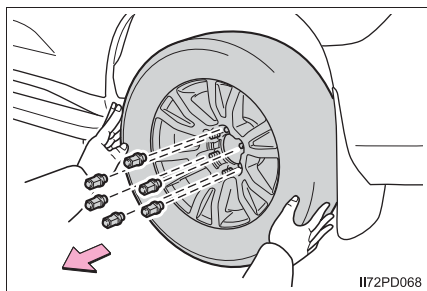


- 6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にしてます。



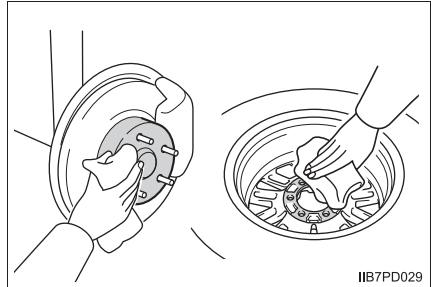
 **警告****■ タイヤ交換について**

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
 - ・ スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
 - ・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

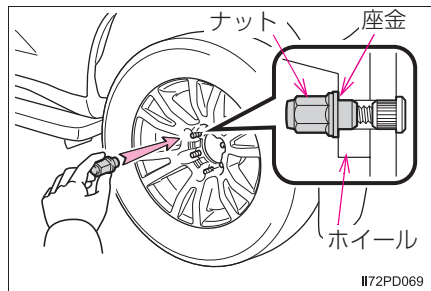
- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

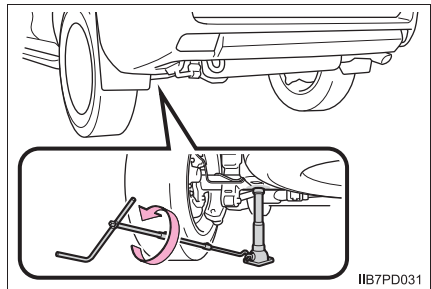


- 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールに軽くあたるまでまわします。



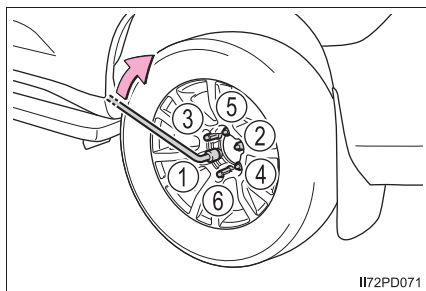
- 3 車体を下げる



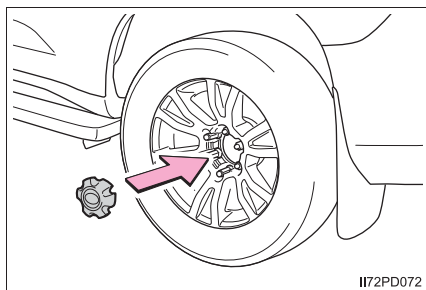
- 4 図の番号順でナットを 2、3 度
しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103N・m (1050kgf・cm)



- 5 センターオーナメントを取り付
ける



- 6パンクしたタイヤを格納し、工具・ジャッキをもとどおりに収納する
(→ P. 461)

警告

■パンクしたタイヤを収納するときは

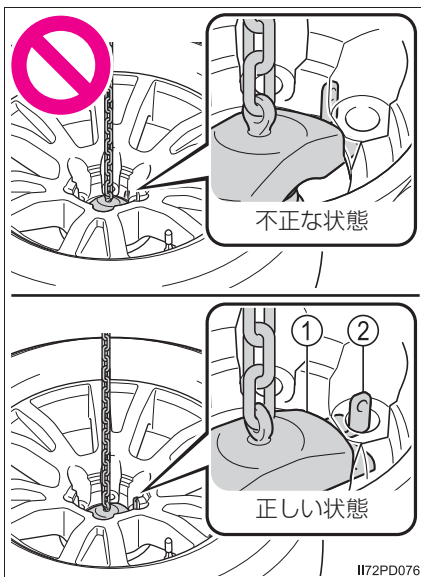
次の手順をお守りいただかないと、スペアタイヤキャリアの損傷やタイヤの落下により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

- 1 タイヤの外側が上になるように地面に置き、ツメをホイールの穴にかけてアンカープレートを取り付け、ジャッキハンドルをまわして鎖のたるみをなくす

ツメがホイールの穴に確実にかかっていること、アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。

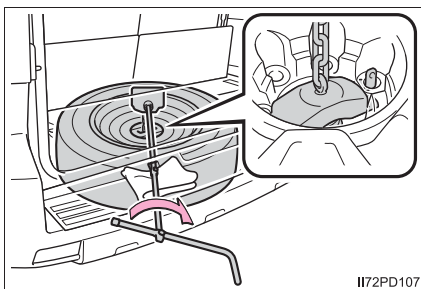
- ① アンカープレート
- ② ツメ



- 2 ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げる

▶ KDSS※ 非装着車

タイヤはまっすぐ上げてください。走行中、急ブレーキや衝突の際にタイヤが前方に飛び出すのを防ぐため、周囲の部品を巻き込まないようにしてください。



▶ KDSS※ 装着車

タイヤを車両後方に引きながら上げてください。走行中、急ブレーキや衝突の際にタイヤが前方に飛び出すのを防ぐため、周囲の部品を巻き込まないようにしてください。

タイヤを半分まで上げたら、鎖がタイヤの穴に正しく収まっていることを確認してください。

締め付けトルク：

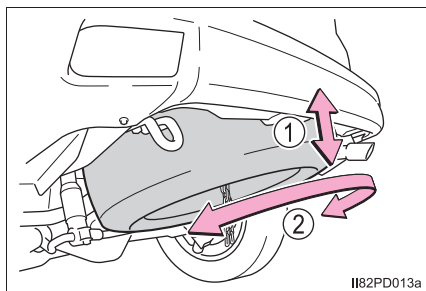
46.6N・m (475.2kgf・cm)

※ KDSSについては、別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

- 3 タイヤを巻き上げたら、タイヤが確実に固定されていることを確認する

- ① タイヤを上下にゆする
- ② 回転させる

タイヤが周囲の部品に干渉していないことを直接目で確認してください。



ゆるんだり、正しく収納できなかつたりした場合は、手順2と手順3をくり返してください。

- 4 タイヤが下がったときや不安定なときは、手順3をくり返す
- 5 工具・ジャッキを収納する (→ P. 452)

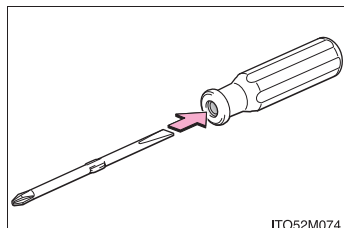
知識

■ スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。(→ P. 486)

■ ドライバーの使い方

軸部分を引き抜いて挿し込み方向をかえることにより、プラス・マイナス両方のドライバーとして使用できます。



 **警告****■ 工具・ジャッキを使用したあとは**

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **注意****■パンクしたタイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- スペアタイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

■ タイヤを交換するときは（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤ・ホイール・タイヤ空気圧警告システムのバルブや送信機を取りはずしたり、付けかえるときは、トヨタ販売店へご連絡ください。タイヤ空気圧警告システムのバルブと送信機の扱いを誤ると、バルブと送信機が損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 189）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 189）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 72）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 468）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 465）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 468）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで、エンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

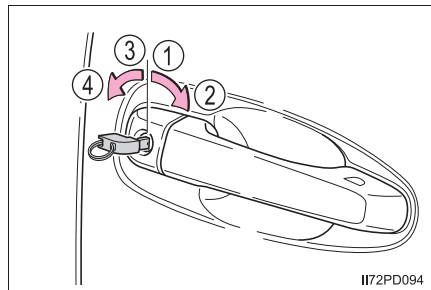
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 132）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作

メカニカルキー（→P. 106）を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア施錠
- ② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※
- ③ 全ドア解錠
- ④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→P. 488）

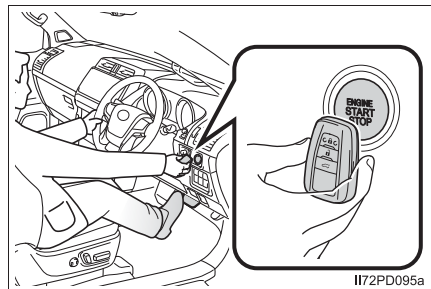



エンジン始動の方法

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリモードへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ エンジンの停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 402)

■ オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠したときの作動は、車両の設定により異なります。(カスタマイズ一覧：→P. 488)

■ エンジンスイッチのモード切りかえ

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 190)

■ 電子キーが正常に働かない場合

- 電子キーが正常に働かないときは、スマートエントリー&スタートシステムがキャンセルされていないことも確認してください。
(カスタマイズ一覧：→P. 488)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。(→P. 131)

 警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

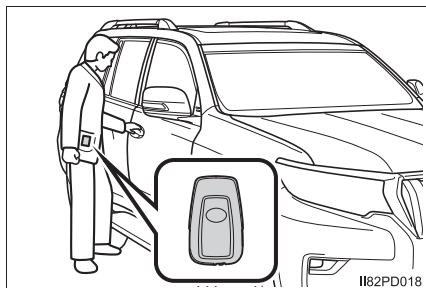
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 電子キーを携帯していることを確認する

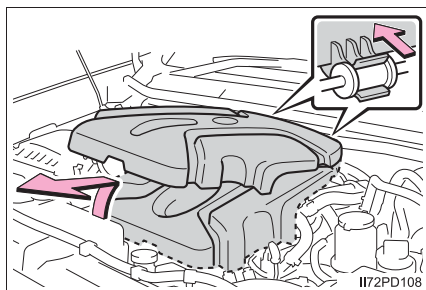
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P. 75)



- 2 ボンネットを開ける (→ P. 389)

- 3 エンジン上部のカバーをはずす
(ディーゼル車のみ)

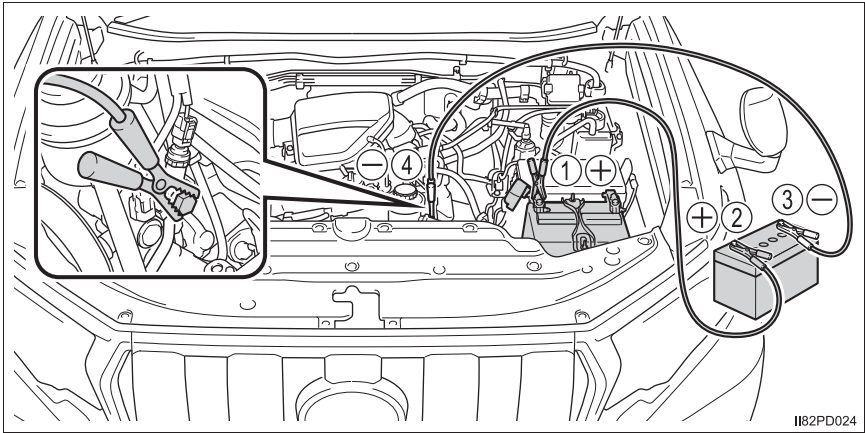
先端を持ち上げてカバーを固定ピンからはずし、カバー本体を手前に引いて取りはずします。



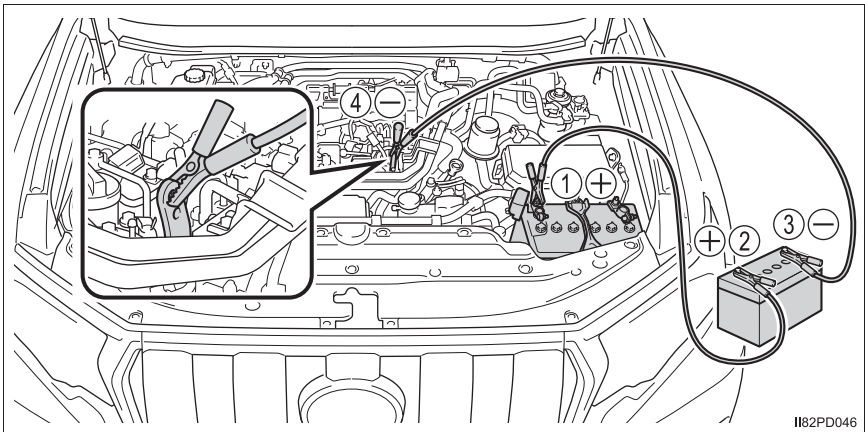
- 4 バッテリーの + 端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの + 端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部 (次ページの図に示すような固定された部分) につなぐ

▶ ガソリン車



▶ ディーゼル車



- 5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 6 エンジンスイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する

- 7 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける
- 8 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリー + 端子のカバーをもとにもどしてください。
- 9 エンジン上側のカバーをもとどおりに取り付ける（ディーゼル車）
取りはずしたときと逆の手順で、エンジン上部のカバーを取り付けます。取り付け後は、固定ピンが確実にはめ込まれていることを確認してください。
エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやオーディオ（装着車のみ）の電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリー 2 個搭載車について

- バッテリーが 2 個ありますが、24V ではありません。
- バッテリーの交換は必ず 2 個同時に、同メーカー・同一型式のバッテリーを使用してください。
- 長期駐車などで - 端子をはずす場合は、必ず両方のバッテリーの - 端子をはずしてください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■ バッテリーあがり時や取りはずし時は

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチをOFFにしてから行ってください。バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 **注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ エンジン上部のカバーの損傷を防ぐために（ディーゼル車）

次のことを必ずお守りください。

- カバーを取りはずすときは、必ず先端を持ち上げてカバーを固定ピンからはずし、カバー本体を手前に引いてください。
- カバーを取り付けるときは、取り付け部上面を強い力で押さえたり、たたいたりしないでください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

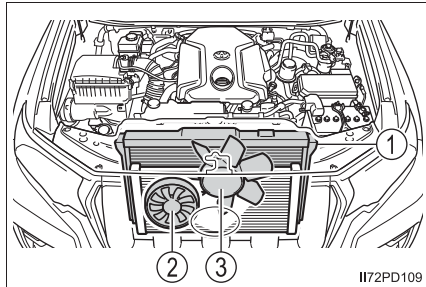
- メーター内の水温計の針（→ P. 84）がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

- ① ラジエーター
- ② 冷却ファン★
- ③ ラジエーター冷却ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

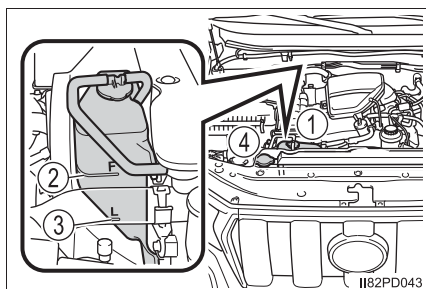


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 4 冷却水の量がリザーバータンクの “F” / “FULL”（上限）と “L” / “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

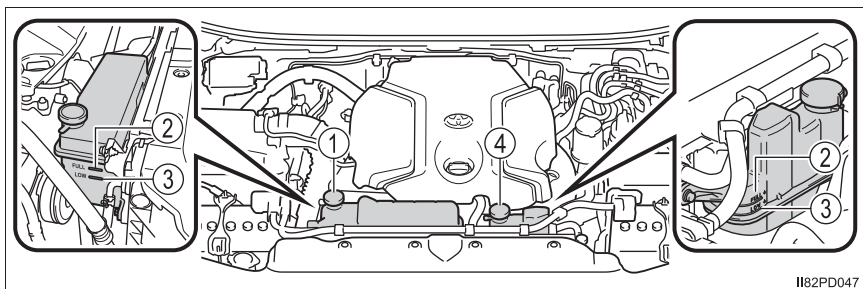
▶ ガソリン車

- ① リザーバータンク
- ② “F”（上限）
- ③ “L”（下限）
- ④ ラジエーターキャップ



II82PD043

▶ ディーゼル車

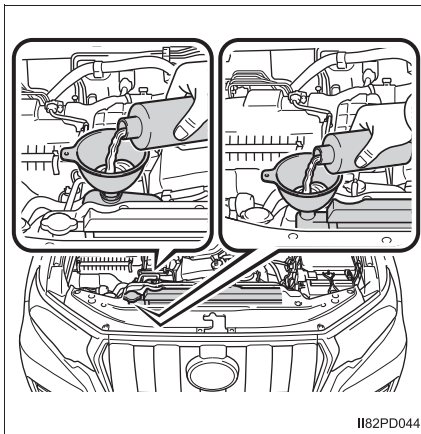


II82PD047

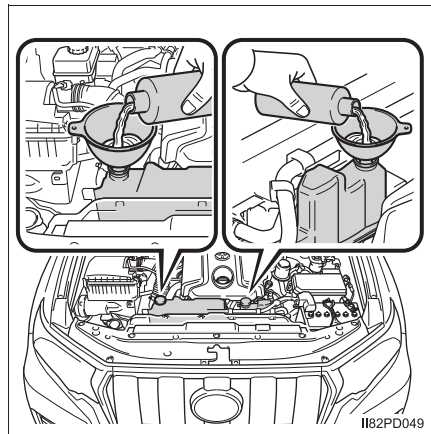
- ① エンジンクーラントリザーバータンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）
- ④ インタークーラークーラントリザーバータンク

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ ガソリン車



▶ ディーゼル車



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

 **警告****■ エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→ P. 389）、エンジンルームカバー（→ P. 391）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップ★および冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 **注意****■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む



スタックからの脱出方法について

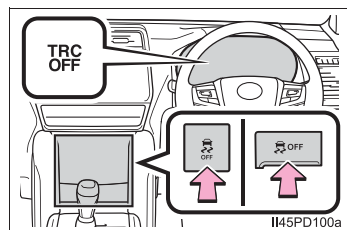
別冊「オフロード走行取扱書」では、センターデフロックやリヤデフロック（装着車のみ）など、4WD 車の特殊機能を使用したスタック脱出の方法を説明しています。状況によっては、それらの機能を使用すると脱出が容易になる場合がありますので、併せて参照してください。

知識

■ 脱出しにくいとき

TRC・VSCの作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。（→ P. 294）

 または  を押してTRCをOFFにしてください。



 **警告****■ 脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。
- スタックから脱出する際にオートマチックトランスミッションの油温に関する警告メッセージが表示されたときは、ただちにアクセルペダルから足を離して警告メッセージが表示されなくなるまで待ってください。トランスミッションが故障するおそれがあります。(→ P. 442)

車両情報**8**

- 8-1. 仕様一覧
 - メンテナンスデータ
(指定燃料・オイル量
など)480
- 8-2. カスタマイズ機能
 - ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....488
- 8-3. 初期設定
 - 初期設定が必要な項目498

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

▶ ガソリン車

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	87

▶ ディーゼル車

指定燃料	容量 [L]（参考値）
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	87

エンジンオイル

▶ ガソリン車

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルと オイルフィルター 交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 (API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20) 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 (API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30)	5.5	5.9

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

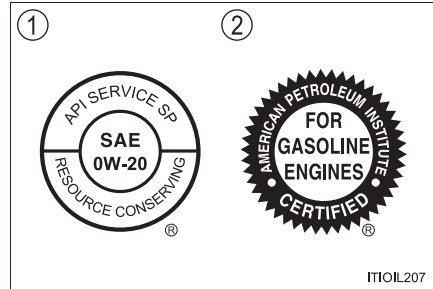
■ 指定エンジンオイル

API規格SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RCか、ILSAC規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

0W-20が入手困難な場合は、5W-30もご使用いただけます。

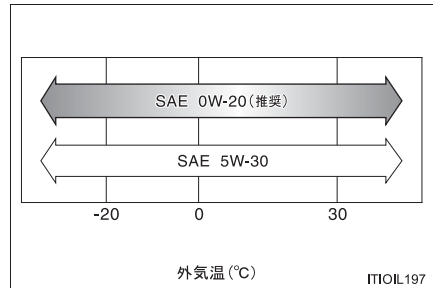
なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサクサーティフィケーション）マークがついています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
 - ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
- 粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

▶ ディーゼル車

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)	
	オイルのみ 交換	オイルと オイルフィルター 交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル C5 0W-20 (ACEA C5, SAE 0W-20) 適合： トヨタ純正モーターオイル DL-1 0W-30 (JASO DL-1, SAE 0W-30) トヨタ純正モーターオイル DL-1 5W-30 (JASO DL-1, SAE 5W-30)	7.2	7.7

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

ACEA 規格 C5 に合致したオイルをご使用ください。

0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

0W-20 が入手困難な場合は、JASO DL-1 0W-30、5W-30 もご使用いただけます。

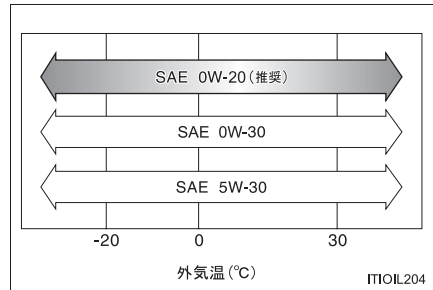
なお、JASO 規格合格油の缶には JASO DL-1 マークが付いています。

JASO DL-1 マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

⚠ 注意

■ ディーゼル車のエンジンオイルの交換について

- エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。
- エンジンオイルは必ず約 20,000km ごと（ただし 12ヶ月をこえないこと）、オイルフィルターは必ず約 20,000km ごとに交換してください。定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	ガソリン	8.1	
	ディーゼル	エンジン	10.2
		インタークーラー	2.6

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値 [※])
トヨタ純正オートフルード WS	ガソリン	8.5
	ディーゼル	9.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

■ フロント

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	1.4

■ リヤ[※]

指定銘柄 (推奨粘度)	項目	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	ノーマル	2.7
	デフロック付き	2.65
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5 SAE 75W-85)	トルク感応式 LSD 付き	2.55

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

トランスファー

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正トランスファーギヤオイル LF (SAE 75W)	1.4

パワーステアリング

指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	ガソリン	0.7
	ディーゼル	0.8

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※ ¹	104

※¹ エンジン回転時に 490N (50kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしる 操作力 200N (20kgf) のときのノッチ数 ※ ²	5 ~ 7

※² ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)	4.75
--------------	------

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
265/65R17 112S	17×7 1/2J	220 (2.2)	220 (2.2)
265/60R18 110H	18 × 7 1/2J	220 (2.2)	220 (2.2)
265/55R19 109V	19×7 1/2J	220 (2.2) ※ 230 (2.3)	220 (2.2) ※ 230 (2.3)

※ リヤライトコントロールエアサスペンション装着車

電球 (バルブ) ※

電球		W (ワット) 数
車外	フロント方向指示/非常点滅灯	21
	リヤ方向指示/非常点滅灯	21
	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	21
	番号灯	5
	サイドステップ照明★	5
車内	フロントパーソナルランプ	5
	ルームランプ★	8
	読書灯★	5
	バニティミラーランプ	8

※ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TRJ150W	2TR-FE (2.7L ガソリン)	4WD (4 輪駆動)
GDJ150W	1GD-FTV (2.8 L ディーゼル)	
GDJ151W		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。




ユーザーカスタマイズ機能一覧


お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。設定変更は、マルチインフォメーションディスプレイのメーターカスタマイズ機能、またはメーカーオプションのナビゲーションシステムの画面操作（装着車のみ）、トヨタ販売店で行うことが可能です。（設定可能な機能は、それぞれの方法で一部異なります）

設定変更のしかた

操作するときは、安全な場所に停車してシフトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけた状態で行ってください。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには


- 1 メーター操作スイッチで、を選択する
- 2 変更する項目を選択し、を押す
- 3 設定したい項目を選択し、を押す

設定を終了する場合は、スイッチを押します。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

- 1 「MENU」スイッチにタッチし、「設定・編集」を選択する
- 2 「設定・編集」画面の「車両」を選択する
- 3 「車両カスタマイズ」を選択する
- 4 設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）、「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整し、を選択します。

車両カスタマイズ設定一覧

変更する機能により、トヨタ販売店でのみ変更が可能か、メーターカスタマイズ機能などでも可能かどうか異なります。次の表を参考に、①～④の該当する方法で設定変更を行ってください。

- ① メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車：ナビゲーションシステムによる設定
- ② メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車：メーターカスタマイズ機能による設定
- ③ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車：メーターカスタマイズ機能による設定
- ④ トヨタ販売店で設定可能

■ ドアロック (→ P. 110)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	—	—	○
車速感応オートドアロック	する	しない	○	—	—	○
シフトレバーをPから動かしたときの全ドア施錠(シフト操作連動ロック)	しない	する	○	—	—	○
シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠(シフト操作連動アンロック)	する	しない	○	—	—	○
運転席を開けたときの全ドア解錠(運転席ドア開連動アンロック)	しない	する	○	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 128)、ワイヤレスドアロック (→ P. 106) 共通

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル 5	OFF				
		レベル 1～7	○	—	—	○
作動の合図 (非常点滅灯)	する	しない	○	—	—	○
解錠後、ドアを開けなかつたときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒				
		120 秒	—	—	—	○
半ドア警告ブザー	する	しない	—	—	—	○
ワイヤレスリモコンスイッチでのバックドアガラスのロック解除操作	1 回押し 続ける (短)	1 回押し				
		2 回押し				
		1 回押し 続ける (長)	—	—	—	○
		非作動				

■ スマートエントリー&スタートシステム (→ P. 128)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
スマートエントリー&スタートシステム	する	しない	○	—	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 106)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ワイヤレス機能	する	しない	—	—	—	○
解錠時の操作	1 回で 全ドア解錠	1 回で運転席 ドア解錠、連 続 2 回で全ド ア解錠	○	—	—	○

■ メモリーコール機能★ (→ P. 150)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 209)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ライトセンサーの感度調整	— 2	レベル — 1 ~ + 2	○	—	—	○
LED デイライトの作動	する	しない	—	—	—	○
おもてなし照明★の点灯	する	しない	—	—	—	○

■ イルミネーション (→ P. 338)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
点灯制御	する	しない	—	—	—	○
消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	—	○
		7.5 秒				
		30 秒				
接近時の作動	する	しない	—	—	—	○
解錠時の作動	する	しない	—	—	—	○
エンジンスイッチOFF後の作動	する	しない	—	—	—	○
センターコンソールイルミネーション★の作動	する	しない	—	—	—	○
足元照明★の作動	する	しない	—	—	—	○
ラウンジ照明調光制御★	する	しない	—	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーウィンドウ (→ P. 166)、ムーンルーフ★※ (→ P. 170)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ドアキー連動開閉機能 (閉)	しない	する	—	—	—	○
ドアキー連動開閉機能 (開)	しない	する	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能 (閉)	しない	する	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能 (開)	しない	する	—	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図 (ブザー)	する	しない	—	—	—	○

※ パワーウィンドウの設定を変更すると、ムーンルーフの設定も連動して変更されます。

■ メーター照明 (→ P. 86)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサー感度調節	レベル 0	レベル - 2 ~ + 2	○	—	—	○
周囲の明るさにより、減光したメーターの照度をもとにもどすためのセンサー感度調節	レベル 0	レベル - 2 ~ + 2	○	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートエアコン (→ P. 330)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	—	○
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	—	○


■ オートアラーム (→ P. 73)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	—	—	—	○

■ クリアランスソナー (→ P. 281)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
クリアランスソナー機能の On/Off	On	Off	—	○	○	—
フロントセンサーの検知可能距離	約 100cm	約 60cm	—	—	—	○
バックセンサーの検知可能距離	約 150cm	約 65cm	—	—	—	○
ブザー音量	レベル 2	レベル 1 ~ 3	—	○	○	○

■ マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 87)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
言語	日本語	英語	○	○	○	○
エコドライブインジケータランプの作動	する	しない	—	○	○	○
 スイッチ設定	始動後	お好みの項目※	—	○	○	○
割込表示★	あり	なし	—	○	—	○
車両表示	背面タイヤ表示なし	背面タイヤ表示あり	—	○	○	○

※ 登録できない項目もあります。

■ ドアミラー (→ P. 161)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
オート電動格納作動★	ドアの施錠・解錠と連動	OFF				
		エンジンスイッチと連動	—	—	—	○
リバース連動作動	あり	なし	—	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。




■ LDA (レーンディパーチャーアラート) (→ P. 248)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ヨーアシスト	あり	なし	—	○	○	○
警報手段	ブザー	なし	—	○	○	○
警報ブザーが吹鳴する感度 (警報感度)	普通	高	—	○	○	○
ふらつき検知機能	あり	なし	—	○	○	○
ふらつき検知機能の感度調節	普通	低	—	○	○	○
		高	—	○	○	○

■ BSM (ブラインドスポットモニター) ★ (→ P. 298)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
ブラインドスポットモニター	あり	なし	—	○	○	—

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→ P. 237)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
PCS 機能の On/Off	On	Off	—	○	○	—
衝突警報感度	 (中間)	 (早い)	—	○	○	—
		 (遅い)				

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RSA（ロードサインアシスト（→ P. 258）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
RSA（ロードサインアシスト）機能	On	Off	—	○	○	—
制限速度超過告知	なし	告知表示のみ	—	○	○	—
		告知表示とブザー	—	○	○	—
制限速度超過の告知車速	2km/h	10km/h	—	○	○	—
		5km/h	—	○	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ	なし	—	○	○	—
		告知表示とブザー	—	○	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ	なし	—	○	○	—
		告知表示とブザー	—	○	○	—

■ 先行車発進告知機能★（→ P. 276）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④
先行車発進告知機能	On	Off	—	○	○	—
告知距離	普通	近い	—	○	○	—
		遠い	—	○	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。


 知識

■ 車両カスタマイズについて

- 「スマートエントリー&スタートシステム」が「しない」の場合、「解錠ドアの選択」はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（ブザー）」・「作動の合図（非常点滅灯）」の設定に依存します。

■ メーターカスタマイズ機能の設定画面が終了するとき

次の場合は、メーターカスタマイズ機能の設定画面が終了、または他の画面に切りかわります。

-  (→ P. 87) を押したとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- 車が走り始めたとき（車速約 8km/h 以上）
- 警告メッセージが表示されたとき

 警告

■ 設定変更の操作を行うときは

換気のよい場所に停車して行ってください。エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

設定変更の操作は、エンジンをかけた状態で行ってください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく動作させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
タイヤ空気圧警報システム★	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったあと ・ タイヤローテーションを実施したあと 	P. 376
マルチトレインモニター★	バッテリーの充電・交換後の再接続時	別冊「オフロード走行取扱書」
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時 	P. 312

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	500
車から音が鳴ったときは (音さくいん).....	504
アルファベット順さくいん.....	506
五十音順さくいん.....	508

オフロード走行を行う際の注意事項、知っておくと便利な情報、フルタイム 4WD、トランスファースイッチやマルチテレインセレクト（装着車のみ）などオフロード走行用の機能については、別冊「オフロード走行取扱書」をお読みください。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客様は、次の装備については別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ・GPS ボイスナビゲーション
- ・ETC2.0 システム
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・ハンズフリー
- ・音声操作システム
- ・T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 107）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 109）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 402）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
（→ P. 190）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 132）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
（→ P. 113）

故障かな？と思ったら**エンジンが始動できない**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 189）
- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 189）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 129）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 192）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 466）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 468）

**ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーがPから動かない**

- エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 200）

**エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 192）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。(→ P. 166)



エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッションONモード(エンジンがかかっていない状態)にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→ P. 191)



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは (音さくいん)」(→ P. 504) をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 434、442 をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 448）

**立ち往生した**

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 477）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 73
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P. 445
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 73
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 402
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 130
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 130

※ スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドア・バックドアガラスを解錠する、またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 438
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 438
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 436
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 199
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 182
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P. 270
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 237
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート[ヨーアシスト機能付き]）の車線逸脱警報機能・ふらつき警報機能が作動した	P. 252

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C	
(エアコン)	330
ABS	
(アンチロックブレーキシステム)	292, 435
AdBlue[®]	
(アドブルー)	393, 436
AHB	
(オートマチックハイビーム)	213
AI-SHIFT	
(アーティフィカルインテリジェンスシフト)	200
AVS	
(アダプティブバリアブルサスペンションシステム)	292
BSM	
(ブラインドスポットモニター)	298
CRAWL	
(クロールコントロール) ※	
DAC	
(ダウンヒルアシストコントロール) ※	
DPF	
(ディーゼルパティキュレートフィルタ)	204
EDR	
(イベントデータレコーダー)	8
ESPO	
(エコパスポート)	102
ILSAC CERTIFICATION	
(イルサックサーティフィケーション)	481
ISOFIX	
(アイソフィックス/イソフィックス)	66
KDSS	
(キネティックダイナミックサスペンションシステム) ※	
LDA	
(レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き])	248
PCS	
(プリクラッシュセーフティ)	237
PKSB	
(パーキングサポートブレーキ)	312

※：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート) 305

RSA

(ロードサインアシスト) 258

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 32, 435

Toyota Safety Sense

AHB (オートマチックハイビーム) 213

LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]) . . 248

PCS (プリクラッシュセーフティ) 237

RSA (ロードサインアシスト) 258

先行車発進告知機能 276

レーダークルーズコントロール 263

TRC

(トラクションコントロール) 292

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 292

五十音順さくいん

あ

アースポイント	
(バッテリーあがりの処置).....	468
アームレスト	
(セカンドシート).....	363
アウターミラー (ドアミラー) ...	161
操作	161
ドライビングポジション	
メモリー.....	150
ブラインドスポットモニター	
(BSM).....	298
リバース連動機能.....	162
アクセサリースOCKET.....	360
アクセサリモード.....	190
足元照明.....	338
アダプティブバリアブル	
サスペンションシステム	
(AVS).....	292
AdBlue®.....	393
AdBlue® 残量警告灯.....	436
AdBlue® 残量表示.....	394
補充.....	396
容量.....	396
アンチロックブレーキシステム	
(ABS).....	292
アンテナ (スマートエントリー&	
スタートシステム).....	128

い

イグニッションスイッチ	
(エンジンスイッチ).....	189
位置交換	
(タイヤローテーション).....	376
イベントデータレコーダー	
(EDR).....	8
イモビライザーシステム.....	72

イルミネーターヘッドエントリー

システム.....	342
インジケーター	
表示灯.....	81
インテリアランプ.....	340
インナーミラー.....	159

う

ウインカー (方向指示灯).....	202
電球 (バルブ) の交換.....	408
方向指示レバー.....	202
ワット数.....	487
ウインドウ	
ウォッシャー.....	219, 224
パワーウインドウ.....	166
リヤウインドウ	
デフォグガー.....	331
ウインドウロックスイッチ.....	166
ウインドシールドデアイサー.....	332
ウォーニングランプ	
(警告灯).....	434
ウォッシャー	
液の補給.....	400
スイッチ.....	219, 224
タンク容量.....	486
冬の前の準備・点検.....	324
動けなくなったときは	
(スタック).....	477
雨滴感知式ワイパー.....	221
運転	
運転を補助する装置.....	292
寒冷時の運転.....	324
正しい運転姿勢.....	26
手順.....	176
運転席シートポジション	
メモリー.....	150

え

エアコン・デフォグガー	330
エアバッグ	32
SRS エアバッグ警告灯	435
作動条件	37
配置	32
エコドライブ	
インジケーター	83, 96
LED デイライト	211
LED ヘッドランプ	
オートレベリングシステム ...	212
電球（バルブ）の交換	416
ランプスイッチ	209
エンジン	
エンジンモビライザー	
システム	72
エンジン回転計	
（タコメーター）	84
エンジンがかからない	
（エンジンが始動	
できない）	464
エンジン警告灯	434
エンジンスイッチ	189
エンジンの始動方法	189
エンジンルームカバー	391
オーバーヒート	473
ボンネット	389
エンジンオイル	480
警告メッセージ	444
冬の前の準備・点検	324
メンテナンスデータ	480
エンジンスイッチ	189
エンジンフード（ボンネット） ...	389
開け方	389

エンジンルーム

エンジンルームカバー	391
エンジンルームから蒸気が	
出ている	473

お

オーディオ ※¹

オートアウェイ&	
リターン機構	157
オートアラーム	73
オートドア	
アンロック機能	113
オートマチックハイビーム	
（AHB）	213
オートレベリングシステム	
（ヘッドランプ）	212
オーバーヒート	473
オープンナー	
給油扉	230
ボンネット	389
オイル	
エンジンオイル	480
デファレンシャルギヤ	
オイル	484
トランスファーギヤオイル ...	485
お子さまを乗せるとき	42
ウインドウロックスイッチ ...	166
お子さまの安全のために	42
シートベルトの着用	29
チャイルドシート	43
チャイルドプロテクター	113
オドメーター	84
機能	84
表示の切りかえ・	
リセットボタン	85

※¹：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※²：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

か

カーテンシールドエアバッグ	32
カーペット	
洗浄	373
フロアマットの取り付け方	24
外気温表示	97
外装の電球 (バルブ)	
交換要領	408
ワット数	487
カスタマイズ機能	488
型式	487
カップホルダー	347
ガラスの曇り取り (リヤウインドウ デフォグガー)	331
冠水路走行	186
寒冷時の運転	324

き

キー	106
キーナンバープレート	106
キーの構成	106
キーレスエントリー	128
キーをなくした	107, 109
正常に働かない	466
施錠・解錠ができない	466
エンジンが始動できない	466
電子キー	106
電池が切れた	402, 466
メカニカルキー	107
ワイヤレスリモコン	106

キーレスエントリー

スマートエントリー& スタートシステム	128
ワイヤレスドアロック	110
キネティックダイナミック サスペンションシステム (KDSS) ※2	

給油

給油のしかた	227
メンテナンスデータ	480

給油後平均燃費

緊急時シートベルト固定機構

緊急時の対処

エンジンがかからない	464
オーバーヒートした	473
キーの電池が切れた	402, 466
警告灯がついた	434
警告メッセージが 表示された	442
けん引	426
故障した	420
車両を緊急停止する	424
水没・冠水したときは	425
スタックした	477
電子キーが正常に働かない	466
発炎筒	422
バッテリーがあがった	468
パンクした	448

く

空気圧 (タイヤ).....	486
タイヤ空気圧警告灯	436
タイヤ空気圧警報	
システム.....	377
メンテナンスデータ	486
区間距離計	
(トリップメーター).....	84
機能	84
切りかえ・リセットボタン.....	85
曇り取り	
ミラーヒーター	331
リヤウインドウ	
デフォッガー.....	331
クラクション (ホーン).....	157
クリアランスソナー.....	281
警告メッセージ.....	286
クリアランスランプ (車幅灯) ...	209
スイッチ.....	209
電球 (バルブ) の交換.....	416
クリップ	
エンジンルームカバー.....	391
フロアマット.....	24
クルーズコントロール	
警告メッセージ.....	273
レーダークルーズ	
コントロール.....	263
グローブボックス.....	344
グローブボックスランプ.....	344
クロールコントロール *2	

け

警音器 (ホーン).....	157
計器類 (メーター).....	84
照度調整.....	85
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	87
メーター.....	84
警告灯.....	79
ABS & ブレーキ	
アシスト.....	435
AdBlue® 残量.....	436
SRS エアバッグ.....	435
L4 作動表示灯.....	439
エンジン.....	434
クリアランスソナー OFF	
表示灯.....	437
KDSS.....	435
シートベルト非着用.....	436
充電.....	434
スリップ表示灯.....	435
センターデフロック	
作動表示灯.....	439
ドライブスタート	
コントロール.....	437
燃料残量.....	436
パーキングブレーキ表示灯 ...	437
パワーステアリング.....	435
半ドア.....	436
PKSB OFF 表示灯.....	437
PCS.....	436
プリテンショナー.....	435
ブレーキ.....	434
ブレーキ	
オーバーライドシステム.....	437
ヘッドランプ	
オートレベリング.....	435

*1 : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

*2 : 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

マスターウォーニング.....	436
リヤデフロック作動表示灯....	439
警告ブザー	
シートベルト非着用.....	438
シフトダウン制限.....	199
接近警報（レーダークルーズ コントロール）.....	270
パーキングブレーキ	
未解除走行時.....	438
半ドア.....	111
半ドア走行時.....	438
ブレーキ.....	434
ムーンルーフ開.....	171
リバース.....	199
警告メッセージ.....	442
傾斜計※2	
化粧ミラー	
（パニティミラー）.....	357
けん引	
けん引のしかた.....	426
フック.....	426

こ

交換	
キーの電池.....	402
タイヤ.....	448
電球（バルブ）.....	408
ヒューズ.....	405
工具（ツール）.....	449
航続可能距離.....	90
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換.....	412
ワット数.....	487

コートフック.....	363
小物入れ.....	350
コンソールボックス.....	345
コンライト （自動点灯・消灯装置）.....	209

さ

サイドエアバッグ.....	32
サイドステップ照明	
電球（バルブ）の交換.....	416
ワット数.....	487
サイド方向指示灯.....	202
電球（バルブ）の交換.....	416
方向指示レバー.....	202
サイドミラー（ドアミラー）.....	161
操作.....	161
ドライビングポジション メモリー.....	150
ブラインドスポットモニター （BSM）.....	298
リバース連動機能.....	162
サンシェード	
ムーンルーフ.....	171
サンバイザー.....	357

し

シート	136, 138
サードシート	138
セカンドシート	138
正しい運転姿勢	26
チャイルドシート	43
手入れ	373
ドライビングポジション	
メモリー	150
フロントシート	136
ヘッドレスト	153
シートアレンジ	
サードシートの格納	142, 144
セカンドシートの格納	140
シートヒーター&	
ベンチレーター	336
シートベルト	28
お子さまの着用	29
緊急時シートベルト	
固定機構	29
シートベルト非着用警告灯	436
高さ調整	28
正しく着用するには	28
着け方・はずし方	28
手入れ	374
妊娠中の方の着用	30
シートベルト非着用警告灯	436
シートベルトプリテンショナー	29
機能	29
プリテンショナー警告灯	435
シートポジションメモリー	150
室内灯 (インテリアランプ)	338
始動のしかた	189
シフトポジション	195

シフトレバー	195
シフトロックシステム	
(解除ボタン)	199
操作	195
リバース警告ブザー	199
シフトレバーがシフト	
できないときは	200
締め付けトルク (ホイール)	460
車高切りかえスイッチ ^{※2}	
ジャッキ	
車載ジャッキ	449
ジャッキハンドル	450
車幅灯	209
電球 (バルブ) の交換	416
ランプスイッチ	209
車両型式	487
車両仕様 (スペック)	480
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	424
瞬間燃費	90
仕様 (車両仕様)	480

す

水温計	84
スイッチ	
イグニッション	189
ウインドロック	166
ウォッシャー	219, 224
LDA	253
エンジンスイッチ	189
オーディオ ^{※1}	
カメラ ^{※2}	
クリアランスソナー	281
クルーズコントロール	263

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

- サードパワーシート 144
- シート調整 136
- シートヒーター &
ベンチレーター 336
- シートポジションメモリー 150
- 車間距離切りかえ (レーダー
クルーズコントロール) 268
- タイヤ空気圧警報
リセット 377
- 電話 ※1
- トーク ※1
- ドアミラー 161
- ドアロック 112
- ドライビングポジション
メモリー 150
- ドライブモードセレクト 279
- トランスファー ※2
- 排出ガス浄化スイッチ 204
- パーキングブレーキ 203
- バックドア 119
- バックドアガラス 123
- パドルシフト 197, 198
- パワーウインドウ 166
- ハンドル位置調整 156
- 非常点滅灯
(ハザードランプ) 421
- ヒーターアイドルアップ 332
- VSC OFF 294
- フォグランプ 217
- ヘッドランプクリーナー 226
- 方向指示レバー 202
- ホーン (警音器) 157
- ムーンルーフ 170
- ラウンジ照明調光 341
- ランプ 209
- リヤウインドウ
デフォグガー 331
- レーダークルーズ
コントロール 263
- ワイパー 219, 224
- スタック 477
- ステアリングスイッチ 365
- ステアリングホイール
(ハンドル) 156
- 位置調整 156
- オートアウェイ &
オートリターン機構 157
- ドライビングポジション
メモリー 150
- ステアリングロック 192
- 解除できないとき 192
- 警告メッセージ 192
- ストップランプ (制動灯)
電球 (バルブ) の交換 416
- スノータイヤ (冬用タイヤ) 324
- スピードメーター 84
- スペアタイヤ (応急用タイヤ) 448
- 空気圧 486
- スペック (車両仕様) 480
- スマートエントリー &
スタートシステム 128
- アンテナの位置 128
- エンジンの始動 189
- カスタマイズ設定 488
- 警告ブザー 130
- 警告メッセージ 130
- 作動範囲 129
- 正常に働かないとき 466
- 節電機能 131
- 電波がおよぼす影響
について 135
- ドアの解錠・施錠 110

スモールランプ（車幅灯）.....	209
電球（バルブ）の交換.....	416
ランプスイッチ.....	209

せ

清掃	
アルミホイール.....	369
外装.....	368
シートベルト.....	374
内装.....	373
レーダー.....	233, 301
制動灯	
電球（バルブ）の交換.....	416
積算距離計（オドメーター）.....	84
機能.....	84
表示の切りかえ・	
リセットボタン.....	85
セキュリティ	
インジケーター.....	72, 73
接近警報（レーダークルーズ	
コントロール）.....	270
先行車発進告知機能.....	276
センサー	
インナーミラー.....	160
雨滴感知センサー.....	222
クリアランスソナー.....	281
ドアハンドル.....	110
Toyota Safety Sense.....	232
ライトセンサー.....	211
レーダー.....	232, 301
洗車.....	368
前照灯（ヘッドランプ）.....	209
電球（バルブ）の交換.....	416
ライトセンサー.....	211
ランプ消し忘れ防止機能.....	212
ランプスイッチ.....	209

そ

走行モード	
セカンドスタートモード.....	196
ドライブモード.....	279
送信機（タイヤ空気圧警報	
システム）.....	377
速度計（スピードメーター）.....	84

た

ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）.....	202
電球（バルブ）の交換.....	408
方向指示レバー.....	202
ワット数.....	487
タイヤ.....	376
空気圧.....	387, 486
締め付けトルク.....	460
点検.....	376
パンクしたときは.....	448
ホイールサイズ.....	486
ローテーション	
（位置交換）.....	376
タイヤが空まわりする	
（スタックした）.....	477
タイヤ空気圧警報システム.....	377
ID コードの登録・選択.....	379
機能について.....	377
空気圧バルブ／	
送信機について.....	377
空気圧表示画面.....	377
初期化.....	378
タイヤ空気圧警告灯.....	436
タイヤチェーン.....	324

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

ち

チェーン (タイヤチェーン)	324
チャイルドシート.....	43
ISOFIX ロアアンカレッジで	
固定.....	66
お子さまを乗せるときは.....	42
規格	48
固定方法の種類	62
シートベルトで固定	63
知っておいて	
いただきたいこと.....	43
テザーベルト	70
トップテザーアンカレッジに	
固定.....	70
チャイルドプロテクター	113
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	203
警告灯.....	437
操作	203
未解除走行時警告ブザー.....	438
メンテナンスデータ	485

つ

通算平均燃費	90
ツール (工具).....	449

て

ディファレンシャル	484
手入れ	
アルミホイール.....	369
外装.....	368
シートベルト	374
内装.....	373
レーダー	233, 301
デッキフック	353
テールランプ (尾灯)	209
電球 (バルブ) の交換.....	416
ランプスイッチ	209
デフォッガー (リヤウインドウ	
デフォッガー)	331
デフロック表示 ※2	
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	480
電子キー.....	106
作動範囲	129
正常に働かないとき	466
節電機能	131
電池が切れた	466
電池交換	402
電池交換 (キー)	402
電話スイッチ ※1	

と

ドア

オートドア	
アンロック機能	113
警告メッセージ	130
スマートエントリー& スタートシステム	118
チャイルドプロテクター	113
ドアガラス	166
ドアロックスイッチ	118
半ドア警告灯	436
半ドア走行時警告ブザー	438
ロックレバー	112
ワイヤレスリモコン	106
ドアハンドル照明	338
ドアミラー	161
操作	161
ドライビングポジション メモリー	150
ブラインドスポットモニター (BSM)	298
リバース連動機能	162
盗難防止装置	
エンジンイモビライザー システム	72
オートアラーム	73
トークスイッチ※ ¹	
時計	359
トップテザーアンカレッジ	70
Toyota Safety Sense	231
RSA (ロードサイン アシスト)	258
AHB (オートマチック ハイビーム)	213

LDA (レーンディパーチャー アラート [ヨーアシスト 機能付き])	248
先駆車発進告知機能	276
PCS (プリクラッシュ セーフティ)	237
レーダークルーズ コントロール	263
ドライビングポジション メモリー	150
ドライブインフォメーション (マルチインフォメーション ディスプレイ)	90
ドライブスタート コントロール	177
急発進の抑制制御	177
ドライブモードセレクト	279
トラクションコントロール (TRC)	292
トランスミッション	195
シフトダウン制限警告 ブザー	199
操作	195
パドルシフト スイッチ	197, 198
メンテナンスデータ	484
トリップメーター	84
機能	84
切りかえ・リセットボタン	85

な

内装

収納装備	343
手入れ	373
ナビゲーションシステム※ ¹	

※¹ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※² : 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

に

ニーエアバッグ.....	32
荷物	
積むときの注意.....	187
荷物固定用フック.....	353

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック).....	477
--------------------------	-----

ね

ネットフック.....	353
燃費画面.....	99
燃料	
給油.....	227
種類.....	480
燃料残量警告灯.....	436
容量.....	480
燃料計.....	84

は

パーキングブレーキ.....	203
警告灯.....	437
操作.....	203
未解除走行時警告ブザー.....	438
メンテナンスデータ.....	485
パーソナルランプ.....	339
排気ガス.....	41
排出ガス浄化装置 (ディーゼル車).....	204
ハイビーム(ヘッドランプ).....	209
電球(バルブ)の交換.....	416
ランプスイッチ.....	209
ハイマウントストップランプ 電球(バルブ)の交換.....	416
ハザードランプ(非常点滅灯)...	421
緊急ブレーキシグナル.....	293

スイッチ.....	421
電球(バルブ)の交換.....	410
ワット数.....	487
挟み込み防止機能	
パワーウィンドウ.....	167
ムーンルーフ.....	171
発炎筒.....	422
バックアップランプ(後退灯)	
電球(バルブ)の交換.....	412
ワット数.....	487
バックドア.....	118
警告メッセージ.....	130
スマートエントリー& スタートシステム.....	118
ドアロックスイッチ.....	118
バックドアガラス.....	123
バックドアステー.....	119
半ドア警告灯.....	436
半ドア走行時警告ブザー.....	438
ワイヤレスリモコン.....	110
バックドアガラス.....	123
開け方.....	123
警告メッセージ.....	130
バッテリーがあがった.....	468
パドルシフトスイッチ.....	197, 198
バニティ(化粧用)ミラー.....	357
バニティミラーランプ 装備について.....	357
ワット数.....	487
バルブ(電球)	
交換要領(外装のバルブ).....	408
ワット数.....	487
パワーウィンドウ.....	166
ウィンドウロックスイッチ....	166
閉めることができない ときは.....	167
操作.....	166

挟み込み防止機能	167
パワーステアリング	
パワーステアリング警告灯	435
パンクした	
パンクしたときは	448
番号灯	
(ライセンスプレートランプ) ...	209
電球 (バルブ) の交換	415
ランプスイッチ	209
ハンドル	
(ステアリングホイール)	156
位置調整	156
オートアウェイ&	
オートリターン機構	157
ドライビングポジション	
メモリー	150

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	292
ヒーター	
エアコン・デフォグガー	330
シートヒーター &	
ベンチレーター	336
非常点滅灯 (ハザードランプ) ...	421
緊急ブレーキシグナル	293
スイッチ	421
電球 (バルブ) の交換	408
ワット数	487
尾灯 (テールランプ)	209
電球 (バルブ) の交換	416
ランプスイッチ	209
ヒューズ	405
日よけ (サンバイザー)	357
ヒルスタートアシスト	
コントロール ※ ²	

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方	468
フォグランプ	217
スイッチ	217
電球 (バルブ) の交換	408
ワット数	487
ブザー	
LDA	248
シートベルト非着用警告	438
シフトダウン制限警告	199
接近警報 (レーダークルーズ	
コントロール)	270
パーキングブレーキ未解除	
走行時警告	438
半ドア警告	111
半ドア走行時警告	438
ムーンルーフ開警告	171
リバース警告	199
フック	
けん引フック	426
コートフック	363
デッキフック	353
フロアマット固定フック	24
ネットフック	353
フューエルメーター (燃料計)	84
フューエルリッド (給油口)	
給油のしかた	227
冬の前の準備	
(寒冷時の運転)	324
冬用タイヤ	324
ブラインドスポットモニター	
(BSM)	298

※¹ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※² : 別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

プリクラッシュセーフティ	
(PCS)	237
機能	237
PCS 警告灯	436
フルタイム 4WD ^{※2}	
ブレーキ	
パーキングブレーキ	203
メンテナンスデータ	485
ブレーキアシスト	292
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯	435
機能	292
ブレーキ付近からキーキー音が	
聞こえる	182
ブレーキフルード	485
フロアマット	24
フロントシート	136
シートヒーター &	
ベンチレーター	336
シートポジションメモリー	150
正しい運転姿勢	26
調整	136
手入れ	373
ドライビングポジション	
メモリー	150
ヘッドレスト	153
フロントパーソナルランプ	339
フロントフォグラмп	217
スイッチ	217
電球 (バルブ) の交換	416
フロント方向指示灯	202
電球 (バルブ) の交換	408
方向指示レバー	202
ワット数	487

へ

平均車速	90
平均燃費	90
ヘッドランプ	209
クリーナー	226
電球 (バルブ) の交換	416
ライトセンサー	211
ランプ消し忘れ防止機能	212
ランプスイッチ	209
ヘッドランプオートレベリング	
システム	212
ヘッドレスト	153

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ)	448
メンテナンスデータ	486
ホーン (警音器)	157
方位計	88
方向指示灯	202
電球 (バルブ) の交換	408
方向指示レバー	202
ワット数	487
保証	9
補助確認装置	164
ボンネット	389
開け方	389

ま

マスターウォーニング	436
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	87
警告メッセージ	442
車両情報	92
設定	93
ドライブ	
インフォメーション	90
マルチテレイン ABS ^{※2}	
マルチテレインセレクト ^{※2}	
マルチテレインモニター ^{※2}	

み

ミラー	
インナーミラー	159
後席確認ミラー	358
ドアミラー	161
バニティミラー	357
ブラインドスポットモニター	
(BSM)	298
補助確認装置	164

む

ムーンルーフ	170
警告メッセージ	171
操作	170
挟み込み防止機能	171

め

メーター (計器類)	84
警告灯	434
照度調整	85
表示灯	81
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	87
メーター	84
メカニカルキー	107
メモリーコール機能	151
メンテナンスデータ	480

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	488
雪道ですべて動けない	
(スタックした)	477
油脂類	480

よ

4WD システム(フルタイム 4WD) ^{※2}	
-----------------------------------	--

ら

ライセンスプレートライト	
(番号灯)	209
電球 (バルブ) の交換	415
ランプスイッチ	209
ワット数	487
ラゲージルーム	
小物入れ	353
三角表示板等収納スペース	354
デッキフック	353
トノカバー	355
ネットフック	353
ラジエーター	
オーバーヒート	473
メンテナンスデータ	484

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

ランプ

室内灯.....	338
電球（バルブ）の交換.....	408
読書灯.....	340
パーソナルランプ.....	339
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	421
フロントフォグランプ.....	217
ヘッドランプ（前照灯）.....	209
方向指示灯（ターンシグナル ランプ/ウインカー）.....	202
ライトセンサー.....	211
ランプ消し忘れ防止機能.....	212
リヤフォグランプ.....	217
ワット数.....	487
ランプ消し忘れ防止機能.....	212

り

リアアームレスト.....	363
リヤウインドウデフォグガー スイッチ.....	331
リヤシート.....	138
サードシート.....	138
セカンドシート.....	138
リヤデフロック*2	
リヤハイトコントロールエア サスペンション*2	
リヤフォグランプ.....	217
スイッチ.....	217
電球（バルブ）の交換.....	414
ワット数.....	487
リヤ方向指示灯.....	202
電球（バルブ）の交換.....	412
方向指示レバー.....	202
ワット数.....	487
リヤワイパー.....	224

る

ルームミラー （インナーミラー）.....	159
ルームランプ（室内灯）.....	340

れ

レーダークルーズ コントロール.....	263
警告メッセージ.....	273
接近警報.....	270
レーダー.....	232
レーンディパーチャーアラート （LDA）.....	248
操作.....	253
冷却水	
水温計.....	84
冬の前の準備.....	324
メンテナンスデータ.....	484
冷却装置（ラジエーター）	
オーバーヒート.....	473
メンテナンスデータ.....	484
レバー	
シフト.....	195
方向指示.....	202
ボンネット解除.....	389
ロック（ドア）.....	112
ワイパー.....	219, 224

ろ

ロードサインアシスト	
(RSA)	258
ロック	
ウインドウロック	166
シフトロック	199
スマートエントリー&	
スタートシステム.....	128
チャイルドプロテクター.....	113
ドア	110
ワイヤレスリモコン	106

わ

ワイパー & ウォッシャー	
雨滴感知式ワイパー	221
間欠時間調整式ワイパー.....	219
ワイパーブレード (寒冷地用) ...	325
ワイパーデアイサー	332
ワイヤレスリモコン	106
作動の合図.....	111
操作	106
電池の交換.....	402
ワックス	368
ワット数	487

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※2：別冊「オフロード走行取扱書」を参照してください。

ガソリンスタンドでの情報

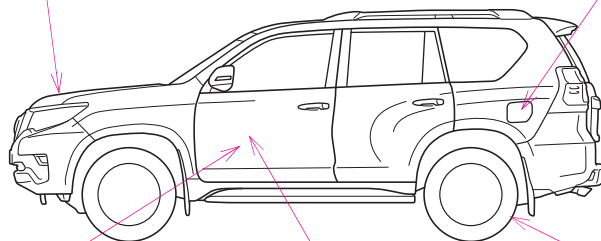
給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 389

給油口

P. 227



IIPPD065

ボンネット解除レバー

P. 389

給油口オープナー

P. 227

タイヤ空気圧

P. 486

燃料の容量 (参考値)

87L

燃料の種類

- ▶ ガソリン車
無鉛レギュラーガソリン P. 480
- ▶ ディーゼル車
超低硫黄軽油 (S10ppm 以下) P. 480

タイヤが冷えている
ときの空気圧

kPa (kg/cm²)

タイヤサイズ	前輪	後輪
265/65R17 112S	220 (2.2)	220 (2.2)
265/60R18 110H	220 (2.2)	220 (2.2)
265/55R19 109V	220 (2.2) ※ 230 (2.3)	220 (2.2) ※ 230 (2.3)

※ リヤライトコントロールエアサスペンション装着車

エンジンオイル容量
(参考値)

エンジン	ガソリン	ディーゼル
オイルのみ交換時	5.5L	7.2L
オイルとオイルフィルター 交換時	5.9L	7.7L

エンジンオイルの種類

P. 480

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>



M 60T61
01999-60T61
II-2021年5月25日
2021年6月1日 初版
ランドクルーザープラド